

平成16年度 国土施策創発調査

「源流再生・流域単位の国土の保全と管理に関する調査」

源流を中心とした流域圏に関する調査報告書

平成17年3月

環 境 省
山梨県小菅村

「源流再生・流域単位の国土の保全と管理に関する調査」
源流を中心とした流域圏に関する調査報告書

(第1分冊)

「源流を中心とした流域圏に関する調査」
山梨県小菅村における住民意向・資源活用調査報告書

目 次

第1部 概要版

第2部 本 編

はじめに

1	小菅村悉皆調査による住民意向・資源活用調査	1
1 - 1	小菅村の概況	1
1 - 1 - 1	小菅村の位置及び現況	1
1 - 1 - 2	小菅村の産業動向	1
1 - 2	悉皆調査結果	3
1 - 2 - 1	橋立地区	3
1 - 2 - 2	小永田地区	7
1 - 2 - 3	白沢地区	10
1 - 2 - 4	東部地区	14
1 - 2 - 5	中組地区	17
1 - 2 - 6	田元地区	20
1 - 2 - 7	川池地区	23
1 - 2 - 8	長作地区	26
1 - 3	小菅村全体のまとめ及び今後の課題	29
2	源流域住民の意向調査 - 小菅村村民アンケート調査より -	35
2 - 2 - 1	小菅村の概況	35
2 - 2 - 2	調査方法	37
2 - 2 - 3	住民の意識 (調査結果)	37
2 - 2 - 4	アンケート調査結果の若干の考察	56
3	小菅村における住民意識及び資源活用の現状と課題	58

第3部 資料編

1	小菅村悉皆調査調査票	1
---	------------	---

2 . 小菅村悉皆調査集落集計表	15
3 . 小菅村悉皆調査世帯調査結果票 (世帯カルテ) ~ 抜粋 ~	50
4 . 小菅村村民アンケート調査票	58
5 . 小菅村村民アンケート調査結果集計表	68

(第2分冊)

目 次

第1部 概要版

第2部 本 編

源流ネットワーク形成に関する調査	6
----------------------------	---

- (1) 源流再生の目的と今後の課題
 - 1) 源流に迫る二つの危機への対応
 - 2) 小菅の発案と源流再生モデル構築へ
 - 3) 源流再生に向け国土創発調査全体会を開催
 - 4) 源流関係者会議で目的を明確化
 - 5) 源流の風土記・源流の可視化・源流のネットワーク化

- (2) 源流再生に向け全国源流の郷協議会準備会の結成 9
 - 1) 全ての源流域へ連携組織を
 - 2) 九州から北海道までの源流へ連携組織
 - 3) 活動の成果について
 - 4) 「全国源流の里協議会」づくり
 - 5) 民間団体の源流ネットワーク形成

- (3) 先進事例に学ぶ流域管理のあり方 12
 - 1) 香川用水 水源の森保全事業
 - 2) 四万十川条例と四万十川財団について
 - 3) 十勝川の情報発信システム

第3部 資料編

1 . 全国源流の郷協議会の設立趣意書	17
2 . 全国源流の郷協議会の運営規約	18
3 . 特定非営利活動法人全国源流ネットワークの設立趣意書	21
4 . 特定非営利活動法人全国源流ネットワークの役員名簿	23
5 . 国土施策創発調査会議の経過について	24

平成16年度 国土施策創発調査

「源流を中心とした流域圏に関する調査」

山梨県小菅村における住民意向・資源活用調査 報告書

平成17年3月

環境省
山梨県小菅村

「源流を中心とした流域圏に関する調査」
山梨県小菅村における住民意向・資源活用調査報告書

目 次

第1部 概要版

第2部 本 編

はじめに

1	小菅村悉皆調査による住民意向・資源活用調査	1
1 - 1	小菅村の概況	1
1 - 1 - 1	小菅村の位置及び現況	1
1 - 1 - 2	小菅村の産業動向	1
1 - 2	悉皆調査結果	3
1 - 2 - 1	橋立地区	3
1 - 2 - 2	小永田地区	7
1 - 2 - 3	白沢地区	10
1 - 2 - 4	東部地区	14
1 - 2 - 5	中組地区	17
1 - 2 - 6	田元地区	20
1 - 2 - 7	川池地区	23
1 - 2 - 8	長作地区	26
1 - 3	小菅村全体のまとめ及び今後の課題	29
2	源流域住民の意向調査 - 小菅村村民アンケート調査より	35
2 - 2 - 1	小菅村の概況	35
2 - 2 - 2	調査方法	37
2 - 2 - 3	住民の意識（調査結果）	37
2 - 2 - 4	アンケート調査結果の若干の考察	56
3	小菅村における住民意識及び資源活用の現状と課題	58

第3部 資料編

1	小菅村悉皆調査調査票	1
2	小菅村悉皆調査集落集計表	15
3	小菅村悉皆調査世帯調査結果票（世帯カルテ）～抜粋～	50
4	小菅村村民アンケート調査票	57
5	小菅村村民アンケート調査結果集計表	67

第 1 部 概要版

第1章 小菅村悉皆調査による住民意向・資源活用調査

多摩川上流に位置し源流域として重要な位置を占める小菅村において、今後の各事業に資するため、上下流の連携事業及び土地資源の活用・管理について住民の意向調査を行った。

悉皆調査であり、調査員が各世帯に訪問し聞き取り方式で行った。基本的に世帯主に対して聞き取り調査を行ったが、世帯主が長期不在や体調不良等の理由により聞き取り不能の場合はその家族に対しておこなった。平成17年2月末現在での村内の世帯数は365世帯であり、調査期間中に聞き取り調査を行えた世帯は272世帯で74.5%となった。

結果は以下の通りである。

1. 林業および林地について

林地及び森林を所有しているものは169世帯となっている。所有面積は大規模になると100ha以上所有している世帯もあるが基本的には5ha未満での小規模所有である。地区ごとにみると白沢、東部地区に大規模又は中規模所有者が多いようである。これらの森林はスギを中心とした人工林がほとんどで戦後植えられた4・50年生のものが多くなっているが、大規模所有層の森林では80年生や100年生以上の針葉樹もみられる。育林に関しては主に自家労力で施業が行われてきており、大半の所有者は下刈り、除伐の時期を終え間伐期から主伐期に入っている。しかし、近年の林業事情から間伐の実施が遅れている所有者も多い。また、森林を訪れ様子を見る回数が近年減少しており、数年間にわたって森林の様子を見に行っていないものも少なくなく、境界までが不明瞭になっている場合もある。以上のような問題は今後一層増加する可能性が考えられることから早期に何らかの対策をすべきである。

今後の森林管理に関しては「自分で管理し続ける」という回答が多いが、これは「施業がほとんど終わっており何もすることはない」場合と「間伐等の施業が残っているがお金をかけても元が取れないから自分で」という場合に分けられ、後者の方が多くなっている。また、「放置する」という所有者も半数近くおり、何らかのインパクトがない状態では森林管理はなかなか進まないことが懸念される。上下流の連携による森林管理に対しては所有者の8割近くが好意的であり林地を提供しても良いとしている。その際の条件としては、実際に提供することになった場合の状況によるという意向がほとんどであった。また、林地提供に関しては所有者が「体験作業に適した森林」を自分でイメージしていることも多く、「自分の森林は体験作業に適していない」と判断していることも多いためこの点についての説明・調整も必要であろう。

2. 生活面の状況と課題

小菅村において住民生活圏は長作地区とそれ以外の地区に大きく分けることができる。長作地区は基本的な買い物や就業先さらには余暇における外出先等が上野原、山梨方面に

なることが多く、それ以外の地区は奥多摩や青梅等の東京方面に向いている。買い物についてはどの地区でも5件ほどある移動商店で日々の買い物を済ませていることが多いが、村中心部の多い川池、橋立、田元地区では村内商店の利用も多くなっている。

生活で不便を感じる点についてはどの地区でも共通して「医療施設」があげられている。また、子どもがいる家の場合には教育問題が多くあげられ、高校進学の際に大きな問題を抱えるという。地区内で残したいものについてはどの地区も自然関連の回答が多く住民のなかで重要視、価値の再確認が行われているようである。また、橋立、小永田地区では神楽や神社などの伝統芸能を多く回答する地区もみられた。特にこの伝統芸能に関しては人口の減少から実施しづらくなっている行事ややらなくなった行事などがあることが明らかになっており、文化・伝統の継承や観光資源の保全の観点からも保存の手だてを考えていく必要がある。

3. 意見要望等

1) 上下流住民の交流に関する意見要望

上下流住民の交流に関してはどの地区においても好意的に捉えている住民が多いことが明らかになった。しかし、実際に交流の現場に参加するかとなると二の足を踏む住民がほとんどであった。自分に何が出来るかわからない、出来ることがないと考えている人が多く、また、交流活動で何をやっているかわからないという回答も多くみられた。今後はこのような人々へのアプローチも必要であり、これにより多くの人材の掘り起こしと、交流プログラムの充実多様化が図られるのではないだろうか。また、民宿、旅館の多い地区では宿泊型の交流への参加者を増やして欲しいという意見が多くみられ、そのための準備を行っているグループもあるようである。

このように交流に関しては住民が好意的に捉えていることが多いため今後様々なアクションやアプローチを積極的に起こすことが望ましい。また、このとき行政主導よりは住民主導になるよう手助け、誘導することが望ましいと考えられる。

2) 村の発展および行政に対する意見・要望

多くの意見があげられたが、それらは過疎化対策、雇用問題対策、高齢化対策の3つに集約される。すなわちこれが行政に対する要望でもある。これら3点は個人では解決しにくい問題であり、行政側の包括的な対応が求められている。

また、村の発展についてはこれまでは住民の意見特に若者や女性の意見をあまり言う場所や活動がなかったが今後はこれらの人の意見をもっと聞いて実行してみるべきであるという意見が年齢・男女を問わず聞かれた。さらには村外の住民の意見やニーズを積極的に探り、取り入れることも検討するべきであるというものも多い。これにより新たな方策や活動が見いだされると期待している人が少なくないようである。新しい方策としては特に、自然を生かした村独自のやり方(観光産業の発展)が求められている傾向にある。さらに、情報の整備・伝達を求める意見も多く、これまで役場中心にいろいろな事業を展開してきたがその情報が伝わらず参加や発言を逃したという意見も少なくない。

4. 今後の課題と提言

悉皆調査の結果より、小菅村における住民の意向と資源活用については、全村民参加・企画型の交流事業（プログラム）を中心としたアクションを様々に起こすことが1つの方向であると考えられる。事業は 日帰り型や長期滞在型など日程を設定したもの、老人や子ども、家族、クラブ活動等参加者のターゲットを絞ったもの、レクリエーション型、学習型の体験目的、自然体験、文化・芸能体験の分野目的など様々に考えられ組み合わせることが可能である。小菅村は恵まれた自然を持つ農山村であるとともに、東京都という大都市を下流域、近距離に持つ立地条件にも恵まれていると言える。また、住民の就業構成比をみても観光産業に従事するものが少なくないことから活性化には村に人を呼ぶことが必要である。これまでもそのための事業は数々行われてきたが村民の意見をまとめると、これまでは村主導で関わっている人が少なく、また、その情報が伝わってこないという意見が多いことが明らかとなった。さらに、若い人や女性の意見があまり反映されてこなかったという意見も多い。実際にこれらの人に聞き取ってみると何かしらの意見や事業案を持っているものも少なくない。予算や人材の関係から大きな事業を行うことが難しい現段階において、小規模であっても村民発の様々な事業を行うことにより、人材の掘り起こしや意見の集約、さらには事業（プログラム）のノウハウが蓄積されると考えられる。なお、これらの実行のためには上下流住民の連携もさることながら村内住民の連携が必要であり、情報の一元化や、事業案の提出先・検討先等を整備するなどクリアすべき課題も多い。しかし今後は森林以外にも交流事業を様々なフィールドに広げ、村民を巻き込むことが必要であると考えられる。

第2章 源流域住民の意向調査 - 小菅村村民アンケート調査より -

本調査は、源流域の住民は、現在の生活や生産環境についてどのような意識を持っているのか、また、地域（居住地域）の将来についてどのような考え方をしているのかを明らかにするために、多摩川の源流である山梨県小菅村をモデルとして村民アンケートを実施し、村民の意向と資源活用の実態について明らかにすることを目的とした。

1. これからの小菅村に必要な施策について

これからの小菅村において特に優先して進めるべき施策については、536名が回答しており、最も多い項目が高齢者のための福祉施設と在宅福祉サービスの充実を図るとするものが238名、44.4%。次いで、山林、河川等の自然環境の保護と美化を図るが208名で38.8%、集落道・林道の道路交通網の整備を図る170名、31.7%、消防、防災等、防災対策の充実を図るが108名、20.1%となっている。

また、21世紀における小菅村のあり方については、565名が回答しており、保険、医療サービスがいきとどいた、安心して暮らせる集落が54.9%と過半数を占め、次いで、水や空気のきれいな自然が今のまま残され、うるおいのある集落が39.3%、交通網や情報通信網が発達した便利な集落が29.2%、犯罪、災害のない安全な集落が28.3%、人情豊かで、地域住民間で、交流が活発な、ふれあいの多い集落が26.2%、産業活動が活発な活力ある集落が24.4%となっている。以上のように村民は、これからの村に対して甞経緯医療サービスの充実や美しい自然を保全した、人情豊かな村というソフト面での発展を望んでいる。

2. アンケート調査結果の若干の考察

アンケート調査の結果を元に若干の考察とこれからの課題をまとめると次のようになる。

第1は、高齢化・少子化が急速に進んでいることである。こうした傾向は急速に地域を変貌する要因となっていくことになろうが、村民はことのほか将来に対する不安はすくなく、日常生活をそれなりにエンジョイしているように見える。とはいえ、若い層においては仕事がないこと等から将来は村外に出ようとしているものも少なくない。村の産業を見直し、多様な年齢層が総合的に関わるような基幹産業の創出が課題であろう。それは、現在、村が先頭に立って勧められているような都市との交流事業を地域の自然的、人文的資源を有効に活用するシステムの構築であると同時に、誰でもが参加でき、経済性を生む新たな産業形態といことになる。

第2は、小菅村の日常生活に必要な物資や東京方面から購入するなど経済圏は完全に東京経済圏属しているといことである。したがって、村民の経済的な意識の大半は、東京方面則ち多摩川の下流域に向いていることにある。したがって、これからの産業や生活の基盤は、村内の資源を活用して特有の「源流産業」を構築するとしても、その販路や交流の主体的なベクトルは東京方面に向くことになる。そのための経済的、社会的な整備が村活性化のための必修の条件となる。

第3は、村民の年齢層が高くなっていることから高齢者向けの新たなインフラの整備が必要になってきていることである。それは、病院や介護施設などのハードな分野ではなく、生きがいや健康あるいは楽しさ等を基本とする日常生活のケアということになる。そのためには、小菅源流ファンを創出し、下流域からの交流人口を拡大するとともに、古くから培われてきた文化そのものを交流商品として提供できるような仕組みであろう。

第4は、荒廃しつつある自然資源の問題である。かつて農林業によって守られてきた森林や農地、河川は、進む少子・高齢化の中で、放置林や遊休農地さらには管理されない河川等が増加し、総体的に地域資源が荒廃している。この荒廃しつつある地域資源を適正に管理するシステムの構築が緊急の課題といえる。「源流再生プロジェクト」の構築が必要である。

第5は、過疎の問題である。現状では微減の段階にあるが、これを10年とか15年のサイクルで見ると、住民意識調査でも明らかなように、多くは村を愛し、村にとどまることを決心しているが、少なくない人が村外流出を意識していることも事実である。それは人口の流出ではなく世帯の消出につながることから第1の問題とも連動する課題でもあるが、源流域の自然を守るという運動と交流人口を増加させるとともに、流域を上げての自然再生プロジェクトと国の財産を守る産業としての「源流再生産業」を構築する必要がある。

第6は、子ども達の課題である。アンケート結果に明らかなように、子ども達は小菅村を愛し、小菅村をふるさととして誇れるような故郷（源流の里）として発展することを願っている。それは、貴重で、優れた自然が存在するといことだけではなく、それらの自然資源を活用した社会的に重要な産業がわが村に存在していることへの憧れも伺える。とすれば、子ども達に他にはに自然と文化の中で生まれ、育ったという自信と新たに小菅村の社会貢献的なところを教育カリキュラムに加える必要がある。それは、下流域の子ども達

との自然体験や源流体験などの交流場や村全体が環境教育の教室となるような「源流教育」の構築が必要といえる。

第3章 小菅村における住民意識及び資源活用の現状と課題

小菅村源流一帯は、ブナやミズナラ、カツラやシオジなどの巨木が生い茂り、全国的にも珍しいシオジの天然更新が見られるなど、学術的にも注目されているところである。ところが、そのすぐ下流域に存在する数集落からなる小菅村や丹波村は、今日の農林業の厳しい環境や長引く平成の深刻な不況や行財政の逼迫などによって、基幹産業である農林業の解体、公共事業に頼る土木建築関係の不況等から存続の危機的状況に陥っている。この状態を早急に打開しないとみどり豊かな国土は大きく損壊し、多くの災害を及ぼすことになる危険性がある。そこで、小菅村をモデルに住民の意識や資源管理の現状を明らかにしてきた。既にみたとおり、地域におけるかつての土地管理や河川管理など地域資源管理のシステムは大きく変質している。また、住民の意識も進む高齢化と少子化の中で、何とか新たな活性化の手法を模索しようとしているが、これといった妙案があるわけではなく、今日のグローバルな経済社会にあって流され、自らあきらめムードが漂っているところも少なくない。

この様な中で、源流は国民生活に欠かせない地域であること。源流を守ることは源流域のみならず下流域まで、ひいては国全体の環境を守ることにつながることなど、源流に対する認識を大きく転換する時代にきている。

一方、21世紀は環境の時代といわれる。新しい世紀には新しい価値が生まれる。経済優先から人間尊厳の社会へ、さらに大量消費から持続可能な循環型社会への大転換は21世紀の直面する重要な課題である。モノの豊かさから心の豊かさを求める時代へと人間生活の価値観は確実に変化するのであろう。生産力優先ではなく健全な生活優先の社会を持続的に形成することである。人間は日常生活の中に憩いや余暇、ゆとりなどを取り入れ、山や森、川などの自然と素朴な人々との交わりを通して、本来の人間らしさを回復する自発的行動を活発化するであろう。誰でも、源流の爽やかな風や清らかな流れの中に身を置けば、ひとりでに疲れを癒し、新鮮な気分と研ぎ澄まされた感性を取り戻し、明日への糧を得ることができる。源流の美しい自然と素朴な人間性にかけての価値を見いだす時代が必ず到来する。社会の高度化、情報化が進展すればするほど、自然と人との心の通った触れ合いがますます大切になるだろう。

こうした中で、源流域を守る新たな課題と事業を上げると次ぎようになろう。

源流再生緊急対策事業

国土防災情報システム化事業

源流自然再生事業

源流体験促進事業

源流景観整備促進事業

源流教育促進事業

源流の里整備事業

第2部 本編

はじめに

源流域の森林は、木材生産をはじめ、水源の涵養、国土の保全、保健・教育の場、CO₂の吸収・固定化、多くの生物への生息地の提供など多様な機能と役割を有している（森林の公益的機能）。森林の存在は、国民が豊かな経済生活を営み、魅力ある社会を持続的かつ安定的に維持する上で必要不可欠なものであり、社会的共有財産と言えよう。

今日の源流域をめぐる諸環境は、基幹産業である農林業が益々厳しくなる中で、進むグローバル化や平成の大型合併のあって、急速な構造変化を余儀なくされている。

特に、源流域の森林は、重要な転換期を迎えている。源流の森林は天然性林のみでなく薪炭林あとの森林や人工林など多様な森林から成っている。特に、戦後の拡大造林によって植林されてきたスギやヒノキの人工林は、木材価格の大幅な下落や長期的な低迷さらには木材利用の構造的な変化などによって、森林所有者の森林や林業離れがすすみ、森林の荒廃が急速に進行している。一度人間の手の入った人工林は、百年単位の途方もなく長い年月をかけて自然林に戻していくか、手を入れ続けて維持・管理していくことが基本である。

一方、広大な山を抱える山村は、厳しい社会情勢の中で、山村や山林所有者だけでは森林を管理することが出来なくなっている。こうした現状を踏まえ、それでも共有の財産である森林と山村を守り、都市と山村の共存を図るため、新しい発想のもとでこの人工林管理が行われる事例が生まれている。多摩川上流域においても小菅村などに置いて下流域の住民との協働による「森林再生事業」が展開している。

こうした現況をふまえて、源流域の森林資源現況及び住民の意識や農民の資源管理の現状と将来の意向をアンケート調査と悉皆調査によって明らかにし、これからの源流域の活性化と国土創発事業への取り組みの可能性について検討したものである。

なお、本調査は国土交通省の国土創発調査事業の環境省自然環境局の分野を小菅村が請け負い、それを東京農業大学森林総合科学森林政策学研究室に委託して実施した調査研究の結果である。東京農業大学宮林茂幸教授の指導のもと、同大学院の杉野卓也氏（第2部1章及び資料編担当）、研究生の石坂真悟氏（第2部の2章及び資料編担当）をはじめ多くの学生諸氏に感謝を申し上げる次第である。

平成17年 3月31日

山梨県小菅村

1 小菅村悉皆調査による住民意向・資源活用調査

1 - 1 小菅村の概況

1 - 1 - 1 小菅村の位置及び現況

小菅村は、秩父多摩国立公園内にあり、東京都内を貫流する多摩川の源流部に位置している。東西 14km、南北 7km で、総面積は 5,265ha、標高は奥多摩湖面の 530 m から大菩薩連山の 2,000 m までと高低差に富み、総じて急峻な地形となっている。村面積の 95 % を森林が占め、その内の約 3 割に当たる 1,630ha が東京都の水源涵養林である。

2005 年 4 月 1 日現在の人口は、1,086 人、世帯数 367 と極めて小さい村であり、高齢化率が 32 % と極めて高い典型的な源流域の山村である。急峻で耕地が少ない村内には、橋立、川池、田元、中組、東部、白沢、小永田、長作の 8 つの集落が構成されており、橋立から小永田までの 7 集落は多摩川水系の小菅川沿いに形成され、長作集落は相模川水系の鶴川沿いに形成され、標高差が 540 - 780 m の谷間に存在している。

都心から 80km 圏内にありながら、ミズナラやブナ、シオジなどの原生林、ツキノワグマやイノシシなどの大型哺乳類や様々な野鳥、昆虫から他種の山野草など、豊かで、優れた自然と古くから培われた伝統的な文化が残されているという特徴があります。

小菅村へは、奥多摩町、檜原村、上野原町、大月市、塩山市の 5 方面からの経路があり、奥多摩町からは村営バスへの連結を含め平日 4 本、祝祭日 5 本の路線バスが運行している。ちなみに、それぞれの所要時間などは次のとおりとなっている。

多摩西部や埼玉方面 青梅市から 40km、約 60 分

中央高速上野原 I C 県道上野原・丹波山線経由で 30km、約 50 分

中央高速大月 I C 国道 139 号線経由 35km、約 60 分

中央高速塩山勝沼 I C 国道 411 号線経由 45km、約 80 分

中央高速八王子 I C 青梅市または檜原村経由とも 60km、約 90 分

1 - 1 - 2 小菅村の産業動向

小菅村の産業動向は、1950 年代までは農林業などの第 1 次産業が就業者の半数以上を占めており、その後、わが国の高度経済成長を反映して、過疎化と都市化の波が急速に押し寄せる中で、土建業を中心とする第 2 次産業や奥多摩町や青梅市などの第 3 次産業へと順次移行し、近年では、第 1 次産業 15 %、第 2 次産業 43 %、第 3 次産業 42 % となっている。

それぞれの特徴をみると第 1 次産業では、わさびやこんにゃくの栽培、茸の施設栽培、観光用のヤマメ・イワナなどの養殖業が中心となっている。特に、わさびは県下でも有数の生産量を上げ、また、養殖業は先進地として卓越した技術を誇っているが、

いずれも急峻な地形や厳しい気象条件など、さらには、近年の農林業をめぐる厳しい諸環境から就業者の高齢化や後継者不足など年々縮小傾向となっている。また、村の大半を占める森林については、戦後に造林された人工造林地が約 43 %存在するが、長期的な木材価格の低迷の中で農家や林家をはじめ森林所有者等の林業離れ、森林離れが進んでいる。その結果、森林荒廃や農地の遊休化が進むなど源流域での土地管理が行き届かない状況となっている。このことはそのまま放置すると森林崩壊や土砂崩れなどが多発する危険性や洪水の危険性を増すこととつながり大きな問題といえる。

第2次産業は、精密機械類などの製造業、土建や建築などの建設業などが僅かにあるが、平成の不況を諸に受け低迷を続けている。

第3次産業では、サービス業、卸小売業、公務がほとんどで、中でも観光関係を中心としたサービス業が多くなっている。とはいえ、キャパシティー、資源活用、企画力などにおいて必ずしも整備されていると言い難く、観光サービス産業が基幹産業には成長していない。そのような中で、1994年にオープンした日帰り温泉施設「多摩源流・小菅の湯」は、年間10万人以上の新たな入り込み客があり、近年の体験農林業や自然散策ガイド、低農薬有機栽培による農産物の直売など、第1次産業と観光業を連携させ、都市との交流によるシステムづくりを進め、小菅村の特性を活かした新たな産業の創出が期待される。

このように、小菅村は、多摩川の源流域にあってかつての基幹産業であった林業あるいはわさびなどを中心とした特用林産部門は大きく縮小し、変わって展開した土木建築業は、公共事業の縮小や平成の不況の中で不振となっており、他方、生き残りの重要な要とする観光サービス産業部門は未だ途上ある。さらに、国の行・財政改革路線によって進められている平成の大合併については、行政規模や経済的位置などから合併がままならないなど存続の危機的な状況にある。

いま、全国的に源流は急激な過疎と高齢化、少子化の荒波にさらされている。このまま推移すれば源流域の村や町の存続基盤が危うくなりかねない。そうなると自然は荒廃し、至る所の河川環境が悪化するとともに、土砂崩れや洪水の多発となり、みどり豊かな国土はぼろぼろの茶色で脆弱な国土と化すであろう。いうまでもなく流域全体が良くなってこそ自然や川は守られるが、流域の中でも特に源流は大切な位置にあるとともに、流域のシンボルといっても過言ではない。水を生み出す源流は流域の宝であり命である。源流を良くすることは、とりもなおさず流域全体を良くすることを意味する。

こうした中で、源流域の生活や土地管理の実態を明らかにし、源流域住民の将来に対する意識などについてアンケート調査と悉皆調査を行い、地域特性や地域資源管理の特徴あるいは地域資源の掘り起こしと可能性を検討し、源流域活性化について検討した。

1 - 2 悉皆調査結果

悉皆調査は平成 17 年 3 月 3 日より 28 日の期間に行われ、調査員が各世帯に訪問し聞き取り方式で行った。基本的に世帯主に対して聞き取り調査を行ったが、世帯主が長期不在や体調不良等の理由により聞き取り不能の場合はその家族に対しておこなった。平成 17 年 2 月末現在での村内の世帯数は 365 世帯であり、調査期間中に聞き取り調査を行えた世帯は 272 世帯で 74.5%となった。なお、調査票及び集計結果表は資料編（第 3 部）に添付する。

また、悉皆調査の結果は地区（集落）を単位として集計し、以下地区ごとにその結果及び住民の意向を明らかにしていく。

1 - 2 - 1 橋立地区

地区内世帯数 61 件

聞き取り件数 50 件

以下聞き取り結果に則して

世帯数 50 世帯（1 世帯平均 2.9 人）

居住人口 143 人

平均年齢 53.4 才

橋立地区は小菅村の最西部に位置し、国道 134 号線から雄滝・白糸の滝へむかう県道沿いに位置し、小菅川左岸に集落が分布している。

1. 橋立地区の概要

1) 年齢分布

年齢分布は表 - 1 のとおりで 60 代以上が 5 割を占める極端な年齢構成となっており、50 代を含めると約 7 割に達する。

30 代以下の若年層は、20 代・30 代は減少傾向であったが、10 代以下の層では 20 代の 2 倍以上の増加に転じている。この 10 代以下層がいる世帯は、2～3 人の兄弟や姉妹であり、一人っ子の世帯のないことが増加に寄与しているものと思われる。

2) 就業状況

就業状況について表 - 2 より、集落内の就業者数は 55 人である。このうち農林業関係者は 7 人で、集落内就業者数の 12 %を占め、自営者は 13 人（23.6 %）で養殖業者、土建業、商店で構成されている。また、パートタイムは 11 人で全員、村内に勤務している。

勤務地では、就業者の大部分が小菅村内へと勤務している。村外への就業者は、丹波山・青梅である。

表 - 1 橋立地区年齢分布

	人数	全体(%)
10代以下	14	9.8
20代	6	4.2
30代	8	5.6
40代	9	6.3
50代	30	21.0
60代	22	15.4
70代	36	25.2
80代以上	13	9.1
不明	5	3.5
合計	143	100.0

表 - 2 橋立地区就業状況

職業	人数	村内	村外
農業	4	4	0
林業	3	3	0
自営	13	13	0
団体職員	4	3	1
公務員	4	3	1
会社員	16	15	1
パート	11	11	0
合計	55	52	3

自営は商店・養殖・その他を含めた数値である。

2. 橋立地区の農林業

1) 農業について

農地所有世帯は 33 世帯で、所有面積では最大が 3 ha、最小が 0.01ha となっており平均所有面積は 0.3ha である。表 - 3 より所有面積0.1~0.5ha未満の世帯が全体の約 5 割 (32 世帯) を占め、そのなかでも0.1~0.2ha所有世帯が8世帯を占めている。専業農家はなく、兼業農家または自家用のみの栽培で、農産物の出荷はあまりみられない。農産物を多少出荷している 5 戸は、そばの出荷 3 戸とわさびを業者に出荷している 2 戸であるが出荷金額はほとんど無い。これら農地で作付している品種は、露地野菜、こんにゃく、そば等である。また、耕作放棄地に柿や梅を植えて自家用に消費している農家は10戸あった。

農地の貸借については同地区の親戚関係での貸借が多く、面積は最大0.5haで最小0.02 haであった。また貸借に関して貸付料等の金銭的な契約は見られなかった。数件の農家では東京都から水源林の一部をわさび田に使用するために借りており、その面積は0.1h~0.5haで貸付料は年間数千円程度である。わさびの値が下がり最近は使用していないが、金額的に負担ではないので所有している農家がある。

農地所有農家のうち耕作放棄地がある農家は28戸で全戸のうち約 5 割にあたる。これら耕作放棄地には以前こんにゃく、そば、麦等が栽培されていたが、農産物価格が低下したためと、農業従事者の高齢化による放棄が大半をしめる。また耕作放棄年は表 - 4 より昭和60年以降が多く特に平成 5 年以降に放棄した農家が10戸となっている。耕作放棄地の今後の管理意向は半数以上が今後も放棄するとしているが、約 2 割の農家では自分出来るまでは自分で管理するとしている。

表 - 3 橋立地区農地所有面積

	世帯数	割合
1ha以上	2	6.1
0.5～1.0未満	9	27.3
0.1～0.5未満	16	48.5
0.1未満	6	18.2
合計	33	100.0

表 - 4 橋立地区耕作放棄年

耕作放棄年	件数
昭和30年以前	2
昭和40年代	4
昭和50年代	4
昭和60年～平成5年	8
平成5年以降	10
合計	28

2) 林業について

森林所有世帯は37戸であり、5ha未満の小規模所有層が10戸、5ha～15haは6戸、20ha～50haは4戸、90haは1戸、不明16戸となっていた。これら大部分の森林は針葉樹の人工林であり生育状況は40～50年生の戦後植林されたスギ・ヒノキ林である。

育林状況に関しては、ほぼ全戸自家労力で行なっている。訪問回数に関しては、小規模所有層では枝打ち間伐までは終えている世帯もあり、もう手を入れるところが無いため山には行かない所有者が多く、所有面積の不明な所有者は普段から山への興味が薄いためか山には行っていないことが多い。また所有面積が大体わかっている所有者は年に何回かは山に行っており、しかしそのような所有者は趣味的に育林をしている者が多く、今後山にお金をかけてまで整備は行なうつもりがないとしている。

交流事業への提供に関しては約8割が「提供してもよい」と好意的な回答を得られたが、活動場所の状況としては「交通の便がわるい(遠い)・急傾斜・面積がせまい」等が寄せられ、また作業内容等について「怪我をされると困る・(提供者の)施行計画に沿った形で行なう・疎にしないでほしい」等の条件が挙げられた。また「提供しない」所有者は「自分で管理できる・他人にやらせたくない・そのままにしたい」等の意見が挙げられた。

3. 生活に関して

橋立地区の住民の買い物については、日用品や肉・魚介類については移動商店と村内の商店、青梅市を利用している場合がほとんどであるが、病院や余暇を利用して青梅市に出たときに衣類や食品、電化製品等を購入していることも多いようである。

集落に暮らしていて不便を感じる場所については、「医療関係」がどの住民からも挙げられ、以前は小菅診療所に常駐の医者が居たが、最近医者が常駐ではなく丹波山村から週2回来るようになったので不便とを感じる住民が多く、また今後自分が高齢になったときや、突然体調が悪くなったときにすぐに診察できない不安を感じている。また車が無いと移動が困難なため交通の便がわるい、産業がないため仕事がないという意見も挙げられた。また、昔から住んでいるから不便とは思わないと思う意見も3割弱あった。

また「道路が整備された・トイレが水洗になった」「希望の館・小菅の湯が出来た」等の生活環境・観光施設の整備が進んだという意見があったが多くはなかった。

集落の好きな場所については 50 戸中 20 戸が「無し」となり、地区への興味関心があまり薄れているのと捉えることが出来るのではないだろうか。その他は「神楽や伝統芸能」と「自然」と答えた住民が多く、少数ではあるが「近所づきあい・人情」であった。余暇活動やよく行く場所については、多くの住民が近所の友人宅に行くや家にいる、畑や山に行くと答えており、また買い物に青梅市に行くという答えも多かった。

集落の郷土料理や得意料理についての項目では、郷土料理としてこんにゃく、そば、けんちん汁が一番多く挙げられ、またおぼく、川魚の煮付等もあげられた。得意料理としてもけんちん汁、そば、こんにゃくが大多数を占めた。

4. 意見要望等

1) 上下流住民の連携に関して

住民の関心は大きく二つに分かれており、一方は定年以上層で若い者に今後の村の事業・方向性は任せるような意見や、交流事業に関係していないためにわからないという意見が多く、他方は「若い人が入ってきて良い」、「どんどん行なって欲しい」「森林作業を行い森がきれいになった」等の意見が寄せられた。また、これから交流事業を行っていく上で、村の良さを維持、交流事業をきっかけに若い人が働ける仕事場の創設を期待する声のほか、「観光業だけが騒いでいる」「日帰りだけでは交流できない」「いろんな人と知り合いになるのはいいけど、神経を使う人には大変(もてなし)」「空家利用」等の今後の交流事業の行ない方や可能性を指摘している住民もいる。

2) 村の発展について

村の発展については、「働く場の確保」が一番の要であると答える住民が多く、この問題をどうにか解決しないと、他の人口減少や少子高齢化等も解決できないとしていた。また、現状維持やわからないと答える住民も過半数おり、現時点で生活できているため深く小菅村の今後について考えていないためと、高齢者ではこのようなことについて口を出さず若い者に任せ、自分の生活重視になっているためであると思われる。

3) 行政に対する要望

産業の活発化を願う意見が多く、若い人が住める環境にするためにも働く場所の創設や、医療(医者)の常駐、情報の整備(交流事業に関して、参加していない人にもどんな事業を行なっているのか詳細にわかるようにして欲しい)が挙げられた。

1 - 2 - 2 小永田地区

地区内世帯数 46 件

聞き取り件数 32 件

以下聞き取り結果に則して

世帯数 32 世帯 (1 世帯平均 2.6 人)

居住人数 86 人

平均年齢 53.8 才

小永田地区は小菅村の西側中央部にあり、国道 139 号線と県道上野原・丹波山線を結ぶ村道沿いに集落が分布している。また、集落から北側にはずれた場所に「原始村」という観光施設がある。

1. 小永田地区の概要

表 - 5 小永田地区年齢分布

1) 年齢分布

年齢分布は表 - 5 のとおりで 70 代 (22.1 %) が最も多い。ついで 60 代 (18.6 %) となっており、高齢者といわれる 60 代以上の比率は約 5 割に達している。

30 代の割合が他の集落より比較的高くなっているが、主婦と見られる女性が多くなっている。また、この地区においても他地区と同様に 20 代の割合が極端に低くなっている。

	件数	全体 (%)
10代以下	11	12.8
20代	2	2.3
30代	11	12.8
40代	8	9.3
50代	13	15.1
60代	16	18.6
70代	19	22.1
80代以上	6	7.0
合計	86	100.0

2) 就業状況

表 - 6 小永田地区就業状況

就業状況について (表 - 6) 集落内の就業者数は 37 人である。このうち農林業 (第一次産業) 関係は 1 名となっており、その他は会社員、公務員等の第 3 次産業となっている。

また、勤務地についてはほとんどが小菅村内であるが、会社員においては青梅、奥多摩などの村外勤務者がおり、車で通勤している。

職業	人数	村内	村外
農業	1	1	0
林業	0	0	0
公務員	5	5	0
団体職員	0	0	0
会社員	19	16	3
自営業	8	8	0
パート	4	4	0
合計	37	34	3

2. 小永田地区の農林業

1) 農業について

農地所有世帯数は 24 戸となっており、面積では最大が約 1 ha、最小が 0.01ha となっているが 0.1ha 未満の所有規模層が多い。このうち販売農家は 2 件でどちらも物産館にのみの販売であるが年間の販売額は 1 件が 2 ~ 3 万、もう 1 件が約 60 万とかなりの開きがある。しかし、作付け面積を見ると両者に差はない。また、これら農地で作付けされている品種は、露地野菜、こんにゃく、そば等である。農地の貸借については同地区の知人関係での貸借が多くなっているが面積としては大きくても 0.1ha 程度でほとんどが 0.05ha 未満であった。

農地所有 24 戸のうち、耕作放棄地があるとしたものは 10 戸で約 4 割となっている。耕作放棄面積は所有規模の違いから様々であるが、所有面積に対して 2 ~ 6 割程度が耕作放棄地となっている。これら耕作放棄地ではそれまで、こんにゃく、麦等が栽培されていたが放棄の理由として農作物価格の下落による不採算性、従事者の高齢化が多くあげられている。また、耕作放棄時期は昭和 60 年代以降に順次発生してきており、一件のだけを見た場合でも耕作放棄地が次第に広がっているようである。これらに対して借り手を捜すような働きかけをしてみたこともあるようだが、地区内さらには村内までが似たような状況であるためなかなか解決には至らないようである。従って今後の管理意向については、半数以上の所有者が今後も放棄するとしており、なかには畑に植林をしたいという意向を持っている所有者もみられる。

2) 林業について

森林所有世帯は 18 戸であり、5 ha 未満の小規模所有層が 3 戸、10ha ~ 80ha までの中規模所有層が 5 戸となっている。また、所有面積が不明という所有者が 8 戸あり面積の把握状況が悪化しているようである。これらの面積がわからない所有者は数カ所に森林を持っている場合が多く、行ったことがない場所というのも存在しておりそのような場所では当然境界も不明瞭になっている。森林はほとんどが針葉樹の人工林であり、人工林率は他の地区に比べても高いものとなっている。生育年数は 40~50 年生前後のものが中心である。

育林状況に関してはほとんどが自家労働力で行っており、森林組合に委託や分収契約を行っているものはごく一部にすぎない。施業自体既に終わっているという所有者は 5 戸程度で、大部分の所有者が間伐等何らかの施業が残っているようである。また、この地区の所有者は比較的森林に訪れ様子を見ているようで年間に 10 回程度は行っているようであるが、自宅から森林までの距離が比較的近いということも要因として考えられる。これまでの林業収入については全戸で無いということであり、自分の家に使ったという所有者が数戸みられた。これら森林の今後の管理についてはほとんどが「管理する」としているが、管理の方針を聞いてみると自分でやる以外に森林組合に委託するという意向も比較的多くあがっていた。なお、近年盛んに行われている交流事業による森林施業・管理に対しては 7 割程度の所有者が提供しても良いと回答しており、その条件は特に挙げられておらず施業内容や活動次第とすることである。

3. 生活に関して

小永田集落内の住民の生活で、まず買い物については、日用品等は移動商店及び青梅市等で購入している場合がほとんどである。移動商店はほぼ全世帯が利用している。他方、家電品等の大きな買い物は青梅市近辺まで行く必要があり、それらの店舗で購入し、配達をしてもらうことがほとんどである。

また、集落において不便であると感じていることについては、半数以上の住人が「ない」としていることが特徴的である。「長年住んでいるからもう慣れた」という理由が多かった。その他については医療関連の不満が数件あがっている。また、この地区特有のものとしては雪が多くて不便であるという意見が多くみられた。近年の変化については、人口減少や高齢化に関するものが多く、その他仕事場が減ったという意見がほとんどを占めている。余暇活動やよく行く場所について聞いた場合、多くの住人が村内の友人宅や自分の畑と答えており、その他温泉や神社という回答も多い。特に神社についてはこの地区で残したいものに多くの住民が神楽をあげていることから親しみを持たれているようである。

集落の郷土料理や得意料理について聴いた場合、けんちん、こんにゃくという回答が多かった。

4. 意見要望等

1) 上下流住民の連携に関して

上下流の連携に関しては基本的に賛成の方向を示しており、もっと人を受け入れるのも良いのではないかという意見が多くみられる。また、交流体験を通じてさらに小菅村を理解しリピーターとして何度も訪れたり、移住してくるまでの途を創るべきだという意見も多くみられる。交流事業に対し期待を寄せているようであるとともに、事業がワンパターンにならないように様々なアクションを起こして欲しいという要望が強い。協力できることは協力したいという住民も比較的多くみられる。

2) 村の発展について

雇用問題関連の意見が多く、特に60代、主婦層に多くなっている、働きたくても働けないという現状である。これに関連して小菅村特有の農業・自然を生かした産業を何とか考え出し雇用につなげていければいいという意見が数多く見受けられる。また、若い人の流出を防ぐ施策も必要であるという意見も多い。

3) 行政に対する要望について

前項にも記したが過疎化を施策が必要であるとしているものが多い。具体的には雇用先と医療問題が多い。また、住民、特に若い人の意見が取り入れられるような場、システムづくりが求められている。

1 - 2 - 3 白沢地区

地区内世帯数 19 件

聞き取り件数 17 件

以下聞き取り結果に則して

世帯数 17 世帯 (1 世帯平均 3.0 人)

居住人数 51 人

平均年齢 56.6 才

白沢地区は小菅村の西側中央部にあり、国道 139 号線と県道上野原・丹波山線を結ぶ村道沿いに集落が分布している。また、集落から北側にはずれた場所に「原始村」という観光施設がある。

1. 白沢地区の概要

1) 年齢分布

表 - 7 白沢地区年齢分布

年齢分布は表 - 7 のとおりで 70 代 (35.3 %) が最も多い。ついで 50 代 (19.6 %) となっており、高齢者といわれる 60 代以上の比率は約 5 割に達している。

	件数	全体 (%)
10代以下	4	7.8
20代	1	2.0
30代	3	5.9
40代	8	15.7
50代	10	19.6
60代	6	11.8
70代	18	35.3
80代以上	1	2.0
合計	51	100.0

30 代以下の若年層の減少が明らかとなっており、特に 10 代以下では高校生 1 人、小学生 1 人、幼児 2 人という構成で地区に児童学生がほとんどいないことがわかる。また、17 世帯のうち夫婦のみの世帯は 10 世帯で、うち 60 才以上の高齢者のみの世帯は 7 世帯、残り 3 世帯も 50 才以上となっている。

2) 就業状況

表 - 8 白沢地区就業状況

就業状況について (表 - 8)、集落内の就業者数は 20 人である。このうち農林業 (第一次産業) 関係は 5 名となっており、その他 15 人は会社員、公務員等の第 3 次産業となっている。

職業	人数	村内	村外
農業	2	2	0
林業	3	2	1
公務員	5	4	1
団体職員	2	0	2
会社員	4	2	2
パート	4	1	3
合計	20	11	9

また、勤務地については農林業、公務員はほとんどが小菅村内であるが、そ

他の場合では村外 (丹波山、東京方面) が約半数になっている。特に、主婦のパートタイムは村外勤務の割合が高い。

2. 白沢地区の農林業

1) 農業について

農地所有世帯数は 15 戸となっており、面積では最大が 2.3ha、最小が 0.03ha で 0.1 ~ 0.3ha 所有規模層が多い。このうち専業農家は 1 件しかなく、その他は兼業又は自家用のみの栽培となり、専業農家を除いては農産物の出荷もほとんど見られない（原始村にそばを出荷している農家が 2 戸あるが出荷金額はほとんど無い）。これら農地で作付けされている品種は、露地野菜、こんにゃく、そば等である。農地の貸借については同地区の親戚関係での貸借が多くなっているが面積としては大きくても 0.1ha である。またこれら貸借に貸付料等の金銭的な契約は見られない。

農地所有 15 戸のうち、耕作放棄地があったとしたものは 11 戸で約 7 割となっている。耕作放棄面積は所有規模の違いから様々であるが、所有面積に対して 2 ~ 5 割程度が耕作放棄地となっている。これら耕作放棄地ではそれまで、こんにゃく、麦等が栽培されていたが農作物価格の下落による不採算性、従事者の高齢化、後継者不足があげられている。また、耕作放棄時期は昭和 40 年代後半から 50 年代（こんにゃく価格の下落）と平成 10 年前後（体力の低下）に多く発生している。さらに、これらの耕作放棄地の今後の管理意向については、半数以上の所有者が今後も放棄するとしており、金銭面（補助金）や労働力等についての対策が必要とされている。

2) 林業について

森林所有世帯は 11 戸であり、5 ha 未満の小規模所有層が 6 戸、15ha ~ 65ha までの中規模所有層が 4 戸、100ha 以上の大規模所有層が 1 戸となっている。これら森林はほとんどが針葉樹の人工林であり、戦後植えられた 40~50 年生前後のものであるが中・大規模層において 80 年生、100 年生以上といったスギ林もあることが明らかとなった。

育林状況に関しては基本的には自家労働力で行っており、下刈り、除伐は大半の所有者が施業済みであるが、間伐については行っていないという所有者も見受けられた。また、これらの所有者はほとんどが「ここ数年行っていない」、「年に 1 回」という程度で森林に興味関心が薄れているようであり、なかには「場所がわからなくなった」という所有者もいた。これまでの林業収入については自営林業世帯以外は全くないということである。これら森林の今後の管理については全員が「自分で管理する」としているが、客観的に見ると「放置する」に近い感覚であろう。なお、近年盛んに行われている交流事業による森林施業・管理に対しては比較的好意的であり、もし申し出があれば提供しても良いという所有者が半数以上（特に中・大規模層に多い）であるが、その条件は様々で施業内容や活動次第ということである。

専業林家である一戸については、素材生産業ということであり近年では林地を立木買いしており、平均して年間に 300^m（多いときは 500^m）程度生産しているということである。また、現在は後継者として息子さんが主に作業を行っているということであった。

3. 生活に関して

白沢集落内の住民の生活で、まず買い物については、日用品等は移動商店及び青梅市等で購入している場合がほとんどである。移動商店はほぼ毎日4・5店舗が交代で販売に来ておりほとんどの生活必需品はここでまかなえる。また、週に1・2度青梅市へ家族の誰かが出かけてまとまった買い物をしてくることが多いようである。特に、村内には書籍店がないため、書籍を購入する場合には村外へ出る必要がある。他方、家電製品等の大きな買い物は基本的に村内に店舗が無いために青梅市近辺まで行く必要があり、それらの店舗で購入し、配達をしてもらうことがほとんどである。

また、集落において不便であると感じていることについては、ほとんどの住人が「医療施設」に不満を感じており、自分や家族が高齢化したことで病院に行く必要が多くなってきたが、村内に病院が無く奥多摩の病院まで行かなくてはならないことに不便を感じている。また、現在は自ら車を運転して病院に通っているが、さらに高齢化して車の運転ができなくなった場合や急患の場合の不安が今後大きくなるということである。その他については、子どもがいる世帯では、教育施設という回答が多く、集落内にあった白沢分校が廃止されたことや村に高校がなく意外に教育費がかかるという点に不満を感じていることが明らかとなった。これらに関連して集落の近年の変化について聞き取ると、集落全体の高齢化や人口の減少がまずはじめに挙げられていた。

また、余暇活動やよく行く場所について聞いた場合、多くの住人が村内の友人宅や自分の畑と答えており、活動範囲はわりと狭い範囲に限られている様に見受けられる。しかし、比較的年齢が低い場合では村外へ遊びに行くことも多い。

集落の郷土料理や得意料理について聞いた場合、郷土料理としてまず第一にそばが挙げられており、その他こんにゃく料理、けんちん（ほうとうによく似たもの）がある。特にそばは村内での認知度は高く、「白沢といえばそば」というようになっている。さらに、年配の女性はほとんどがそば打ちができ、集落近くの原始村という宿泊施設にて交代でそば打ちをしてアルバイトをしている。

4. 意見要望等

1) 上下流住民の連携に関して

上下流の連携に関しては基本的に賛成の方向を示しており、「若い人が来てくれるのはうれしい」という意見が多い。しかし、交流＝森林・畑管理（労働力）と捉えている傾向があり、森林や、畑を管理してくれるのはありがたいと感じているものの、その後さらに一段階進んだ交流についてはなかなかイメージがつかめていないようである。この点については行政側や住人同士のアイデアや方向性を検討する必要があるであろう。

2) 村の発展について

村の発展＝産業（就業場所）発展と、人口増加と捉えている住人がほとんどであるが、対策やアイデアまで問うと、個人では解決することは難しい問題でもあるため、

悲観的な回答が多く見られる。その中でも、「何か観光の目玉になる物が必要」や「釣り場以外にもレジャー施設が必要」という意見があった。上下流の連携とも関連するが、「自分ができること」を考えるには現段階では至っていないようである。

3) 行政に対する要望について

まず、労働・産業問題の対策に強い要望があり、「就職の場がない 若い人が出て行く 過疎・高齢化する」のイメージが強い。こうしたイメージのなか、これからは村の行政を中心に村外の人とも協力して様々な取り組みを行っていく必要があるという意見が多く見られた。また、村の人の声に耳を傾けることが必要だという意見も多い(特に、女性と若年層の意見を聴いて欲しい)。

1 - 2 - 4 東部地区

地区内世帯数 40 件

聞き取り件数 26 件

以下聞き取り結果に則して

世帯数 26 世帯 (1 世帯平均 3.0 人)

居住人数 78 人

平均年齢 51.3 才

東部地区は小菅村の東端にあり、国道 139 号線で隣接する奥多摩町に接している。また、東部地区は金風呂地区と余沢地区にさらに細かく分けることができるが、この金風呂地区は大成集落の住人が 30 年頃前から移り住んできたことによって形成されてきたという。従って大成地区は人口の減少が著しく、調査時においては 6 世帯が聞き取り対象とされていたが高齢化による聞き取り不能や入院中、さらには数年前から空き家状態というものもあり、実際に聞き取れた世帯はなかった。

1. 東部地区の概要

1) 年齢分布

年齢分布は表 - 9 のとおりで 70 代 (19.0 %) が最も多い。ついで 60 代 (13.1 %) となっており、高齢者といわれる 60 代以上の比率は約 4 割に達している。

20 代、30 代の若年層の減少が明らかとなっており、その他の年代については比較的平均している。また、小中学生の 10 代がいる家族は 3 世代の家族がほとんどであり、核家族は 1 世帯である。

表 - 9 東部地区年齢分布

	件数	全体 (%)
10代以下	11	13.1
20代	3	3.6
30代	4	4.8
40代	10	11.9
50代	9	10.7
60代	11	13.1
70代	16	19.0
80代以上	10	11.9
不明	4	4.8
合計	78	92.9

2) 就業状況

就業状況については表 - 10 のようになっており、自営業者の割合が高い、これは民宿や商店を家族経営で行っている結果による物である。また、これら自営業はおじいちゃん、おばあちゃん、お母さんのいわゆる「3ちゃん」で行われていることが多く、主人は公務員や会社員ということが多く、小菅村のなかでは比較的奥多摩などの東京方

表 - 10 東部地区就業状況

職業	人数	村内	村外
農業	0	0	0
林業	1	1	0
公務員	6	6	0
団体職員	1	0	1
会社員	9	4	5
自営業	11	9	2
パート	1	1	0
合計	29	21	8

面が近いこともあり村外に勤める会社員の割合が高くなっている。

2．東部地区の農林業

1) 農業について

農地所有世帯数は15戸となっており、面積では最大でも0.6haとなっており、小規模所有である世帯が多い。この地区は基本的に平らな土地が少ないことも影響していると思われる。また、専業農家は聞き取りの段階ではおらず、出荷もしていないということであった。ほとんどが自家用に露地野菜やジャガイモなどの芋類を栽培しているようである。

農地所有15戸のうち、耕作放棄地があるとしたものは9戸で約6割となっている。耕作放棄面積は所有規模の違いから様々であるが、所有面積に対して2～5割程度が耕作放棄地となっている。これら耕作放棄地ではそれまで、こんにゃく、麦等が栽培されていたが農作物価格の下落による不採算性、従事者の高齢化、後継者不足があげられている。また、耕作放棄時期は平成10年前後に多く発生している。さらに、これらの耕作放棄地の今後の管理意向については、半数以上の所有者が今後も放棄するとしている。

2) 林業について

森林所有世帯は21戸であり、5ha未満の小規模所有層が11戸、10ha～100haまでの中規模所有層が4戸、100ha以上の大規模所有層が1戸となっている。また、所有規模がわからないとする世帯が5世帯あった。これら森林はほとんどが針葉樹の人工林であり、戦後植えられた40～50年生前後のものであるが中・大規模層において80年生、100年生以上といったスギ林もあることが明らかとなった。

育林状況に関しては基本的には自家労働力で行っており、下刈り、除伐は大半の所有者が施業済みであるが、間伐については行っていないという所有者も見受けられた。また、これらの所有者はほとんどが「全く行かなくなった」「年に1回」という程度で森林に興味関心が薄れているようであるが、なかには月に5・6回は見回りに行くという所有者もいた。これら森林の今後の管理については「自分で管理する」という回答が多かったが、「放置したい」という所有者も6世帯ほどあり、その理由に体力的なものを挙げていることが多い。また、小規模所有のため施業そのものが終わっている場合も数多く見られる。交流事業による森林施業・管理に対しては賛成・反対の比率は約2：1であり、反対の理由としては、林地が狭いために受け入れることができない、傾斜がきつい、素人ができるような場所ではないなどの理由があった。また、林地を提供しても良いとした所有者の条件はその時々によるというものがほとんどであった。

3．生活に関して

東部地区の生活に関して、まず買い物については生活必需品や食品の場合ほとんど

の世帯が移動商店と村外からの購入となっている。そのうち食品等は移動商店で購入するケースが多く見られ、その他の生活用品は村外の用事に出かけた際についでに購入してきたり、土日等の仕事が無い日にまとめて買いに行くようである。

生活で不便を感じている点については道路事情と医療施設について強く不便を感じているようであり、「東部地区の住人は他の地区よりも村外に出ることが多いため、特に東京方面までの道路事情について不満を強く感じる」という意見が数件あった。また、他地区と同様に医療施設に関する不満は急患に対応できないという意見が大半を占めていた。

好きな場所やよく行く場所については、畑や友人宅、(小菅)温泉が高齢者に多く、これに関連して余暇活動については老人会(ゆうゆうクラブ等)での活動に多くの時間を割いている様であり、比較的人間関係が密に維持されているように感じられる。

郷土料理については他地区と同様そば、こんにゃくが多く回答されていたが東部地区ではけんちんをほうとうと呼ぶことが多いようである。

4. 意見要望等

1) 上下流住民の連携に関して

上下流の連携に関してはおおむね好意的に見ている様であるが、村で行われている活動が東部地区であまり行われていないため、具体的に何をしているかはよくわからないという意見もあった。また、インストラクターなどをもっと村独自でも増やして人を受け入れたり、森林作業だけが交流ではないという意見も出ていた。

2) 村の発展について

観光に力を入れるべきだという意見が多く見られるが、その全てが箱ものではなく自然をもっと活用すべきだという意見であった。観光資源は既にあり活用していないだけではないかという意見が多く見られた。また、上記にもあるが村等で行っている事業がどの地域にも均等に行き渡ることを望んでいるようである。

他方、経済格差の解消という回答が割合多く見られ、国や県の格差とともに村内での経済格差もあると感じているようである。

3) 行政に対する要望について

過疎対策と合併問題の解決を望む意見が多く見られる。また、住民の意見を聞いて欲しいや、各家を回って現状を知って欲しいという意見も多かった。その他には森林荒廃による土砂崩れの懸念や野生動物による畑への被害対策など生活の安全・安心に対する施策を充実して欲しいというものが数多くあがっている。

1 - 2 - 5 中組地区

地区内世帯数 57 件

聞き取り件数 39 件

以下聞き取り結果に則して

世帯数 39 世帯 (1 世帯平均 2.7 人)

居住人数 105 人

平均年齢 47.5 才

中組地区は小菅村の中央部にあり、各地区間の経由地ともなっている。近年小菅温泉が建設され村内の観光スポットとして重要な位置を占めており、併設されている物産館には地域住民が農産物を出荷することで現金収入獲得の場にもなっている。また、この地区にも村営住宅があり、若い世代の入居者がある。

1. 中組地区の概要

表 - 11 中組地区年齢分布

1) 年齢分布

年齢分布は表 - 11 のとおりで 10 代 (20.0 %) が最も多い。ついで 50 代 (16.2 %) となっている。他地区に比べて年代に偏りが少なく、特に 10 代の割合が最も多い唯一の地区となっており、全地区のなかでも平均年齢が一番低くなっている。また、10 代のなかでは小学生の割合が高くなっている。

	件数	全体 (%)
10代以下	21	20.0
20代	6	5.7
30代	9	8.6
40代	13	12.4
50代	17	16.2
60代	14	13.3
70代	15	14.3
80代以上	10	9.5
合計	105	100.0

2) 就業状況

表 - 12 中組地区就業状況

就業状況について (表 - 12)、地区内の就業者数は 40 人である。会社員の割合が多くなっているが、そのうちの半数は村外での勤務者である。勤務先は青梅、拝島など東京方面が多くなっている。また、専業農家は 0 名となっているが物産館に農産物を出荷している世帯が数件みられる。

職業	人数	村内	村外
農業	0	0	0
林業	2	2	0
公務員	5	5	0
団体職員	2	1	1
会社員	15	8	7
自営業	6	5	1
パート	10	9	1
合計	40	30	10

2. 中組地区の農林業

1) 農業について

農地所有世帯数は 20 戸となっており約半数の世帯が農地を所有している、面積では最大が 3.5ha と 1 戸だけ突出しているものもあるが、それ以外では 0.1 ~ 0.3ha 所有規模層が多い。専業農家はみられないが物産館が同地区内にあることもあり、同施設に野菜等を出荷している世帯が他地区に比べて多くなっている。しかし販売額をみると年間 15 万程度が多く、それほどの収入源にはなっていないようで「家で余った分を」という感覚が強いようである。これら農地で作付けされている品種は、露地野菜、こんにゃく、そば等である。農地の貸借については同地区の知人関係での貸借が多くなっているが面積としては 0.1ha 程度のものがほとんどである。

農地所有 20 戸のうち、耕作放棄地があるとしたものは 11 戸である。耕作放棄面積は 0.1ha ~ 0.5ha と所有面積に対して 2 ~ 5 割程度が耕作放棄地となっている。これら耕作放棄地ではこんにゃく、麦等が栽培されていたが農作物価格の下落による不採算性や、後継者不足を理由に放棄されるようになり、昭和 50 年代と平成 5 年前後に多く発生している。さらに、これらの耕作放棄地の今後の管理意向については、半数以上の所有者が今後も放棄するという意向とともに、誰かに代わって管理して欲しいという意向も多くみることができる。また、現在耕作放棄地がない世帯においても、今後同様の理由により発生する可能性が強いことが明らかとなっている。

2) 林業について

森林所有世帯は 22 戸であり、所有面積で見ると他地区に比べて所有規模が大きくなっており 10 ~ 50ha の中規模層の世帯が多い。また、所有面積がわからないとするものも 6 戸ほどあるがこれらについても聞き取りの様子から中規模層であるとみられる。森林はほとんどが針葉樹の人工林であり、40~50 年生前後のものであるがほとんどである。

育林状況に関しては基本的には自家労働力で行ってきているが、分収林契約を行っているものも数世帯みられた。施業の実施状況については施業が完了しているという世帯も数件みられるものの大半は間伐が十分に実施されていないようである。これまでの林業収入については全世帯で全くないと言うことであり、自分の家の建築・改築に利用した程度であるという。これら森林の今後の管理については多くの場合「自分で管理する」という意向を示しているが、所有者の年齢が高齢になるほど放置するという傾向が強く見られる。

交流事業などに林地を提供しても良いかという問に対しては回答があった所有者の全てが提供しても良いとしており、その条件は特に出されておらず実際に施業内容や利用方法を聞いてから考えるというものがほとんどである。

3. 生活に関して

中組集落内の住民の生活で、まず買い物については、日用品等は移動商店及び東京方面等で購入している場合が多いなかで、生協を利用しているという割合も高くなっている。他方、家電品等の大きな買い物は青梅市近辺まで購入に出かけていることが

多いようである。

また、集落において不便であると感じていることについては、「ない」という回答が多くなっているなかで、「医療施設」と「買い物」に不満を感じているケースが多い。自動車の所有がこれらのポイントになっているようで、自分で運転できるもしくは送迎してもらえる世帯住民では不便はさほど感じていないようであるが、自動車がない場合では生活にかなりの支障を来すほど不便を感じるようになる場合が多いようである。

余暇活動やよく行く場所について聞いた場合、多くの住人が村内の友人宅や温泉と答えており、近くにできた温泉施設がそのまま余暇活動の対象地にもなっているようである。温泉施設はこれら効果の他に、観光客が増えたことで人が増え地区が明るくなったような気がするという意見ももたらしており、精神面での影響も少なからず与えているようである。集落の郷土料理や得意料理について聞いたところけんちん汁とそばが多くあがっていた。

4. 意見要望等

1) 上下流住民の連携に関して

上下流の連携に関しては歓迎する意見が多く、もっと様々な事業を展開して欲しいと言うことであった。さらに、その中で上下流住民の互いにメリットになっていることがもっとアピールできるような事業を望む声もある。また、村民側で連携事業になかなか触れあう機会がないと感じている住民も少なくないことが明らかとなり、村民がより参加しやすい交流事業を望む声も多い。

ゴミ問題がこの集落でもあがっており、クリーン作戦等を行わないと観光客が捨てたゴミで道路が一杯になってしまうことに不満を感じているようであり、さらには粗大ゴミ等の不法投棄も近年発生しているようで包括的な対策を求める意見が多くあげられている。

2) 村の発展について

人口流出と高齢化対策が求められているなかで、住民はどここの市町村も同じようなことやっているためなかなか効果が出ないのではないかと、もっと特色のある事業を行うべきだという意見がみられる。しかし、具体案となるとなかなか出てくることは無く、村民や交流事業参加者である下流域住民を巻き込んで対策を考えることが重要であるとしている。

3) 行政に対する要望について

雇用の場の確保を求めるとともに施設の要望として葬儀場や常駐の医者に対する要望も強い。

また、合併問題の早期決着を望む声が多く、さらに合併交渉の経緯経過を村民に知らせて欲しいという意見が多くみられた。

1 - 2 - 6 田元地区

地区内世帯数 38 件

聞き取り件数 34 件

以下聞き取り結果に則して

世帯数 34 世帯 (1 世帯平均 2.4 人)

居住人数 84 人

平均年齢 50.4 才

田元地区は小菅村の中心部からやや東に位置する地区であり、村内でも比較的利便性の高い地区といえる。また、地区の東側には村営住宅が建設されており村外からの移住者が比較的多く見られる地域である。

1. 田元地区の概要

1) 年齢分布

年齢分布は表 - 13 のとおりで 40 代 (19.0%) が最も多い。ついで 60 代 (16.7%)、70 代 (15.5%) と続いている。他地区に比べて 10 代以下の割合が高くなっているがこれは、近年建設された村営住宅の影響が非常に大きく 10 代のほとんどがこの住宅に住む世帯の子どもである。他方、古くからある家に住む住人の多くは高齢者となっている。

また、12 世帯が 70 才以上での 2 人暮らしとなっている。

表 - 13 田元地区年齢分布

	件数	全体 (%)
10 代以下	12	14.3
20 代	4	4.8
30 代	6	7.1
40 代	16	19.0
50 代	8	9.5
60 代	14	16.7
70 代	13	15.5
80 代以上	9	10.7
不明	2	2.4
合計	84	100.0

2) 就業状況

就業状況については表 - 14 のようになっており、会社員・自営業者の割合が高い、会社員は村内の企業に勤めている場合がほとんどであり、自営業は民宿や商店を家族経営で行っている場合が多い。また、この地区には専業で農業・林業を行っている世帯はないことが明らかとなった。

表 - 14 田元地区就業状況

職業	人数	村内	村外
農業	0	0	0
林業	0	0	0
公務員	4	4	0
団体職員	5	5	0
会社員	12	11	1
自営業	10	9	1
パート	5	5	0
合計	36	34	2

2. 田元地区の農林業

1) 農業について

農地所有世帯数は9世帯となっており、集落の世帯数に占める割合から見ると少なくなっている。面積では1 ha 所有が1戸あるがその他は0.2ha程度となっており、小規模所有である世帯が多く、家から畑までの距離が離れているものも少なくない。また、村営住宅に居住している世帯のほとんどは農地を所有していなかった。耕作している世帯では自家用の露地野菜等が中心に栽培されている。

耕作放棄地については5世帯があるとしており、所有地の半分程度が耕作放棄地となっているようである。ほとんどが高齢者であり、高齢により耕作できなくなったという理由がほとんどであった。今後についても耕作する人がおらずまた、自分で行うにも限界があるため放置するしかないという意向が強い。

2) 林業について

森林所有世帯は18世帯であり、5 ha 未満の小規模所有層が9世帯と半数であり、最大で10haとなっている。また、所有規模がわからないとする世帯が7世帯あり、高齢者の世帯でも所有面積が不明になっている場合が多く見られた。さらに、これらの所有者は所有地の境界が不明瞭になっていることが多い。これら森林はほとんどが針葉樹の人工林であり、戦後植えられた40～50年生前後のものである

育林状況に関してはほとんどが自家労働力で行っており、下刈り等は施業済みであるが、間伐についてはあまり行われていないようである。また、森林がどうなっているかわからないというものも数件見られた。森林の訪問回数についてはほとんどの所有者がここ数年見に行っていないという回答であり、様子を見に行っている所有者でも年に3回ほどであった。

これら森林の今後の管理については「放置する」という回答が多く、高齢のためできないや、小規模であるために手をかけても収入につながらないという理由を同時に挙げることがほとんどであった。さらに、これらの状況のためか村が管理することになった場合どう考えるかという問いに対しては「村に任せる」や委託契約したいという回答が他の地区より多く見られた。

交流事業による林地の提供に関しては半数程度が「考えていない」や「面積が狭い」などを理由に無理であると考えており、提供しても良いという所有者でも「自分の山では森林作業体験はできない」というものが多かった。

3. 生活に関して

田元地区の生活に関して、まず買い物については生活必需品や食品の場合ほとんどの世帯が移動商店と村外（青梅）からの購入となっている。そのうち食品等は移動商店での購入とともに生協での宅配による購入が多く見られた。そのた、家具や家電等の買い物についてはほとんどが青梅を中心とした東京方面であった。

生活で不便を感じている点については医療施設について強く不便を感じているようであり、高齢者の世帯に於いてその傾向が特に強く表れている。また近年の集落にお

ける変化では1人、2人暮らしが増えたとともに空き家が増えたというものが多く高齢化と過疎化を身近な問題として捉えているようである。

好きな場所やよく行く場所については、畑や友人宅、(小菅)温泉が高齢者に多く、若い世代では村外に出て買い物やあそんでいるようである。また、余暇活動についても同様の傾向が見られ高齢者になると行動範囲が狭くなる。

郷土料理については他地区と同様そば、こんにゃくが多く回答されていたが「おばく」というおかゆに似た料理が挙げられている

4. 意見要望等

1) 上下流住民の連携に関して

上下流の連携に関しては好意的に見ている意見が多いが、交流事業に付随して観光客に対する意見としてマナー問題が多くあがっている。小菅川周辺の集落であるため川に対する観光客の態度には敏感になっており、キャンプの後のゴミや釣り場以外での釣りのマナーの悪化が具体的に挙げられている。人を呼ぶだけではなくそこから起こりうる問題にも事前に対処して欲しいということである。特に、釣り場付近は村内でもいいエリアでありながら村民に規制がかかっていると感じているものも少なく、それだけに他から来た者に環境を悪くしてもらいたくないという意見である。

2) 村の発展について

村内に雇用を求める意見が多い。それに対して住民で話し合ったり、意見を言い合うという準備ができている者も少なくないようである。また、都会のニーズをもっと的確につかむ必要があるのではないかというものも数件みられた。

空き家について有効活用を考えることで村の発展に役立てようという意見があった。

3) 行政に対する要望について

集落が川に近いためであろうが、源流という意識の下で川の維持に対する費用負担を下流域に求める意見が多い。特に、水源税の導入を求める意見が多かった。また、役場中心でいろいろな事業を展開して欲しいという意見もみられる。他方、「このままでよい」や「まず現状維持できるような政策を」というものもあった。

4) 村営住宅に関して

村営住宅は入居条件からも明らかなように、住民の年齢層や世帯構成に一定の効果を上げていると判断できる。しかし、実際に住んでからのギャップにとまどっている住民もみられ、特に教育問題と近所づきあいが多少なりとも問題になってくるようで、今後のためにも、事前の細かい説明とアフターケアが必要である。

1 - 2 - 7 川池地区

地区内世帯数 78 件

聞き取り件数 51 件

以下聞き取り結果に則して

世帯数 51 世帯 (1 世帯平均 2.8 人)

居住人数 148 人

平均年齢 54.2 才

川池地区は小菅村の中心部位置する地区であり、役場や郵便局、小・中学校など立った施設が存在している。また、民宿や旅館、商店の数も多い。地区の西側には比較的新しい集落がある。

1. 川池地区の概要

表 - 15 川池地区年齢分布

1) 年齢分布

年齢分布は表 - 15 のとおりで 70 代 (19.6 %) が最も多い。ついで 60 代 (15.5 %) と続いている。他地区に比べて 10 代以下の割合が高くなっている。特に小・中学生は比較的西側の新しい集落と自営業などで代々安定して居住している家に多いようである。

	件数	全体 (%)
10代以下	22	14.9
20代	2	1.4
30代	14	9.5
40代	12	8.1
50代	21	14.2
60代	23	15.5
70代	29	19.6
80代以上	19	12.8
不明	6	4.1
合計	148	100.0

しかし、3 世代家族が多いためもあるが高齢者の割合も高く集落の平均年齢では高い方に位置づけられる。

2) 就業状況

表 - 16 川池地区就業状況

就業状況については表 - 16 のようになり、村の中心部であることから自営業者の割合が高く、特に民宿が多く存在する。さらにこれらは家族経営で行っている場合が多い。その他商店についても家族経営がほとんどで、商業的資本が入っている様子は見られなかった。

職業	人数	村内	村外
農業	0	0	0
林業	2	2	0
公務員	8	8	0
団体職員	6	6	0
会社員	11	9	2
自営業	26	26	0
パート	6	5	1
合計	59	56	3

2. 川池地区の農林業

1) 農業について

農地所有世帯数は 28 世帯となっており、約半数の世帯となっている。所有していない世帯は村外からの転入者と自営業者において多く見られた。所有面積は 0.5ha ~ 0.1ha での所有であり、平均すると約 0.2ha となっている。主に自家用として露地野菜やジャガイモ・こんにゃく等が栽培されており、物産館に出荷しているのは 1 戸である。なお、約 4 割の所有者が農地の面積をだいたい把握しており、正確な値はわからなくなっているようであった。

耕作放棄地については 6 世帯があるとしているが、これらの所有者では所有地の半分以上が耕作放棄地となっているようであり、なかには全てが耕作放棄地となっている場合もあった。以前はこんにゃく等を中心に栽培していたが価格の下落による採算性の悪化や自身の高齢化により、平成以降に放棄地となったものが多い。従って所有者のほとんどが 70 代後半以降の高齢者であり、今後についても同居する若い世代の家族は他の仕事をしているため耕作する時間がないという理由などから放置するしかないという意向が強い。

2) 林業について

森林所有世帯は 27 世帯であり、5 ha 未満の小規模所有層が 18 世帯で、最大では 20ha となっている。また、所有規模がわからないとする世帯が 7 世帯あるが、聞き取りを行った世代に面積や境界が伝えられていないケースも多くあるようである。これら森林は小規模ほど針葉樹の人工林率が上がり、戦後植えられた 40~50 年生前後のものである

育林状況に関しては自家労働力を中心に行われてきているが自営業者などは面積の規模にかかわらず森林組合に委託して施業を行った様である。森林の訪問回数についてはほとんどの所有者がここ数年見に行っていないという回答であり、様子を見に行っている所有者は数人で年に 5 ~ 10 回ほどであった。

これら森林の今後の管理については管理すると放置するが約半分ずつであるが、管理するとした所有者の意向としては、自分で管理を行いたいというものが大半を占める。これは「山に金をかけられない」という意向によるものでもある。同様の理由から村が管理することになった場合どう考えるかという問いに対しても「自分で管理し続ける」という回答が多い。

交流事業による林地の提供に関しては半数程度が「行う施業がない」や「面積が狭い」「森林まで遠い」などを理由に提供できないと考えており、提供しても良いという所有者でも「面積が狭い」「遠い」という提供できないと答えた所有者と同じ回答のものが多かった。他の地区にも同様に見られる傾向であるが、これら貸し出す側の所有者は自分のなかで森林体験や作業、交流事業に適した森林をイメージしており、それに自分の森林は適さないと判断している傾向が強いようである。

3. 生活に関して

川池地区の生活に関して、まず買い物については生活必需品や食品の場合は移動商

店と村外（青梅）からの購入が多いことは他の地区と同様であるが、村内の商店からの購買割合についても非常に高くなっていることが特徴としてあげられる。近距離に商店があるためやはり利用しやすいのであろう。他方、家具や家電等の買い物についてはほとんどが青梅を中心とした東京方面であった。

生活で不便を感じている点については医療施設という回答が高齢者の世帯においておおくみられたが、しかし、特にないという回答も他の集落に比べて多く見られ、村の中心部であることから一応の施設等が利用しやすいという点でさほど不便を感じないのであろう。近年の集落における変化では人口が減った、高齢化などが挙げられる一方で、店が増えた新しい建物ができたという村の中心部らしい回答も多くみられた。

好きな場所やよく行く場所については、友人宅や温泉、畑などが多く、その他老人会等の集まりに参加しているものも多く見られる。余暇については高齢者層は畑・山・散歩等、が多いが、若い世代では東京方面に買い物に行くという回答が多い。また、地区で優れているもの、残したいもので神社や獅子舞などの伝統芸能が多く挙げられており、保存活動も続けられているようである。

4．意見要望等

1) 上下流住民の連携に関して

上下流の連携に関しては好意的に見ている意見が多いが、さらにアピールをして人を呼び込むとともに、活動そのものや（源流としての）存在自体を知らせることに意義があると感じている住民も多くいる。他方、住民に対してのアピールや協力の呼びかけが不足していると感じている住民もいることが明らかとなった。森林作業だけではなく人と人との交流にまで発展させるべきという意見もある。問題の指摘としては（交流事業以外の観光客が主だと思われるが）自然に対するマナーの問題や野菜泥棒の被害等が挙げられ、行政主導で対策をすべき問題であるという意見がみられた。

2) 村の発展について

自然をを重視・利用した産業を起こすことが必要であると感じている住民が多い。村の基本姿勢には賛成しているようだが、スピードが上がらないことに若干の不満を感じているものもいる。全体的にもっと若い世代（20.30.40代）の意見や人そのものを活用するような仕組みを考えるべきだという意見が多く見られた。

3) 行政に対する要望について

雇用問題が強く要望されているが、雇用の場を作るだけではなく定住の方策も同時に考えるべきだという意見がみられた。また、東京都に対して水源面からの補助金や雇用の働きかけをして欲しいという意見が数件あった。合併問題についてはする・しないにしても早期に決着をつけ次の段階へ進むべきだという意向が比較的多い。

1 - 2 - 8 長作地区

地区内世帯数 30 件

聞き取り件数 23 件

以下聞き取り結果に則して

世帯数 23 世帯 (1 世帯平均 1.9 人)

居住人数 44 人

平均年齢 63.3 才

長作地区は小菅村の南側に位置し、上野原市に接しており県道上野原・丹波山線で上野原から来ると、一番入り口にある集落である。役場のある川池・田元地区や青梅に出るには県道上野原・丹波山線で鶴峠を越えていかななくてはいけない。集落内には文化財に指定されている「長作観音堂」や樹齢百年以上のケヤキ・モミ・ツガ林を持つ「御鷹神社」がある。また、長作観音堂の前には、宿泊設備を備えた「寺子屋自然塾」がある。

1. 長作地区の概要

1) 年齢分布

年齢分布は表 - 17 より、60 歳以上が全体の 6 割以上を占め、30 歳以下の若年層が極端に低く、20 代は居なくなっている。極めて少子高齢化であることは、80 歳以上が 2 割強を占めていることから容易に判断できる。

10 代以下では 1 歳の幼児のみで、小中高生が居ない集落である。また 23 世帯のうち高齢夫婦・高齢単身の世帯は 13 世帯で、高齢単身は 10 世帯にも上る。

2) 就業状況

表 - 18 長作地区就業状況

就業状況については表 - 18 より、集落内の就業者は 13 名である。このうち農林業に従事する者は 2 名で、その他は公務員 5 名、会社員 4 名、自営 1 名となっている。

勤務地は村内在が 8 名なのに対し、村外も 5 名となっており、その就業先としては上野原方面が 4 名で奥多摩方面が 1 名となっている。

2. 長作地区の農林業

1) 農業について

農地所有世帯は 21 戸で、最大面積は 1 ha、最小面積 0.05ha となっている。0.1 ~ 0.3ha の所有規模層が全体の半数以上を占めている。1 戸の世帯を除き農産物の栽培は自家用となっている。農産物の販売をしている 1 戸も自家販売で出荷額はあまりない。主に作付けしている農産物は、露地野菜、イモ類、そばであり、こんにゃくの栽培は 5 戸のみであった。農地の貸借については同地区の親戚・知人で貸付に関して金銭的な契約は見られなか

った。

農地所有世帯のうち耕作放棄地が 17 戸で所有面積により放棄地面積は異なるが、ほぼ所有面積の 5 ~ 8 割程度を放棄し、作付けしている面積が 0.1ha 以下になっている。以前まで耕作放棄地には、そばや麦、露地野菜または養蚕のための桑畑もあった。耕作放棄理由としては、農業従事者の高齢化が一番多く次いで獣害による被害のためである。これら耕作放棄地の今後の管理意向としては、今後も放棄する意向を示した所有世帯が大半を占め、自分で管理や息子に管理等はごく少数であった。

2) 林業について

森林所有世帯は 15 世帯で 5 ha 未満の小規模所有層が 6 戸、25 ~ 65ha までの中規模所有層は 5 戸、残りの 5 戸は不明であった。これらの森林のほとんどは針葉樹の人工林で 40 ~ 50 年生のスギ・ヒノキ林であった。林業での収入を得ている世帯はなく木材の伐採もしていないため未植林地をもつ世帯はほとんど無く、未植林地をもつ世帯は「日当たりのため」「そのままにしたほうが良い」として植林していない。

育林状況については、ほぼ自家労力であるが、中規模所有層の 1 戸では間伐を団体に任せているところもあった。また、自家山林への訪問回数は半数が 10 日 ~ 30 日行っているが、そのほかは「行っていない」「年間 10 日未満」程度であった。訪問回数に関して、所有山林面積の広さは関係なかった。

今後の管理意向に関して、小規模所有層では「放棄する」意向が多く、中規模所有層では「自分で管理」が多くなっている。「自分で管理」を選択した所有者のうち 2 戸は「森林組合に作業ごとで委託」を選択し、一方は「委託料を払っても良い」で他方は「補助金で行なう」とあった。

交流事業に関する回答には 11 戸の有効回答を得られ、8 戸の世帯が「提供してもいい」とし、条件として「距離が遠い、作業適地があれば、専門家がしっかり指導するなら、作業する所がないが、ルールを遵守すれば、1・2 名なら作業可能」等があげられた。その他は「提供したくない」とした理由として、「ゴミの不法投棄」が挙げられた。

3. 生活に関して

長作地区の買い物に関して、日用品や肉・魚介類については移動商店と上野原方面へ買い物に行く世帯がほとんどであり、家具や電化製品も上野原で購入していた。また、高齢者世帯では、子どもが電化製品や大体の食材を購入してくるという世帯も多くある。

集落に暮らしていて不便を感じる場所は、「医療関係」と「交通の便」の二つに分かれており、どちらも 50 代 ~ 60 代と 80 代以上の比率は同じくらいであった。また、「携帯の電波がはいらない」ということもあがった。

近年の変化として「少子高齢化」が回答世帯の 5 割強をしめ、残りは「道路がよくなった」「仕事が少なくなった」「特に感じない」で占められた。また、村中の世帯に有線放送が取り付けられたことで「押し売りが来なくなった」という回答も得られた。

集落の好きな場所や優れたものについては、「長作観音堂」「御鷹神社」がほぼどの世帯

でも挙げられた。また好きな場所でも、「神社」「音なしの滝」「自然・山・川」で過半数を占めている。余暇活動に関しても、近所や畑といった地区内の移動が多く、村外へ買い物や出掛けるといった行動はあまり多くみられなかった。

集落の郷土料理や得意料理については、そば、こんにゃく、大福、まんじゅう、ジャガイモの煮転がし、けんちん汁等が挙げられたが、そば・こんにゃく以外は統一性は無く、得意料理についても、山菜おこわ・わさび漬け等であった。

4. 意見要望等

1) 上下流住民の交流について

交流事業を行う上で「寺子屋自然塾」の利用者の増加を願う住民が居る反面、寺子屋を利用する者が夜中に騒がしい等の、利用者のマナーの面についての意見が挙げられた。また、寺子屋利用者との接点がないためどのような事業を行なっているのか、どのような利用者が利用している等も住民にわからなくなっている。そのような接点を増やし情報交換を行い利用者は源流の現状を知り、住民は下流の現状を知りたいという意見もある。また、長作地区には1戸かやぶき屋根の世帯があり、修復等には人件費がかかるので、維持していくためには村の助成が欲しい、また体験学習として寺子屋を利用している人にかやぶき修復体験事業として考えられるという意見も挙げられた。そのためにも寺子屋と住民との情報ネットワークの構築が必要であるとしている。

2) 村の発展について

長作地区では、村の発展は「仕事場の増加」と「上野原へ行くバス」の二点が挙げられた。地区の地理的特徴から村内バスは長作地区には1日数本しかなく、しかも生活圏である上野原市街地へ行くバスが村内に乗り入れてないため、上野原市街地方面のバスに乗るためには上野原市西原まで徒歩か車移動となり、多くの高齢者は近所の知人・親戚に同乗して上野原市街地へ出掛けている状況である。

3) 行政に対する要望

現在の村役場のやり方に、住民の意向があまり反映されていないようで、「村には村のやり方で」「これからは村民主導で」等の声が聞かれ、また源流と銘打っているのに「河川工事が自然の川をダメにしている」と指摘している。また、小菅村でこの長作地区だけ携帯電話の電波が通じないことを何とかして欲しいと要望が少数ながらあった。

1 - 3 . 小菅村全体のまとめ及び今後の課題

1. 年齢構成の特徴

聞き取り調査における住民の年齢構成は表 - 18 のとおりであり。村全体では70代の割合が最も高く20.4%、次いで60代が16.0%と高齢者の割合が多く占めており、村全体では約半数が高齢者という結果となっている。他方、若齢層をみると20代、30代の割合が少ないことが明らかとなっており、後述にもあるが村に高校がないという

教育問題と雇用問題がそのまま現れる形となっている。地区ごとにみた場合では、村の中心部に近い地区と村営住宅がある地区に 10 代以下の住民が多くなっていることが明らかとなった。また、地区ごとの平均年齢も同様の傾向を示しており、村中心部から最も遠い長作地区では平均年齢が 63.3 才と最も高い割合を示している。

表 - 18 各地区ごとの年齢構成と平均年齢

(人)	橋立	小永田	白沢	東部	中組	田元	川池	長作	全体	割合
10代以下	14	11	4	11	21	12	22	1	96	13.0
20代	6	2	1	3	6	4	2	0	24	3.2
30代	8	11	3	4	9	6	14	5	60	8.1
40代	9	8	8	10	13	16	12	2	78	10.6
50代	30	13	10	9	17	8	21	8	116	15.7
60代	22	16	6	11	14	14	23	12	118	16.0
70代	36	19	18	16	15	13	29	5	151	20.4
80代以上	13	6	1	10	10	9	19	11	79	10.7
不明	5	0	0	4	0	2	6	0	17	2.3
合計	143	86	51	78	105	84	148	44	739	100.0
平均年齢	53.4	53.8	56.6	51.3	47.5	50.4	54.2	63.3	53.0	-

2. 就業状況

次に村内の就業状況は表 - 19 のようになっている。自営業が最も多く、次いで会社員、公務員となっており、就業者の農林業離れが明らかとなっている。自営業は民宿・旅館業の割合が多くなっているが近年の不景気と観光形態の変化により業績は5年前と比較して2～4割程度下がったという回答が多く、さらに、10年単位での変化をみると半減しているものが少なくない。 表 - 19 村内の就業状況

村内では多くの就業者を抱える産業であり、最盛期にはパート等の臨時雇用も多く生み出していたことから、この産業への対策、新しい事業化等何らかの施策が必要とされている。また、会社員をみると村外への勤務者は約 1/3 であるがこれら村外への勤務者は東部や中組地域で多く、隣接した東京都地域への勤務や村営住宅を抱え比較的新しい住人が移り住んできた地区に多くみられる。

職業	人数	村内	村外
農業	9	9	0
林業	11	10	1
公務員	47	46	1
団体職員	25	19	6
会社員	75	53	22
自営業	81	73	8
パート	41	36	5
合計	289	246	43

また、会社員については、村内の有力な企業にその多くが雇用されているというパターンも多くみられ、村内における雇用先の不足や減少が現れており、さらには村内雇用力が飽和に近いということが先の年齢分布にみる 20 代、30 代層の割合減少という形となって現れているといえる。その他、60 代の住民でも労働意欲は非常に高いが雇用先がないために、無職となっているものも少なくないことが明らかとなった。

3. 農林業の特徴および課題

1) 農業および農地について

村内の世帯のうち農地を所有するものは約6割にのぼる。所有面積は1ha以上がその内の1割程度でほとんどが0.3～0.5haの所有層となっている。これらの農地では現在、露地野菜、こんにゃく、ジャガイモ等が主に栽培されているがほとんどの世帯では自家用として栽培されており出荷をしている世帯はごくわずかしかない。また、出荷している世帯でも村内にある物産館に出荷していることが多く、現金収入としては決して大きなものとはなっていない。物産館への出荷は基本的に自由（事前の届け出は必要）となっているが、出荷物を自らが物産館まで持って行きさらに売れ残りを回収するというシステムであるため高齢者にとってはこれも負担となって出荷をやめたという例も少なくない。よって、物産館に出荷しているのは近所である中組地区の世帯が多くなっている。耕作放棄地については全村で97世帯が「ある」としており、農地所有世帯の6割になっている。耕作放棄地の面積は所有面積の代償にかかわらず3～5割程度であるという回答が多く、これらより現段階で全村の農地の3割程度が耕作放棄地となっている可能性がある。これら耕作放棄となった理由については、農産物の価格下落による不採算性と農業従事者の高齢化、後継者不足が多くあげられており、今後もさらに耕作放棄地が増える可能性を示している。また、上記の理由の他に農地までの距離が遠いという要因も耕作放棄の理由として大きなものとなっている。これら、耕作放棄地について今後の管理意向は「自分で管理する」という所有者もいるが、耕作放棄理由から考えた場合では再び作付けを開始するとは考えにくく、「放置する（しかない）」という所有者が半数程度いることが明らかとなった。

2) 林業および林地について

村内の世帯のうち、林地及び森林を所有しているものは169世帯となっている。所有面積は大規模になると100ha以上所有している世帯もあるが基本的には5ha未満での小規模所有である。地区ごとにみると白沢、東部地区に大規模又は中規模所有者が多いようである。これらの森林はスギを中心とした人工林がほとんどで戦後植えられた4・50年生のものが多くなっているが、大規模所有層の森林では80年生や100年生以上の針葉樹もみられる。育林に関しては若干の所有者が公社との分収林契約を結んでいる以外は主に自家労力で施業が行われてきており、大半の所有者は下刈り、除伐の時期を終え間伐期から主伐期に入っている。しかし、近年の林業事情から間伐の実施が遅れている所有者も多い。また、森林を訪れ様子を見る回数が近年特に減少しているようであり、数年間にわたって森林の様子を見に行っていないものも少なく、境界までが不明瞭になっている場合もある。さらに、後継者に当たる次世代については森林施業を行ったことがないものや森林に行ったことがないものも多く、今後の森林管理体制に影響を及ぼすことが懸念される。また、家族に森林の詳細（面積や境界等）を伝えることなく他界してしまっている所有者もあり、この場合残された家族（主におばあちゃん）は森林に関する知識、意向が全くない状態になっている場合が多い。以上のような問題は今後一層増加する可能性が考えられることから早期に何らかの対策をすべきである。

今後の森林管理に関しては「自分で管理し続ける」という回答が多いが、これは「施業がほとんど終わっており何もすることはない」場合と「間伐等の施業が残っているがお金をかけても元が取れないから自分で」という場合に分けられ、後者の方が多くなっている。また、「放置する」という所有者も半数近くおり、何らかのインパクトがない状態では森林管理は放置もしくは様子見され、なかなか進まないことが懸念される。このようななか、インパクトの一つとして上下流の連携による森林管理があり小菅村でも行われているが、これらの事業に対しては所有者の8割近くが好意的であり林地を提供しても良いとしている。その際の条件としては現段階では特にあげられておらず、実際に提供することになった場合の状況によるという意向がほとんどであった。また、林地提供に関しては所有者が「体験作業に適した森林」を自分でイメージしていることも多く、「自分の森林は体験作業に適していない」と判断していることも多いためこの点についての説明・調整も必要であろう。

4．生活面の状況と課題

小菅村において住民生活圏は長作地区とそれ以外の地区に大きく分けることができる。長作地区は基本的な買い物や就業先さらには余暇における外出先等が上野原、山梨方面になることが多く、それ以外の地区は奥多摩や青梅等の東京方面に向いている。

買い物についてはどの地区でも5件ほどある移動商店で日々の買い物を済ませていることが多いが、村中心部の多い川池、橋立、田元地区では村内商店の利用も多くなっている。

生活で不便を感じる点についてはどの地区でも共通して「医療施設」があげられている。村内に常駐の医者がおらず、週3回隣村の丹波山村から往診に来る以外は医療施設が無い場合、現実的には奥多摩方面の医者に通っている住民が多い。そのため移動手段である自動車を自分で運転できる間はよいがさらに高齢化して運転できなくなった場合のことについて不安を感じているようである。また、子どもがいる家の場合には教育問題が多くあげられ、高校進学の際に大きな問題を抱えるという。これは、村内に高校がないことに起因しており下宿、通学どちらの場合にしても金銭面の負担が大きくなるのが最大の問題である。またこれらの家庭では「村にいと（来たら）意外に教育費に金がかかる」という意見が多くみられた。なお、中組、小永田地区は特に不満はないという意見が比較的多くなっているが、この点については村の中心部に比較的近い、近年温泉施設、物産館、村営住宅が出来て地区が発展している。

地形が比較的なだらかななどの理由が住民からあげられている。

住民が村内でよく行く場所、好きな場所さらには余暇活動については若年、中年層は村外への買い物やレジャー、観光等が多いが高齢層になると友人の家や畑、温泉などが多くなり行動範囲が次第に狭くなっていることが明らかである。また、老人会等に参加している住民はこれらの活動にも多くの時間を割いており、なかには自分たちで作ったものを村内で販売している団体もある。なお、老人会や青年会、消防団などの活動は近年の過疎化の影響を受け参加者が減少傾向にあり活動に支障を来したり、

中心人物に負担がかかりすぎるなどの問題も出ている。

地区落で残したいものについてはどの地区も自然関連の回答が多く住民のなかで重要視、価値の再確認が行われているようである。また、橋立、小永田地区では神楽や神社などの伝統芸能を多く回答する地区もみられた。特にこの伝統芸能に関しては人口の減少から実施しづらくなっている行事ややらなくなった行事などがあることが明らかになっており、文化・伝統の継承や観光資源の保全の観点からも保存の手だてを考えていく必要がある。伝統料理、郷土料理については、全村でこんにゃく、そば、おばく、があげられている。しかし、現在ではあまり作られなくなっているようであり、こちらも保存・継承の手だてを考える必要があると思われる。

5. 意見要望等

1) 上下流住民の交流に関する意見要望

上下流住民の交流に関してはどの地区においても好意的に捉えている住民が多いことが明らかになった。しかし、実際に交流の現場に参加するかとなると二の足を踏む住民がほとんどであった。自分に何が出来るかわからない、出来ることがないと考えている人が多く、また、交流活動で何をやっているかわからないという回答も多くみられた。今後はこのような人たちへのアプローチも必要であり、これにより多くの人材の掘り起こしと、交流プログラムの充実多様化が図られるのではないだろうか。また、民宿、旅館の多い地区では宿泊型の交流への参加者を増やして欲しいという意見が多くみられ、そのための準備を行っているグループもあるようである。

なお、今後交流が進んだ場合の懸念事項としてはゴミ問題を中心に観光客・参加者のマナー問題が多くあげられている。

このように交流に関しては住民が好意的に捉えていることが多いため今後様々なアクションやアプローチを積極的に起こすことが望ましいのではないだろうか。また、このとき行政主導よりは住民主導になるよう手助け、誘導することが望ましいと考えられる。

2) 村の発展および行政に対する意見・要望

多くの意見があげられたが、それらは過疎化対策、雇用問題対策、高齢化対策の3つに集約される。すなわちこれが行政に対する要望でもある。これら3点は個人では解決しにくい問題であり、行政側の包括的な対応が求められている。

また、村の発展についてはこれまでは住民の意見特に若者や女性の意見をあまり言う場所や活動がなかったが今後はこれらの人の意見をもっと聞いて実行してみるべきであるという意見が年齢・男女を問わず聞かれた。さらには村外の住民の意見やニーズを積極的に探り、取り入れることも検討するべきであるというものも多い。これにより新たな方策や活動が見いだされると期待している人が少なくないようである。新しい方策としては特に、自然を生かした村独自のやり方（観光産業の発展）が求められている傾向にある。さらに、情報の整備・伝達を求める意見も多く、これまで役場

中心にいろいろな事業を展開してきたがその情報が伝わらず参加や発言を逃したという意見も少なくない。

6. 今後の課題と提言

悉皆調査の結果より、小菅村における住民の意向と資源活用については、全村民参加・企画型の交流事業（プログラム）を中心としたアクションを様々に起こすことが1つの方向であると考えられる。事業は 日帰り型や長期滞在型など日程を設定したもの、 老人や子ども、家族、クラブ活動等参加者のターゲットを絞ったもの、 レクリエーション型、学習型の体験目的、 自然体験、文化・芸能体験の分野目的など様々に考えられ組み合わせることが可能である。小菅村は恵まれた自然を持つ農山村であるとともに、東京都という大都市を下流域、近距離に持つ立地条件にも恵まれていると言える。また、住民の就業構成比をみても観光産業に従事するものが少なくないことから活性化には村に人を呼ぶことが必要である。それには下流域住民を対象とした交流事業を行うことが有効である。これまでもそのための事業は数々行われてきたが村民の意見をまとめると、これまでは村主導で関わっている人が少なく、また、その情報が伝わってこないという意見が多いことが明らかとなった。さらに、若い人や女性の意見があまり反映されてこなかったという意見も多い。実際にこれらの人に聞き取ってみると何かしらの意見や事業案を持っているものも少なくない。

予算や人材の関係から大きな事業を行うことが難しい現段階において、小規模であっても村民発の様々な事業を行うことにより、人材の掘り起こしや意見の集約、さらには事業（プログラム）のノウハウが蓄積され、その後につながる活動であると考えられる。また、これらの活動、蓄積を通して過疎化や高齢化によって耕作放棄地となってしまった農地や雇用条件の問題が改善される方向に移行するのではないだろうか。

なお、これらの実行のためには上下流住民の連携もさることながら村内住民の連携が必要であり、情報の一元化や、事業案の提出先・検討先等を整備するなどクリアすべき課題も多い。しかし今後は森林以外にも交流事業を様々なフィールドに広げ、村民を巻き込むことが必要であると考えられる。以下に一部であるが村民から発案された交流事業（プログラム）をあげておく。

～交流プログラムに発展できそうなもの～ 講師は全て村内在住経験者

- ・炭焼き（長作はかつて白炭を生産）
- ・そば、おばく、こんにやく等の伝統料理教室
- ・下流域住民の伝統芸能への参加
- ・農地の貸付・管理 物産館での共同販売
- ・便利屋（有料）
- ・村の子ども契約（週末ふるさと計画・子どもの受け入れ）
- ・地区ごとの農産物直販

2 源流域住民の意向調査 - 小菅村村民アンケート調査より -

今日の源流域を巡る諸環境は、わが国経済のグローバル化や平成の大合併の中にあって、基幹産業である農林業が益々縮小しつつあり、加えて進む少子高齢化や第2の過疎化など急速な構造変化を余儀なくされている。このことは、源流域の地域を維持する機能が大きく変容し、安全な国土利用や日常的な地域資源管理に少なからず影響を及ぼしつつある。その結果、上流域の森林や農地を中心に管理不足や遊休農地の増加などから荒廃が進み、このまま推移すると河川環境の悪化、土砂崩壊や洪水の危険性の増加など、国土環境を脅かす自他となっている。

他方、下流域においては、環境に対する住民意識の高まりや都市生活ライフに対する価値観の変化などから河川管理や森林管理あるいは農林業などの作業（農山村ライフ）に積極的に参加する傾向が見られるようになった。そのことは、都市と農山村の交流事業など、上流域の新たな地域活性化対策として注目されている。

本調査は、源流域の住民は、現在の生活や生産環境についてどのような意識を持っているのか、また、地域（居住地域）の将来についてどのような考え方をしているのかを明らかにするために、多摩川の源流である山梨県小菅村をモデルとして村民アンケートを実施し、村民の意向と資源活用の実態について明らかにすることを目的とした。

2 - 2 - 1 小菅村の概況

小菅村は、秩父多摩国立公園内にあり、東京都内を貫流する多摩川の源流部に位置している。東西 14km、南北 7km で、総面積は 5,265ha、標高は奥多摩湖面の 530 m から大菩薩連山の 2,000 m までと高低差に富み、総じて急峻な地形となっている。村面積の 95 % を森林が占め、その内の約 3 割に当たる 1,630ha が東京都の水源涵養林である。

2005 年 4 月 1 日現在の人口は、1,086 人、世帯数 367 と極めて小さい村であり、高齢化率が 32 % と極めて高い典型的な源流域の山村である。急峻で耕地が少ない村内には、橋立、川池、田元、中組、東部、白沢、小永田、長作の 8 つの集落が構成されており、橋立から小永田までの 7 集落は多摩川水系の小菅川沿いに形成され、長作集落は相模川水系の鶴川沿いに形成され、標高差が 540 - 780 m の谷間に存在している。

都心から 80km 圏内にありながら、ミズナラやブナ、シオジなどの原生林、ツキノワグマやイノシシなどの大型哺乳類や様々な野鳥、昆虫から他種の山野草など、豊かで、優れた自然と古くから培われた伝統的な文化が残されているという特徴がある。

小菅村へは、奥多摩町、檜原村、上野原町、大月市、塩山市の 5 方面からの経路があり、奥多摩町からは村営バスへの連結を含め平日 4 本、祝祭日 5 本の路線バスが運行している。ちなみに、それぞれの所要時間などは次のとおりとなっている。

多摩西部や埼玉方面 青梅市から 40km、約 60 分

中央高速上野原 I C 県道上野原・丹波山線経由で 30km、約 50 分

中央高速大月 I C 国道 139 号線経由 35km、約 60 分

中央高速塩山勝沼 I C 国道 411 号線経由 45km、約 80 分

中央高速八王子 I C 青梅市または檜原村経由とも 60km、約 90 分

小菅村の産業動向は、1950 年代までは農林業などの第 1 次産業が就業者の半数以上を占めており、その後、わが国の高度経済成長を反映して、過疎化と都市化の波が急速に押し寄せる中で、土建業を中心とする第 2 次産業や奥多摩町や青梅市などの第 3 次産業へと順次移行し、近年では、第 1 次産業 15 %、第 2 次産業 43 %、第 3 次産業 42 %となっている。

それぞれの特徴をみると第 1 次産業では、わさびやこんにゃくの栽培、茸の施設栽培、観光用のヤマメ・イワナなどの養殖業が中心となっている。特に、わさびは県下でも有数の生産量を上げ、また、養殖業は先進地として卓越した技術を誇っているが、いずれも急峻な地形や厳しい気象条件など、さらには、近年の農林業をめぐる厳しい諸環境から就業者の高齢化や後継者不足など年々縮小傾向となっている。また、村の大半を占める森林については、戦後に造林された人工造林地が約 43 %存在するが、長期的な木材価格の低迷の中で農家や林業をはじめ森林所有者等の林業離れ、森林離れが進んでいる。その結果、森林荒廃や農地の遊休化が進むなど源流域での土地管理が行き届かない状況となっている。このことはそのまま放置すると森林崩壊や土砂崩れなどが多発する危険性や洪水の危険性を増すことにつながり大きな問題といえる。

第 2 次産業は、精密機械類などの製造業、土建や建築などの建設業などが僅かにあるが、平成の不況を諸に受け低迷を続けている。

第 3 次産業では、サービス業、卸小売業、公務がほとんどで、中でも観光関係を中心としたサービス業が多くなっている。とはいえ、キャパシティー、資源活用、企画力などにおいて必ずしも整備されていると言い難く、観光サービス産業が基幹産業には成長していない。そのような中で、1994 年にオープンした日帰り温泉施設「多摩源流・小菅の湯」は、年間 10 万人以上の新たな入り込み客があり、近年の体験農林業や自然散策ガイド、低農薬有機栽培による農産物の直売など、第 1 次産業と観光業を連携させ、都市との交流によるシステムづくりを進め、小菅村の特性を活かした新たな産業の創出が期待される。

このように、小菅村は、多摩川の源流域にあってかつての基幹産業であった林業あるいはわさびなどを中心とした特用林産部門は大きく縮小し、変わって展開した土木建築業は、公共事業の縮小や平成の不況の中で不振となっており、他方、生き残りの重要な要とする観光サービス産業部門は未だ途上ある。さらに、国の行・財政改革路線によって進められている平成の大合併については、行政規模や経済的位置などから合併がままならないなど存続の危機的な状況にある。

いま、全国的に源流は急激な過疎と高齢化、少子化の荒波にさらされている。このまま推移すれば源流域の村や町の存続基盤が危うくなりかねない。そうすると自然は荒廃し、至る所の河川環境が悪化するとともに、土砂崩れや洪水の多発となり、みどり豊かな国土はぼろぼろの茶色で脆弱な国土と化すであろう。いうまでもなく流域全体が良くなってこそ自然や川は守られるが、流域の中でも特に源流は大切な位置にあるとともに、流域のシンボルといっても過言ではない。水を生み出す源流は流域の宝であり命である。源流を良くすることは、とりもなおさず流域全体を良くすることを意味する。

こうした中で、源流域の生活や土地管理の実態を明らかにし、源流域住民の将来に対す

る意識などについてアンケート調査を行い、地域特性や地域資源管理の特徴あるいは地域資源の掘り起こしと可能性を検討し、源流域活性化について検討した。

2 - 2 - 2 調査方法

本調査は、山側源流域に属する山梨県小菅村の村民に対するアンケート調査を行った。

2005年1月上旬に小学校4年生以上の村民約1050名にアンケート用紙を役場をとおして配布し、1月下旬に役場をとおして回収した。回収数は一般住民が669件、小中学生が33件、合計702件、回収率66.7%であった。

2 - 2 - 3 住民の意識（調査結果）

1. 回答住民の特性

まず、回答者の性別及び年齢については表-1・2のとおりである。男47.1%、女52.9%となっている。また、年齢別には、70才代が最も多く21%、次いで60才代19.7%、50才代が19.1%となり、高齢化を反映して年代が若くなるに従って低くなっている。特に、80才代が10.9%、70名の方から回答を得た。

表-1.性別

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
男	306	45.7	47.1
女	344	51.4	52.9
無回答	19	2.8	
合計	669	100.0	650

表-2.年齢

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
10代	16	2.4	2.5
20代	27	4.0	4.2
30代	61	9.1	9.5
40代	85	12.7	13.2
50代	123	18.4	19.1
60代	127	19.0	19.7
70代	135	20.2	21.0
80代以上	70	10.5	10.9
無回答	25	3.7	
合計	669	100.0	644

次に、職業別には、年金生活者が21.1%（131名）と最も多く、次いで主婦の17.8%（111名）、無職13.3%（83名）、自営業14.5%（90名）、サラリーマン10.3%（64名）となり、農林業はわずか4.3%（27名）にすぎない。

表-3．職業

	件数	全体（％）	有効回答割合（％）
自営業	90	13.5	14.5
公務員	37	5.5	5.9
団体職員	23	3.4	3.7
農林業	27	4.0	4.3
サラリーマン	64	9.6	10.3
フリーター	7	1.0	1.1
学生	22	3.3	3.5
主婦	111	16.6	17.8
無職	83	12.4	13.3
年金生活者	131	19.6	21.1
その他	27	4.0	4.3
無回答	47	7.0	
合計	669	100.0	622

家族構成については、夫婦のみが 308 %（188 件）と多いが、親子三代で暮らしている家庭が 117 件の 19.1 %と比較的多くなっている。また、夫婦と子どもが 18.7 %、父母と同居が 16.2 %となり、一人くらいが約 1 割（60 件）と高齢化が進む中で、高齢者世帯が増加する傾向にある。

表-4．家族構成

	件数	全体（％）	有効回答割合（％）
一人暮らし	60	9.0	9.8
父母と同居	99	14.8	16.2
夫婦のみ	188	28.1	30.8
夫婦と子ども	114	17.0	18.7
三世代	117	17.5	19.1
その他	33	4.9	5.4
無回答	58	8.7	
合計	669	100.0	611

また、現在住んでいる集落到どのくらいの年数住んでいるかについては、30 年以上住んでいるが 41.8 %（266 件）、生まれてからずっとが 147 件の 23.1 %と両方で 6 割強の方が長期居住型である。10 未満は約 1 割にすぎない。

表-5 現在の集落での居住年数

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
生まれてからずっと	147	22.0	23.1
3年以下	32	4.8	5.0
4年以上～10年未満	43	6.4	6.8
10年以上～20年未満	69	10.3	10.8
20年以上～30年未満	80	12.0	12.6
30年以上	266	39.8	41.8
無回答	32	4.8	
合計	669	100.0	637

2. 生活の満足度

住民生活において次の13項目について満足度を聞いた。その結果、満足度の高い項目は、Q4の住環境・自然環境の快適さ、Q1の犯罪防止・消防・救急体制等の生活の安全、Q5の衣・食・住など生活の豊かさ、Q9の地域活動や住民課の交流・ふれあいについて、Q6の小・中学校の教育施設や教育環境などである。一方、満足度の低い項目は、Q2の医療施設や地域の保健活動、Q3の交通条件や買い物の便利さ、Q10の生活の充実感・精神的な満足度、Q13の全てを総合した生活全般について等となった。また、満足と不満足がほぼ同数の項目は、Q11の公的機関（役場など）の取り組みとサービス、Q12の情報サービス（インターネット、携帯電話などの普及）等となっている。地域別、年齢別、職業別などによる細部の分析が必要であるが、交通条件や医療施設などインフラの整備状況についての不満が高くなっている。また、教育関係については、回答者が高齢者が多いことや自然環境が優れているなどの条件からそれほど不満感はでていない。

- Q1 犯罪防止・消防・救急体制など生活の安全性
- Q2 医療施設や地域の保健活動
- Q3 交通条件や買い物の便利さ
- Q4 住環境・自然環境の快適さ
- Q5 衣・食・住など生活の豊かさ
- Q6 小・中学校の教育施設や教育環境
- Q7 社会教育・体育・文化施設とその活動について
- Q8 福祉施設や福祉サービスについて
- Q9 地域活動や住民間の交流・ふれあいについて
- Q10 生活の充実感・精神的な満足度
- Q11 公的機関（役場など）の取り組みとサービス
- Q12 情報サービス（インターネット、携帯電話などの普及）
- Q13 全てを総合した生活全般について

表-6 Q1 犯罪防止・消防・救急など生活の安全性

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
満足している	145	21.7	23.3
どちらかといえば満足	250	37.4	40.3
どちらかといえば不満	120	17.9	19.3
不満である	64	9.6	10.3
わからない	42	6.3	6.8
無回答	48	7.2	
合計	669	100.0	621

表-7 Q2 医療施設や地域の保健活動

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
満足している	65	9.7	10.6
どちらかといえば満足	149	22.3	24.2
どちらかといえば不満	216	32.3	35.1
不満である	147	22.0	23.9
わからない	39	5.8	6.3
無回答	53	7.9	
合計	669	100.0	616

表-8 Q3 交通条件や買い物の便利さ

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
満足している	62	9.3	10.1
どちらかといえば満足	124	18.5	20.2
どちらかといえば不満	178	26.6	29.0
不満である	218	32.6	35.5
わからない	32	4.8	5.2
無回答	55	8.2	
合計	669	100.0	614

表-9 Q4 住環境・自然環境の快適さ

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
満足している	126	18.8	20.7
どちらかといえば満足	271	40.5	44.4
どちらかといえば不満	117	17.5	19.2
不満である	57	8.5	9.3
わからない	39	5.8	6.4
無回答	59	8.8	
合計	669	100.0	610

表-10 Q5 衣・食・住など生活の豊かさ

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
満足している	113	16.9	18.3
どちらかといえば満足	258	38.6	41.7
どちらかといえば不満	142	21.2	22.9
不満である	72	10.8	11.6
わからない	34	5.1	5.5
無回答	50	7.5	
合計	669	100.0	619

表-11 Q6 小・中学校の教育施設や教育環境

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
満足している	84	12.6	13.9
どちらかといえば満足	210	31.4	34.8
どちらかといえば不満	115	17.2	19.1
不満である	54	8.1	9.0
わからない	140	20.9	23.2
無回答	66	9.9	
合計	669	100.0	603

表-12 Q7 社会教育・体育・文化施設とその活動について

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
満足している	66	9.9	11.0
どちらかといえば満足	191	28.6	31.8
どちらかといえば不満	138	20.6	23.0
不満である	60	9.0	10.0
わからない	146	21.8	24.3
無回答	68	10.2	
合計	669	100.0	601

表-13 Q8 福祉施設や福祉サービスについて

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
満足している	110	16.4	17.8
どちらかといえば満足	234	35.0	37.9
どちらかといえば不満	130	19.4	21.1
不満である	49	7.3	7.9
わからない	94	14.1	15.2
無回答	52	7.8	
合計	669	100.0	617

表-14 Q9 地域活動や住民間の交流・ふれあいについて

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
満足している	99	14.8	16.1
どちらかといえば満足	261	39.0	42.5
どちらかといえば不満	123	18.4	20.0
不満である	53	7.9	8.6
わからない	78	11.7	12.7
無回答	55	8.2	
合計	669	100.0	614

表-15 Q10 生活の充実感・精神的な満足度

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
満足している	93	13.9	15.2
どちらかといえば満足	236	35.3	38.5
どちらかといえば不満	168	25.1	27.4
不満である	73	10.9	11.9
わからない	43	6.4	7.0
無回答	56	8.4	
合計	669	100.0	613

表-16 Q11 公的機関（役場など）の取り組みとサービス

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
満足している	97	14.5	15.7
どちらかといえば満足	231	34.5	37.4
どちらかといえば不満	150	22.4	24.3
不満である	58	8.7	9.4
わからない	81	12.1	13.1
無回答	52	7.8	
合計	669	100.0	617

表-17 Q12 情報サービス（インターネット、携帯電話などの普及）

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
満足している	74	11.1	12.5
どちらかといえば満足	166	24.8	28.1
どちらかといえば不満	131	19.6	22.2
不満である	92	13.8	15.6
わからない	128	19.1	21.7
無回答	78	11.7	
合計	669	100.0	591

表-18 Q13 全てを総合した生活全般について

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
満足している	70	10.5	11.5
どちらかといえば満足	236	35.3	38.8
どちらかといえば不満	186	27.8	30.6
不満である	69	10.3	11.3
わからない	47	7.0	7.7
無回答	61	9.1	
合計	669	100.0	608

3. 将来の意向 (将来住みたいか、その理由は)

将来とも今のところに住みたいか。住みたい場合その理由について質問している。その結果、今後とも住みたいとするものが 68.3 %と多い結果となった。また、住みたい理由としては、生まれ育ったところだからが 64.0 %、自然がきれいだから 14.4 %、ろくに不便を感じない 10.1 %となった。とはいえ、村外へ転出したいとするものが 21.9 %、132名にものぼっていることに注意が必要である。

他方、転出したい理由としては、生活が不便であるや仕事がないなど基本的な問題となっている。特に、若い世代において生活の不便さや仕事がないというのは基本問題であり、若者定着にとって不利な条件が多いということになる。

表-19 将来とも今のところに住みたいですか

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
今後とも住みたい	411	61.4	68.3
村外へ転出したい	132	19.7	21.9
集落を変わりたい	2	0.3	0.3
わからない	57	8.5	9.5
無回答	67	10.0	
合計	669	100.0	602

表-20 住みたい理由

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
生まれ育った所だから	254	61.8	64.0
自然がきれいだから	57	13.9	14.4
農山村が好きだから	28	6.8	7.1
特に不便を感じない	40	9.7	10.1
その他	18	4.4	4.5
無回答	14	3.4	
合計	411	100.0	397

表-21 . 村外に転出したい理由

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
生活が不便	55	41.7	42.3
仕事がない	29	22.0	22.3
子どもの教育のため	13	9.8	10.0
つきあいが大変	26	19.7	20.0
その他	7	5.3	5.4
無回答	2	1.5	
合計	132	100.0	130

4 . 日頃活動している団体やクラブ及び買い物などについて

日頃どんな活動団体で活動しているかについては、564 名の方が回答し、何かの活動を行っている人が 299 名の 53.0 %であった。その内どんな団体で活動されているかについては 293 名が回答しており、一番多い活動団体が、青年会・婦人会・老人クラブなどで 62.5 %、文化サークルや趣味サークルと農林業・商工会の団体がそれぞれ 12.3 %となっている。また、参加しない理由については 200 名から回答があり、その理由として興味のある団体がない 44.0 %、時間的な余裕がないとするものが 37.5 %となっている。

表-22 あなたが日頃活動に参加している団体、クラブ等ありますか (S A)

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
ある	299	44.7	53.0
ない	265	39.6	47.0
無回答	105	15.7	
合計	669	100.0	564

表-23 どのような団体ですか

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
青年会・婦人会・老人クラブ等	183	61.2	62.5
文化サークル・趣味サークル	36	12.0	12.3
奉仕活動の団体	26	8.7	8.9
農林業・商工業の団体	36	12.0	12.3
その他	12	4.0	4.1
無回答	6	2.0	
合計	299	100.0	293

表-24 . 参加してない理由

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
時間的な余裕がない	75	28.3	37.5
興味ある団体がない	88	33.2	44.0
その他	37	14.0	18.5
無回答	65	24.5	
合計	265	100.0	200

また、日頃行っている健康管理については、規則正しい生活をしているが 48.6 %、食生活に気を付けるが 43.0 %、定期的に健康診断を受けるが 33.7 %となっている。スポーツなど適度な運動をするについては 10.5 %とそれほど多くはない結果となっている。

表-25 . 自分の健康を管理するため、どんなことに気をつけていますか。(M A)

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
睡眠を十分にとり、規則正しい生活をする	288	43.0	48.6
スポーツ等適度な運動をする	62	9.3	10.5
食生活に気を付ける	255	38.1	43.0
定期的に健康診断を受ける	200	29.9	33.7
ストレスの解消に努める	98	14.6	16.5
その他	22	3.3	3.7
無回答	76	11.4	
合計	1001	100.0	593

余暇活動については、593 名が回答しており、最も多い活動はテレビで 74.7 %、次いで旅行・ドライブが 31.9 %、ごろ寝 29.9 %、散歩 26.4 %、読書・レコード鑑賞 20.6 %となっている。

表-26 . あなたは余暇をどのように過ごしていますか (3 つま (M A)

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
テレビ	442	66.1	74.7
読書・レコード鑑賞	122	18.2	20.6
スポーツ	47	7.0	7.9
盆栽等	47	7.0	7.9
旅行・ドライブ	189	28.3	31.9
囲碁・将棋	5	0.7	0.8
パチンコ・マージャン	40	6.0	6.8
スポーツ等の見学	20	3.0	3.4

散歩	156	23.3	26.4
ごろ寝	177	26.5	29.9
その他	106	15.8	17.9
無回答	77	11.5	
合計	1428	213	593

買い物を何処で行うかについては、日常の食料品について東京方面が最も多く 49.4 %、次いで村内が 42.3 %となっている。次に、衣料品については、571 名が回答しており、その内 80.9 %が東京方面と答えている。その他、家具・電気製品、スーツ類、スポーツ用品などにおいても東京方面で買い求めている実態が明らかである。また、病院などについても、東京方面の病院を利用していることが明らかになっている。従って、本村の経済圏は、奥多摩町、青梅市をはじめとする東京都の経済圏に属していることが明らかである。

表-27．あなたは日頃買い物はどこに行きますか 日用の食料品

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
村内が多い	256	38.3	42.3
山梨方面が多い	50	7.5	8.3
東京方面が多い	299	44.7	49.4
無回答	64	9.6	
合計	669	100.0	605

表-28．あなたは日頃買い物はどこに行きますか 日用の衣料品

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
村内が多い	57	8.5	10.0
山梨方面が多い	52	7.8	9.1
東京方面が多い	462	69.1	80.9
無回答	98	14.6	
合計	669	100.0	571

表-29．あなたは日頃買い物はどこに行きますか 家具・電気製品

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
村内が多い	15	2.2	2.7
山梨方面が多い	45	6.7	8.1
東京方面が多い	494	73.8	89.2
無回答	115	17.2	
合計	669	100.0	554

表-30．あなたは日頃買い物はどこに行きますか スポーツ用品

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
村内が多い	22	3.3	5.0
山梨方面が多い	42	6.3	9.6
東京方面が多い	372	55.6	85.3
無回答	233	34.8	
合計	669	100.0	436

表-31．あなたは日頃買い物はどこに行きますか スーツ等高級衣料品

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
村内が多い	20	3.0	4.3
山梨方面が多い	39	5.8	8.4
東京方面が多い	404	60.4	87.3
無回答	206	30.8	
合計	669	100.0	463

表-32．あなたは日頃買い物はどこに行きますか 病院の診察

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
村内が多い	103	15.4	17.3
山梨方面が多い	43	6.4	7.2
東京方面が多い	448	67.0	75.4
無回答	75	11.2	
合計	669	100.0	594

5．老後の生活設計について

あなたは老後のどのように送りたいかについて次のような項目を設けて訪ねた。

仕事について

- 1 年をとっても働ける間は仕事したい
- 2 年をとったらあまり働きたくない
- 3 どちらともいえない

社会活動について

- 1 地域活動やボランティア活動は積極的にやりたい
- 2 地域活動やボランティア活動はしないで暮らしたい
- 3 どちらともいえない

看護・介護について

- 1 長期治療が必要になった場合は、家で家族に面倒をみてもらいたい
- 2 長期治療が必要になった場合は、福祉施設や老人ホーム等に入りたい
- 3 どちらともいえない

- 人間関係について
- 1 友人や知人と、楽しくつきあう生活をしたい
 - 2 人間関係のわずらわしさから離れて暮らしたい
 - 3 どちらともいえない
- 家族について
- 1 子供や孫などと暮らしたい
 - 2 夫婦だけ、または一人で暮らしたい
 - 3 どちらともいえない

その結果、年をとっても働ける間は何らかの仕事をしたいとする人が 67.4 % と多くを占めている。

表-33. あなたは老後をどのように送りたいと思いますか 仕事について

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
年をとっても働ける間は 仕事をした い	404	60.4	67.4
年をとったらあまり働きたくない	75	11.2	12.5
どちらともいえない	120	17.9	20.0
無回答	70	10.5	
合計	669	100.0	599

老後の社会活動については、どちらともいえないとするものが 56.0 % と多くを占めている中で、地域活動やボランティア活動を積極的にやりたいとするものが 33.7 % に及んでいる。

表-34. あなたは老後をどのように送りたいと思いますか 社会活動について

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
地域活動やボランティア活動は 積極 的にやりたい	191	28.6	33.7
地域活動やボランティアは しないで 暮らしたい	58	8.7	10.2
どちらともいえない	317	47.4	56.0
無回答	103	15.4	
合計	669	100.0	566

老後の看護や介護については、長期療養が必要になった場合 33.1 % が福祉施設や老人ホームへ入る希望があり、家で家族に面倒を見てもらうは 25.7 % で、どちらともいえないが 41.2 % となっている。

表-35．あなたは老後をどのように送りたいと思いますか 看護・介護について

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
長期療養が必要になった場合は、家で家族に面倒を見てもらいたい	157	23.5	25.7
長期療養が必要になった場合は、福祉施設や老人ホーム等に入りたい	202	30.2	33.1
どちらともいえない	252	37.7	41.2
無回答	58	8.7	
合計	669	100.0	611

次に、老後の人間関係については、591 名が回答し、友人や知人と楽しくつき合う生活が 79.2 % と大半を占めている。また、子どもや孫など家族と一緒に暮らしたいとするものが 581 人中、293 名、50.4 % が望んでおり、夫婦だけや一人で暮らしたいは 110 名の 18.9 %、約約 2 割の方が夫婦だけ、あるいは一人暮らしを希望している。

表-36．あなたは老後をどのように送りたいと思いますか 人間関係について

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
友人や知人と、楽しくつきあう生活をしたい	468	70.0	79.2
人間関係のわずらわしさから離れて暮らしたい	42	6.3	7.1
どちらともいえない	81	12.1	13.7
無回答	78	11.7	
合計	669	100.0	591

表-37．あなたは老後をどのように送りたいと思いますか 家族について

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
子どもや孫などと暮らしたい	293	43.8	50.4
夫婦だけ、又は一人で暮らしたい	110	16.4	18.9
どちらともいえない	178	26.6	30.6
無回答	88	13.2	
合計	669	100.0	581

6．後継者について

後継者については、後継者がいるとするものが 265 名で 39.6 %、いないが 28.6 %、無回答が 213 名の 31.8 % となった。後継者がいるとするもの 265 名の中で、現在一緒に住んでいるが 142 名 (56.1 %)、現在は村外にいるが、将来は帰村し、家を継ぐとするもの 64

名（25.3％）、現在は学生であるが、将来は家を継ぐとするものが13名（5.1％）となっている。後継者不足が深刻な問題であることが分かる。

また、後継者がいないとする191名の内、村外に転出しているが105名で68.6％を占め、

現在は学生であるが、将来は家を継ぐ見込みはないとするものが31名で20.3％を占めるなど、将来第2の過疎となる様相を呈している。

表-38．あなたの家族には後継者がいますか

	件数	全体（％）	有効回答割合（％）
いる	265	39.6	58.1
いない	191	28.6	41.9
無回答	213	31.8	
合計	669	100.0	456

表-39．あなたの家族には後継者がいますか いる場合

	件数	全体（％）	有効回答割合（％）
現在後継者がいる	142	53.6	56.1
現在は村外にいるが、将来は帰村し家を継ぐ予定	64	24.2	25.3
現在は学生等であるが、将来は家を継ぐ予定	13	4.9	5.1
その他	34	12.8	13.4
無回答	12	4.5	
合計	265	100.0	253

表-40．あなたの家族には後継者がいますか いない場合

	件数	全体（％）	有効回答割合（％）
村外に転出している	105	55.0	68.6
現在は学生であるが、将来は家を継ぐ見込みはない	31	16.2	20.3
その他	17	8.9	11.1
無回答	38	19.9	
合計	191	100.0	153

7．インターネットについて

村のインフラ整備の中でこれからの需要が高まるとされるインターネットについて訪ねた。まず、現在、インターネットを使用している人は451人中、88名で、村内人口普及率は19.5％ということになった。では、その方々についてインターネット（以下、IT

とする)の回線について訪ねると82名が答えており、現在の回線に不満がある方が82名中66名、80.5%が不満をいただいている。

他方、現在使っていない方でこれから使いたいと思うかについては、これからも使うつもりはないが64.0%にも及んでいる。高齢化のためにITにはそれほど興味がないと推測されるが、これからは多様な情報システムを構築することからも理解を求める必要がある。

表-41 インターネットを使っている

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
はい	88	13.2	19.5
いいえ	363	54.3	80.5
無回答	218	32.6	
合計	669	100.0	451

表-42 . インターネットの回線について 使っている

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
現在の回線速度に満足している	16	18.2	19.5
現在の回線速度に不満がある	66	75.0	80.5
無回答	6	6.8	
合計	88	100.0	82

表-43 . インターネットを使っていますか 使っていない

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
回線速度に関わらずこれから使いたい	47	12.9	19.7
回線速度が向上したら使いたい	39	10.7	16.3
インターネットを使うつもりはない	153	42.1	64.0
無回答	124	34.2	
合計	363	100.0	239

8 . 子ども達について

村で育った子どもたちは高校・大学時代に一度村を出なくてはならない現状にあるが、これらの子どもたちに将来村に帰ってきて欲しいと思うかどうかについて訪ねた。476名が回答している。なかでも表-44 のように「子どもに任せる」という回答が最も多く41.6%であった。帰ってきてほしいとするものが39.9%、どちらともいえないが12.8%となっている。「子ども達には子ども達の人生がある」なのに無理を言って小菅に帰ってきて、仕事がない、基幹産業が脆弱などという厳しい現実から親心がでてきているようだ。

また、子ども達に帰ってきてほしいとする中で、そのためにはどんな施策が必要かという問については、表-45 のとおり365名が回答しており、何よりも産業振興であるとするものが56.2%を占めている。次いで、交通条件の整備等となっている。

表-44 . 村で育った子どもたちについて、将来村に帰って来てほしい

(S A)	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
帰ってきて欲しい	190	28.4	39.9
帰ってきて欲しくない	15	2.2	3.2
子どもに任せる	198	29.6	41.6
どちらとも言えない	61	9.1	12.8
その他	12	1.8	2.5
無回答	193	28.8	
合計	669	100.0	476

表-45 . 子どもたちのためにはどんな施策が必要だと思いますか

(M A)	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
産業振興	205	30.6	56.2
生活環境の整備	117	17.5	32.1
交通条件の整備	122	18.2	33.4
教育施設の整備	40	6.0	11.0
若者の娯楽施設の整備	58	8.7	15.9
集落の交流	12	1.8	3.3
社会スポーツ活動	11	1.6	3.0
その他	19	2.8	5.2
無回答	304	45.4	
合計	669	100.0	365

9 . 小菅村について感じる事

小菅村をふるさとだと思いますかについての質問に 506 名の村民が答えている。ふるさとと思うとするものが 407 名 80.4 % と圧倒的であるが、思わない 32 名、分からないとするものが 67 名存在している。

表-46 . 小菅村を「ふるさと」だと思いますか

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
思う	407	60.8	80.4
おもわない	32	4.8	6.3
わからない	67	10.0	13.2
無回答	163	24.4	
合計	669	100.0	506

近年、各地で進められている「都市と農村の交流」事業については、475 名の方が回答しており、積極的に進めるべき 32.2 %と進める 34.7 %を合わせると 66.9 %と約 7 割の村民が交流事業の推進派である。一方、進めるべきでないは僅かに 12 名の 2.5 %であるが、分からないとするものが 138 名、約 30 %に達している（表 - 47）

では、どんな交流事業が良いかについては、自然体験が 32.9 %で最も多く、次いで、自然や森林を守る基金 25.0 %、農産物流通 23.3 %、農山村生活体験 19.9 %となり、農林業体験は 114 名の 17.0 %と低くなっている（表-48）。

また、交流事業医に参画できることとしては 250 名が答えており、村の道案内 14.7 %、農山村の案内 59 名、80.8 %、郷土料理指導が 55 名 80.6 %となっており、身近で、日常的な内容となっている。

表-47「都市と農村の交流」が盛んに提唱されていますが、 どうおもいますか

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
積極的に進めるべき	153	22.9	32.2
進めるべき	165	24.7	34.7
進めるべきでない	12	1.8	2.5
わからない	138	20.6	29.1
その他	7	1.0	1.5
無回答	194	29.0	
合計	669	100.0	475

表-48 . あなたの考える都市と農村の交流を教えてください(3つ をしてください)

(MA)	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
農林業体験	114	17.0	28.1
自然体験	220	32.9	54.3
農山村生活体験	133	19.9	32.8
自然や森林を守る基金	167	25.0	41.2
山村留学など子供の相互関係	106	15.8	26.2
農産物の流通	156	23.3	38.5
スポーツ体験	30	4.5	7.4
姉妹関係	54	8.1	13.3
その他	9	1.3	2.2
無回答	264	39.5	
合計	1253	187	244

表-49．あなたが交流に関して出来ること全てに をつけてください

(M A)	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
農山村の案内	59	8.8	23.6
農林業体験の指導	53	7.9	21.2
村の道案内	97	14.5	38.8
川遊び指導	41	6.1	16.4
郷土料理指導	55	8.2	22.0
伝統工芸作りの指導	12	1.8	4.8
伝統芸術の指導	11	1.6	4.4
その他	31	4.6	12.4
無回答	419	62.6	
合計	669	100.0	250

現在村が行っている都市との交流による地域活性化について、295 名が回答しており、賛成が 168 名で 25.1 %、関心がない 126 名で 18.8 %、そして無回答 374 名、全体の 55.9 %と過半数を上回っている。

表-50．地域活性化について (S A)

	件数	全体 (%)	有効回答割合 (%)
賛成	168	25.1	56.9
反対	1	0.1	0.3
関心がない	126	18.8	42.7
無回答	374	55.9	
合計	669	100.0	295

10．これからの小菅村に必要な施策について

これからの小菅村において特に優先して進めるべき施策については、536 名が回答しており、最も多い項目が高齢者のための福祉施設と在宅福祉サービスの充実を図るとするものが 238 名、44.4 %。次いで、山林、河川等の自然環境の保護と美化を図るが 208 名で 38.8 %

、集落道・林道の道路交通網の整備を図る 170 名、31.7 %、消防、防災等、防災対策の充実を図るが 108 名、20.1 %となっている。

また、21 世紀における小菅村のあり方については、565 名が回答しており、保険、医療サービスがいきとどいた、安心して暮らせる集落が 54.9 %と過半数を占め、次いで、水や空気のきれいな自然が今のまま残され、うるおいのある集落が 39.3 %、交通網や情報通信網が発達した便利な集落が 29.2 %、犯罪、災害のない安全な集落が 28.3 %、人情豊かで、地域住民間で、交流が活発な、ふれあいの多い集落が 26.2 %、産業活動が活発な活力ある集落が 24.4 %となっている。以上のように村民は、これからの村に対して保険医療サービスの充実や美しい自然を保全した、人情豊かな村というソフト面での発展を望んでいる。

表-51 特に優先して進める必要があると思うものは何ですか（3つまで）

(MA)	件数	全体(%)	有効回答割合(%)
集落道・林道の道路交通網の整備を	170	25.4	31.7
山林、河川等の自然環境の保護と美化を図る	208	31.1	38.8
土地の基盤整備、有効活用や農林業など基幹産業の振興等を図る	136	20.3	25.4
観光開発、レクリエーション施設の整備等、観光と集落民の憩いの場作りを行う	183	27.4	34.1
企業の誘致及び商工業の振興等を図	160	23.9	29.9
高齢者のための福祉施設と在宅福祉サービスの充実を図る	238	35.6	44.4
水道、下水道等の生活環境の充実を	69	10.3	12.9
消防、防災等、防災対策の充実を図	108	16.1	20.1
学校教育施設、社会教育施設の整備と内容の充実を図る	86	12.9	16.0
国際化、情報化時代にふさわしい人材の育成を図る	78	11.7	14.6
その他	30	4.5	5.6
無回答	133	19.9	
合計	669	100.0	536

表-52 21世紀の小菅村は、どのようにあって欲しいと思われませんか（3つまで）

(MA)	件数	全体(%)	有効回答割合(%)
産業活動が活発な活力ある集落	138	20.6	24.4
交通網や情報通信網が発達した便利な集落	165	24.7	29.2
教育、文化施設が充実し、文化水準の高い集落	65	9.7	11.5
高齢者等が生きがいをもって、生き生きと暮らせる集落	262	39.2	46.4
保険、医療サービスがいきとどいた、安心して暮らせる集落	310	46.3	54.9
犯罪、災害のない安全な集落	160	23.9	28.3
水や空気のきれいな自然が今のまま残され、うるおいのある集落	222	33.2	39.3
下水道など生活環境の整備されたきれいな集落	33	4.9	5.8
人情豊かで、地域住民間で交流が活	148	22.1	26.2

発な、ふれあいの多い集落			
スポーツや趣味が活かせる施設が充実した余暇活動の楽しめる集落	51	7.6	9.0
都会に比べ所得や生活様式に格差がない集落	77	11.5	13.6
その他	12	1.8	2.1
無回答	104	15.5	
合計	669	100.0	565

2 - 2 - 4 アンケート調査結果の若干の考察

アンケート調査の結果を元に若干の考察とこれからの課題をまとめると次のようになる。

第1は、高齢化・少子化が急速に進んでいることである。こうした傾向は急速に地域を変貌する要因となっていくことになろうが、村民はことのほか将来に対する不安はすくなく、日常生活をそれなりにエンジョイしているように見える。とはいえ、若い層においては仕事がないこと等から将来は村外に出ようとしているものも少なくない。村の産業を見直し、多様な年齢層が総合的に関わるような基幹産業の創出が課題であろう。それは、現在、村が先頭に立って勤められているような都市との交流事業を地域の自然的、人文的資源を有効に活用するシステムの構築であると同時に、誰でもが参加でき、経済性を生む新たな産業形態といことになろう。

第2は、小菅村の日常生活に必要な物資や東京方面から購入するなど経済圏は完全に東京経済圏属しているといことである。したがって、村民の経済的な意識の大半は、東京方面則ち多摩川の下流域に向いていることにある。したがって、これからの産業や生活の基盤は、村内の資源を活用して特有の「源流産業」を構築するとしても、その販路や交流の主體的なベクトルは東京方面に向くことになろう。そのための経済的、社会的な整備が村活性化のための必修の条件となる。

第3は、村民の年齢層が高くなっていることから高齢者向けの新たなインフラの整備が必要になってきていることである。それは、病院や介護施設などのハードな分野ではなく、生きがいや健康あるいは楽しさ等を基本とする日常生活のケアということになろう。そのためには、小菅源流ファンを創出し、下流域からの交流人口を拡大するとともに、古くから培われてきた文化そのものを交流商品として提供できるような仕組みであろう。

第4は、荒廃しつつある自然資源の問題である。かつて農林業によって守られてきた森林や農地、河川は、進む少子・高齢化の中で、放置林や遊休農地さらには管理されない河川等が増加し、総体的に地域資源が荒廃している。この荒廃しつつある地域資源を適正に管理するシステムの構築が緊急の課題といえる。「源流再生プロジェクト」の構築が必要である。

第5は、過疎の問題である。現状では微減の段階にあるが、これを10年とか15年のサイクルで見ると、住民意識調査でも明らかなように、多くは村を愛し、村にとどまるこ

とを決心しているが、少なくない人が村外流出を意識していることも事実である。それは人口の流出ではなく世帯の消出につながることから第1の問題とも連動する課題でもあるが、源流域の自然を守るという運動と交流人口を増加させるとともに、流域を上げての自然再生プロジェクトと国の財産を守る産業としての「源流再生産業」を構築する必要がある。

第6は、子ども達の課題である。アンケート結果に明らかなように、子ども達は小菅村を愛し、小菅村をふるさととして誇れるような故郷（源流の里）として発展することを願っている。それは、貴重で、優れた自然が存在するといことだけではなく、それらの自然資源を活用した社会的に重要な産業がわが村に存在していることへの憧れも伺える。とすれば、子ども達に他にはに自然と文化の中で生まれ、育ったという自信と新たに小菅村の社会貢献的などところを教育カリキュラムに加える必要がある。それは、下流域の子ども達との自然体験や源流体験などの交流場や村全体が環境教育の教室となるような「源流教育」の構築が必要といえる。

3 小菅村における住民意識及び資源活用の現状と課題

多摩川源流一帯に広がる東京都の水源林は、100年の歴史を刻む。1901年に東京都が土砂の流出や災害を予防し、清浄な水道水を確保する目的で多摩川源流の山々を整備し、水源林の経営を開始した。100年間という永きにわたり源流域は東京都によって大切に維持管理されてきた。幾多の営利を目的とした開発から逃れることができたため、手つかずの豊かな自然が広範に残された。それは首都圏からわずか80km圏内にあり、すぐ近くに優れた水源林が残されている。小菅村源流一帯は、ブナやミズナラ、カツラやシオジなどの巨木が生い茂り、全国的にも珍しいシオジの天然更新が見られるなど、学術的にも注目されているところである。

ところが、そのすぐ下流域に存在する数集落からなる小菅村や丹波村は、今日の農林業の厳しい環境や長引く平成の深刻な不況や行財政の逼迫などによって、基幹産業である農林業の解体、公共事業に頼る土木建築関係の不況等から存続の危機的状況に貧している。この状態を早急に打開しないとみどり豊かな国土は大きく損壊し、多くの災害を及ぼすことになる危険性がある。

そこで、小菅村をモデルに住民の意識や資源管理の現状を明らかにしてきた。既にみたように、地域におけるかつての土地管理や河川管理など地域資源管理のシステムは大きく変質している。また、住民の意識も進む高齢化と少子中で、何とか新たな活性化の手法を模索しようとしているが、これといった妙案があるわけではなく、今日のグローバルな経済社会にあって流され、自らあきらめムードが漂っているところも少なくない。

この様な中で、源流は国民生活に欠かせない地域であること。源流を守ることは源流域のみならず下流域まで、ひいては国全体の環境を守ることにつながることなど、源流に対する認識を大きく転換する時代にきている。

一方、21世紀は環境の時代といわれる。新しい世紀には新しい価値が生まれる。経済優先から人間尊重大の社会へ、さらに大量消費から持続可能な循環型社会への大転換は21世紀の直面する重要な課題である。モノの豊かさから心の豊かさを求める時代へと人間生活の価値観は確実に変化するであろう。生産力優先ではなく健全な生活優先の社会を持続的に形成することである。人間は日常生活の中に憩いや余暇、ゆとりなどを取り入れ、山や森、川などの自然と素朴な人々との交わりを通して、本来の人間らしさを回復する自発的行動を活発化するであろう。誰でも、源流の爽やかな風や清らかな流れの中に身を置けば、ひとりでの疲れを癒し、新鮮な気分と研ぎ澄まされた感性を取り戻し、明日への糧を得ることができる。源流の美しい自然と素朴な人間性にかげがえのない価値を見いだす時代が必ず到来する。社会の高度化、情報化が進展すればするほど、自然と人との心の通った触れ合いがますます大切になるだろう。

こうした中で、源流域を守る新たな課題と事業を上げると次ぎようになるろう。

源流再生緊急対策事業

国土防災情報システム化事業

源流自然再生事業

源流体験促進事業

源流景観整備促進事業

源流教育促進事業

源流の里整備事業

第 3 部 資料編

- 1 . 小菅村悉皆調査票 1
- 2 . 小菅村悉皆集落集計表 15
- 3 . 小菅村悉皆調査世帯調査結果表 (カルテ) 50
- 4 . 小菅村アンケート調査票 57
- 5 . 小菅村民アンケート調査結果集計表 67

3 変化なし

問4 この家は建築してからどのくらいの年数が過ぎていますか。
(築 年) 一戸建て アパート 団地
改築やリフォームの計画はありますか(どのようにリフォームしたいですか)

問5 日常の買い物はどこから購入していますか

- 1 村内の商店()屋から購入 2 村外で購入
3 農協(JA)から購入 4 移動商店
5 その他

メモ: 米、味噌、醤油、日用雑貨品、日常の衣服
(あるものは買いに行き、あるものは配達があるので気を付けること)

問6 その他、家具など大きなものは主にどこから購入しますか

- 1 村内 2 村外(奥多摩町、青梅市、八王子、大月、上野原、塩山)
3 その他

メモ:

問7 この地区に暮らしていて不便を感じる場所は何ですか

- 1 道路 2 買い物 3 冬場の交通アクセス 4 医療施設 5 教育関係

メモ:

問8 この地区で10年前と比べて大きく変わったところはなんですか

問9 この地区で一番優れているもの。あるいは残しておきたいものは何ですか

優れているもの:

残したいもの:

問10 この地区で一番好きな場所。あるいは残しておきたい場所は何処ですか

好きな場所：
残したい場所：

問 11 この集落でみんなが協同して行うような伝統行事はありますか（祭り、神楽など）

まつり・行事の名前
開催日（期間）
開催場所
主催・参加者
どのような内容か

問 12 伝統行事などでもう一度復活したいものはありますか

まつり・行事の名前
いつ頃まであったまつり・行事か？
開催日（期間）
開催場所
主催・参加者
どのような内容だったか

次は、農業や農地に関する質問です。よろしくお願ひ致します。

参考：1 ha = 1 町歩 = 10 反、1 ha = 100a

問13 耕作地の面積はどれくらいお持ちですか。また、耕作を休んでいる農地はどれくらいありますか。

	なし	0.5ha未満	0.5～1.0ha	1.0～2.0ha	2.0～3.0ha	3.0ha以上	3.0ha以上を選択された方は下の空欄にご記入ください
所有している耕作地	1	2	3	4	5	6	ha
作付している耕作地	1	2	3	4	5	6	ha
借入れている耕作地	1	2	3	4	5	6	ha
貸付けている耕作地	1	2	3	4	5	6	ha
耕作放棄地	1	2	3	4	5	6	ha

問18 農産物はどのような経路で出荷しますか（幾つかのパターンがあるから、気を付けること）

出荷経路：1

出荷経路：2

参考パターン

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 自給用のため出荷していない | 2 農協を介し市場へ出荷 |
| 3 農協を介し特定の業者へ出荷 | 4 農協を介しAコープ店頭へ出荷 |
| 5 特定の業者へ出荷 | 6 農産物直売所へ出荷 |
| 7 自分持ちの店や直売所で販売 | 8 宅急便などで消費者に直接販売 |
| 9 観光農園として消費者に提供販売 | 9 その他（具体的に ） |

問19 一年間の農産物販売額はどれくらいですか(分からない場合は無理をしない)。

回答金額： _____

- | | | |
|----------------|----------------|------------------|
| 1 なし | 2 15万円未満 | 3 15～50万円 |
| 4 50～100万円 | 5 100～200万円 | 6 200～300万円 |
| 7 300～500万円 | 8 500～700万円 | 9 700～1000万円 |
| 10 1000～1500万円 | 11 1500～2000万円 | 12 2000万円以上(万円) |
| 13 分からない | | |

問20 耕作放棄地がある場合、いつ頃から耕作放棄地が発生しましたか。

- | | | | |
|--------------|--------------|----------|----------|
| 1 昭和20年代 | 2 昭和30年代 | 3 昭和40年代 | 4 昭和50年代 |
| 6 昭和60年～平成5年 | 7 平成5年以降(年) | | |

問21 耕作放棄地がある場合、耕作放棄となる以前に作付していた主な農産物は何ですか

- | | | | |
|---------------|------------------|----------|-------|
| 1 稲作 | 2 露地野菜 | 3 施設野菜 | 4 果樹類 |
| 5 花卉・花木 | 6 酪農 | 7 肉用牛 | 10 養豚 |
| 11 養鶏 | 12 養蚕 | 13 コンニャク | 14 茶 |
| 15 雑穀・いも・豆類 | 15 特用林産物(山菜・きのこ) | | |
| 16 その他(具体的に) | | | |

その他メモ：

次は、林業や山林に関して質問致します。よろしくお願い致します。

1 ha = 1町歩 = 10反 1 ha = 100 a

問24 所有している森林の面積はどのくらいですか（1つ 印）

- 1 0～0.5ha未満 2 0.5～1ha未満 3 1～5ha未満 4 5～20ha未満
5 20～50ha未満 6 50～100ha未満 7 100ha以上（ ha）
8 わからない 9 所有してない

そのうち

自己所有面積

共有林持ち分（わからない場合は共有林面積）

問25 所有している森林の比率を教えてください

人工林 % : 天然林 %

比率がわからない場合は、以下から選択してください（1つ 印）

- 1 人工林の方が多い 2 天然林の方が多い 3 分からない

問26 一年間に何日くらい所有している森林に行きますか〔作業・見回り等〕（1つ 印）

- 1 10日未満 2 10～30日 3 30～90日 4 90日以上（ 日）

問27 森林の生育状況を教えてください

- 1 0～5年生 2 6～15年生 3 16～25年生 4 26～40年生
5 41～80年生 6 80年生以上（ 年生）

問28 人工林を所有している場合、これまでの森林の管理方法について教えてください。

育林作業（下刈り・除伐・間伐等）

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1 主に森林組合に単発で頼む | 2 主に森林組合と複数年契約し作業全般を頼む |
| 3 主に業者に単発で頼む | 4 主に業者と複数年契約し作業全般を頼む |
| 5 主に雇用労力 | 6 主に自家労力 |
| 7 主に分収契約（公社、公団、市町村、森林組合、その他） | |
| 8 その他（貸付、信託等） | 9 森林ボランティアの導入 |
| 10 作業の対象地がない | |

木材生産・販売

- 1 主に森林組合に生産・販売を委託している
- 2 主に業者などに立木売りしている
- 3 主に雇用労力で生産し、販売を森林組合等に委託
- 4 主に自家労力で生産し、販売を森林組合等に委託
- 5 主に雇用労力で生産から販売（原木市場へ出荷）までを行う
- 6 主に自家労力で生産から販売（原木市場へ出荷）までを行う
- 7 その他（具体的に ）
- 8 該当なし

森林施業計画

- 1 自ら作成している
- 2 森林組合に頼む
- 3 作成していない
- 4 分からない

問29 伐採したあと植林していない林地はありますか〔主に皆伐跡地〕。

- 1 ある
- 2 なし

あるとお答えの方その面積はどのくらいですか ha（町）

またその理由を教えてください

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 再造林の費用がない | 2 採算がとれなさそう |
| 3 自分でやる体力がない | 4 もう林業をやる気がない |
| 5 その他（具体的に ） | |

問30 林業による一年間の収入はどのくらいですか〔一番最近のもの〕(1つ 印)

- | | | |
|----------------|----------------|------------------|
| 1 なし | 2 15万円未満 | 3 15～50万円 |
| 4 50～100万円 | 5 100～200万円 | 6 200～300万円 |
| 7 300～500万円 | 8 500～700万円 | 9 700～1000万円 |
| 10 1000～1500万円 | 11 1500～2000万円 | 12 2000万円以上(万円) |
| 13 分からない | | |

そのうち

自己所有林から

共有林から

問31 これから森林を管理する場合、どのように行いたいとお考えですか。

山林の管理方法として、参考までに以下のようなものが考えられます。

(ここでいう単発とは、『作業ごとに』という意味です)

- | | |
|----------------------------------|------------------------|
| 1 主に自家労力 | 2 主に雇用労力 |
| 3 主に森林組合に単発で頼む | 4 主に森林組合に複数年契約で作業全般を頼む |
| 5 主に業者に単発で頼む | 6 主に業者に複数年契約で作業全般を頼む |
| 7 主に分収契約(公社、公団、市町村、森林組合、その他) | |
| 8 主に貸付(他人に貸し付けて毎年賃借料を得る) | |
| 9 主に信託(他人に手数料を払って山林という資産の運用を任せる) | |
| 10 民間の林業者に山林を売却したい | 11 公的機関に山林を売却したい |
| 12 林業以外の目的で山林を自ら開発 | 13 開発業者に山林を売却したい |
| 14 所有権は手放さないが放置する | 15 市町村に管理を委託したい |
| 16 分からない | 17 下流域の住民と連携して管理する |
| 18 下流域の行政と連携して管理する | 19 その他 |

管理はしようと考えているか

1. 管理はしたい 2. 放置したい 3. 売却したい だれに？

管理の方針

1. 自分で管理したい 2. 森林組合に委託 3. 業者に委託 4. 村に委託
5. 下流域市民やボランティアに委託 6. 人を雇いたい

委託の方針

1. 作業ごとに委託したい 2. 全ての管理を委託したい

委託の条件

1. 委託料を払っても良い
2. 貸付料をもらいたい
3. 管理をしてくれればよい
4. その他

メモ：聞いたことをそのまま書く

問32 仮に今後市町村が中心となって森林管理を行うとなった場合どのように考えますか

- 1 10年以上での長期作業委託をしたい
- 2 10年未満での作業委託をしたい
- 3 相当額で売却したい
- 4 相当額より低い価格で売却してもよい
- 5 寄付してもよい
- 6 自分で管理し続ける
- 7 その他（具体的に ）

問33 都市住民との交流による地域の活性化が行われていますが、所有する農地や山林を農林業体験や森林再生のために提供することは可能ですか。

1. 提供しても良い
その条件
2. 提供したくない
その理由

サラリーマンの方にお聞きします

問 34 1. 勤務地はどこですか。また、職種は何ですか

1. 八王子市 2. あきる野市 3. 青梅市 4. 奥多摩町 5. 大月市
6. 上野原市 7. 塩山市 8. その他 9. 村内

職種

問 35 通勤時間はどれくらいかかりますか。また、交通手段をお願いします

通勤時間： 時間 分

交通手段：自家用車 バス 自家用車と電車 バスと電車
その他()

問 36 現在の職業についてどのくらいの年数になりますか

_____年

転職の経験はありますか

ある場合 以前の職種
以前の勤務地

問 37 定年後もこの村に住みますか

自営業の方にお聞きします

問 38 どんな事業を行っていますか

問 39 営業時間、営業期間を教えてください

1. 通年開業

2. 開業期間あり 月～ 月まで

問 40 一番忙しいときはいつ頃ですか

() 月頃

忙しい理由：(観光シーズン・盆暮れ等)

問 41 従業員の人数と構成を教えてください

家族経営(個人商店)ですか？

雇っている人はいますか？

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
専従(常勤)	男							
	女							
パート・ アルバイト	男							
	女							

雇っている人の居住地は主にどこですか

1. 村内(できれば地区名まで)

2. 村外 どこですか？

問 42 営業を開始したきっかけは何ですか

1. 先代より家業を継ぐ

2. その他

問 43 最近の営業は5年前に比べてどうですか？

1. あがっている

2. 横ばい

3. 下がっている

4. どちらとも言えない

問 44 営業上で何か問題点はありますか。よろしかったら教えてください

問 45 後継者はいらっしゃいますか

最後にお聞きします（全世帯）

問 46 村内でよく訪れる所はどこはどこですか

問 47 余暇は何をしていますか？

問 48 インターネットやパーソナルコンピュータを使用していますか。
（どれくらいの電気通信設備を備えているか。FAX など）

問 49 集落で誇れる郷土料理は何ですか。あなたはそれをつくることが出来ますか。

問 50 あなたの家で自慢の料理あるいはものは何ですか（漬け物やコンニャク、伝統など）。

問 51 都市との交流による上下流住民の連携した都市との交流による方向が示されていますが、この点に関してご意見や要望等がありますか。

問 52 これからの小菅村の発展について何か提案したいことはありませんか。

問 53 最後に行政などに対する要望はありませんか

1. 橋立地区

コード	居住人数	年齢	職業	勤務地	農地所有	作付け	借入	貸付	耕作放棄	借入	貸付	作物物	目的	耕作放棄年	
1	1	72							0.1			15	1	4	
2	2	70	自営	橋立											
3	7	43	自営	橋立	3	0.5			1			2.13	1		
4	3	69	自営	橋立											
5	2	78		橋立	0.5	0.5			0.5			2.13.15	1	6	
6	2	73		橋立	0.5	0.5			いっぱい			2.4.13.15	1		
9	2	40	土建	田元								2.15	1		
10	8	65	入院中	橋立										同地区親戚・知人	
11	7	69		橋立								15	1		
12	7	39	自営	橋立	0.15	0.15	0.12	0.12	0.12			同地区親戚	13.15わさび	1.2わさび	3
13	1	70		橋立											
14	3	65	自営農業	橋立	0.3	0.1		0.04	0.2			同地区親戚	2.15	2きのこ	4
15	2	59	会社員	川池	0.5	0.5						2.4.15	1		
16	2	86		橋立	0.07	0.07			0.5			2.13.15	1	3	
17	7	66	パート	橋立	0.2	0.05		0.01	0.14			同地区知人	2.4.13.15	1	
18	2	57	会社員	橋立	0.01	0.01						2.4.15	1		
19	3	71	自営林業	橋立	0.1	0.1						13.15	1		
20	2	77		橋立	0.15	0.15						13.15	1	6	
21	2	75	(林業)	橋立											
22	2	55	自営農業	橋立	1	0.2			0.8			2.15	1	7	
23	2	55	土建	橋立								2.15	1	6	
24	2	76		橋立								2.15	1	6	
25	3	71		橋立								2.13.15	1	6	
26	3	52		橋立								2.4.13.15	1		
27	2	76		橋立								2.15	1	7	
28	5	56	会社員	橋立	0.01	0.006			0.004			2.13.15	1	7	
29	2	37	会社員	橋立	0.1	0.1						2.13.15	1		
30	5	56	会社員	橋立	0.8	0.2			0.6			2.13.15	1	4	
31	5	51	自営	橋立										同地区親戚・知人	
32	4	54	無職	橋立	0.4	0.2			0.2			同地区親戚	2.13.15	1	
33	2	68		橋立	0.1	0.1						東京都	2.13.15.16	1	
34	2	79		橋立	0.2	0.06			0.14			2.15	1	7	
35	2	62	パート	橋立	0.09	0.09						2.15.16	1		
36	1	88		橋立	0.3	0.02			0.28			2.4.13.15	1	7	
37	1	75		橋立								2.13.15	1	1	
38	3	80		橋立	0.1	0.1		0.5				同地区親戚	2.4.13.15	1	
39	2	80		橋立	0.3	0.3	0.5					県	2.15	1	
40	2	79		橋立	0.2	0.03			0.17			2.13.15	1	2	
41	1	72		橋立	0.23	0.1	0.1		0.03			同地区知人	2.4.15	1	
42	2	62	パート	橋立	0.8	0.4			0.4			2.13.15	1	7	
43	3	63	会社員	橋立	0.5	0.5	0.5		0.5			同地区親戚	2.15	1	

コード	買物小	買物大	不便1	不便2	近年変化	優物	好場所	よく行く所
1	4	青梅	4		子どもの減少	芸能		
2	青梅	1	3	客が来ない	客が来ない	伝統芸能		
3	4	青梅 青梅、八王子	全て		人口減少	祭り		村内の飲食店
4	1	4 奥多摩・青梅	4		公共施設			
5	4	青梅	4		人口減少・世帯数が減少	環境(空気と水)	山と畑	家
6	4	2			変わらない		家	山・畑
9	青梅	青梅	4					青梅に行く
10	2	青梅	大月		不景気	人情		温泉・村内の飲食店
11								
12	1 青梅・コープ	1	2.4.5	雪が困る	景気が悪い	自然・近所付き合い		村内の飲食店
13	4 娘が配達		4					家の周り
14	青梅	青梅・八王子	4		人口減少・イノシシ被害			
15	青梅	青梅	4		人口減少	人情・自然	白糸の滝	近所・温泉
16	1	4 青梅			道路整備		畑	希望の館
17	2	4 青梅			変わらない・木が安くなった		土地	自分の山・青梅
18	4	青梅	交通	病院に行くのが大変	変わらない	自然		近所
19	1	4 青梅・立川		全て	不景気・人口減少	自然・土地	すべて	
20	4	青梅			子どもが減った			
21	4 青梅	青梅	4		安くなった・人口減少・仕事がない	お祭り		
22	青梅	八王子 青梅・八王子	4		役回りが面倒・少子高齢化	自然		
23	4	1	4					
24	4	1	4			景観		
25	4	生協	運転	病院に行くのが大変	道路整備・観光施設・定期的に開催			
26	4	青梅	全て	非常時が大変	変わってない	わからない		
27	4 娘に頼む	青梅	4		変わらない		お茶のみ	畑
28	1 青梅	青梅			少子化・行事が省かれた	お祭り	自然の川	
29	4	青梅	4		若人減少・福祉整備	少子化	水源	畑・村内の飲食店
30	青梅	4 青梅			人口減少・考え方の変化・公共事業がない	こんにゃく・わさび	畑	ゲートボール
31	青梅	生協 青梅	4		人口減少・しきたりの減少	土地の古さ	人情	親戚の家・近所
32	1.4	青梅 青梅	4		希望の館が出来た	現状のまま		村内の飲食店
33	1.4	青梅	4	雪下ろし	鍵をかけるようになった・人口減少	伝統芸能	温泉	家
34	4	子ども		交通のアクセス	公共物が増えた・温泉が出来た	神社	村	近所
35	4	青梅		職場がない	人口減少・若人減少	伝統芸能・わさび		きのことり
36	1	4 3子ども	全て		便利になった	ご近所づきあい	近所づきあい	近所
37	4	青梅 青梅・昭島		産業がない	10年前のほうが景気が良かった			
38	1	4 青梅			人口減少		家	畑・近所
39	4	青梅			便利になった・悪いところは特にならない		釣り場	畑
40	4	子ども			人口減少			畑・村内
41	4	奥多摩						川池
42	4	青梅 青梅			人口減少・長男が外に出る	神楽		畑・近所
43	4	青梅 青梅			農作物の価格低下	神楽		山歩き

1. 橋立地区

コード	余 暇	郷土料理	自慢料理
1	家にいる		コンニャク
2		こんにゃく・そば	
3	酒・スキー	けんちん汁	けんちん汁
4	休日無し・病院に行く	そば	岩魚の刺身・ヤマメの塩焼き
5	山・畑		そば
6	山・畑		みそ・つけもの
9	家か村外		
10	買物・温泉	けんちん	けんちん
11	買物・医者に行く		
12	買物・青梅・医者		そば
13	散歩		こんにゃく・そば
14	草木染・山野草の植栽	ほうとう・こんにゃく・けんちん	ほうとう・けんちん
15	近所・温泉	そば	けんちん
16	ゲートボール		
17	天気がいいと山に行く		そば
18	買物・青梅・昭島	そば・こんにゃく	けんちん
19	あるく	そば	そば
20	東京・青梅		
21	買い物		けんちん
22	つり	そば	こんにゃく・そば・川魚の干物
23		そば・こんにゃく・うどん	そば・こんにゃく・うどん・けんちん
24	医者に行く	そば・こんにゃく・うどん	そば・こんにゃく・うどん
25	家にいる	つけもの・みそ・きやらぶき	漬物・自家野菜
26	買い物・青梅	こんにゃく・	
27	畑・お茶会	ばくのけ	そば
28	畑	味噌煮込みうどん・そば	
29		そば・けんちん	そば・けんちん・こんにゃく
30	農林業		こんにゃく料理
31		そば・煮物	魚を使った料理
32	子どものところ	そば・こんにゃく	そば・天ぷら・こんにゃく・わさび漬
33	編み物	そば・こんにゃく	そば・けんりん・くり饅頭
34		そば	そば
35	きのことり・青梅		
36	お茶のみ・家	こんにゃく・そば	そば
37	暖かくなったら畑		
38	家・親戚のうち	こんにゃく・そば・わさび漬	手作りのもの
39	つり	そば・こんにゃく・	
40	ねる	そば・こんにゃく	けんちん
41	畑	こんにゃく・やまめ	山女の煮物・山菜・こんにゃく・そば
42	畑・近所	そば・こんにゃく	そば・こんにゃく
43	山歩き		

1. 橋立地区

コード	居住人数	年齢	職業	勤務地	農地所有	作付け	借入	貸付	耕作放棄	借入	貸付	作付物	目的	耕作放棄年
44	1	63	パート	橋立	0.5	0.5	0.5			同地区親戚		2.15	1	
45	2	76		橋立	0.2	0.2	0.2			同地区親戚		2.15	1	
46	1	75		橋立	0.02				0.02			2.13.15	1	7
47	4	57	会社員	橋立	0.8	0.4		0.02		村内知人		2.13.15.16.	1	6
48	1	76	パート	橋立	0.03	0.01			0.02			2	1	3
49	4	52		橋立								2.13.15	1	6
50	2	65		橋立	0.3			0.02		同地区知人		2.4.15	1	6
51	5	53	自営	橋立	0.5	0.5			0.5			2.15	1	
52	2	55	会社員	橋立										
53	3	56	会社員	橋立								2.13.15	1	

2. 小永田

コード	居住人数	年齢	職業	勤務地	農地所有	作付け	借入	貸付	耕作放棄	借入	貸付	作付物	目的	耕作放棄年
1	4	40	会社員	村内										
2	1	53	無職		0.1	0.04				同地区親戚		15	1	
3	2	77	無職				0.06			同地区親戚・知人		2.15	1	
4	2	79	無職		1.1~	1.1						15	1	
5	2	76	無職		0.1	0.05		0.05		同地区親戚		2.15	1	
6	2	69	無職		0.1	0.1						2.15	1	6
7	2	78	自営業		不明	不明		不明	不明	同地区親戚		2.15	1	7
8	3	90	民宿		不明	不明	0.1	0.08		同地区知人	同地区親戚	2.15	1	6
9	1	75	無職		0.5	0.12		0.07	0.3	同地区親戚		2.15	1	6
10	3	67			0.3	0.3						2.13.15	1	6
11	2	68	無職			0.05	0.05			村内知人		2.13.15	1	
12	7	78	農業		不明	不明			不明			2.15	1	
13	1	72	無職		不明	不明	不明	不明		村内知人		15	1	
14	3	64	土木業			不明	不明			村内知人		2.15	1	
15	1	38	会社員											
16	2	57	会社員											
17	3	98	無職		不明広い	不明			不明			15	1	6
18	5	63			不明	不明						15	1	
19	5	59				0.05	0.05			村内親戚・知人		2.15	1	
20	2	54	運転手		0.1	0.1								
21	1	63	パート	小菅精機	少	少						2	1	
22	3	63	新聞配達	奥多摩	少	少			少			2.15	1	
23	2	72	無職		0.1	0.1	0.1			村外親戚		2.15	1	
24	3	69			0.76	0.23			0.53			2.13.15	1	4
25	2	74			0.02	0.01			0.01			2.15	1	7
26	4	81			少					同地区知人		2.15	1	
27	1	88	無職											
28	4	84			0.4	0.2			0.2			2.15	1.2	3
29	3	58	会社員		0.6	0.4		0.1	0.1	同地区親戚		2.15	1	7

1. 橋立地区

コード	以前作付	放棄理由	管理意向	委託条件	農産物販売額	販売経路	山林面積	人工比率	訪問回数	育成状況	管理育林	生産・販売
44												
45												
46	13		2	3								
47	13.15		2	3	15	2・業者	90	50	30	5	6	1.6
48	13		2	3			2	0	0	5		
49	2		3	5								
50	1.2.13.15		2	1			7	13	0	5	6	
51	2.15		4	1			不明	80	0	3	6	
52							0.5	70	0		1	
53					20000	2	不明	33	0		6	

2. 小永田

コード	以前作付	放棄理由	管理意向	委託条件	農産物販売額	販売経路	山林面積	人工比率	訪問回数	育成状況	管理育林	生産・販売
1												
2							不明	80	0		5	
3							不明	80	0	4	6	
4												
5							2.3	90	80	5	6	4
6	13.15	遠い	植林した				0					
7	13		2	3								
8	13	遠い	植林した				不明	100	0	4	6	
9	15		2	3			不明	60	0	5	6	
10	15		2	3			1	90	15	3	6	自家
11							5	70	60	5	6	
12							不明					
13												
14							0.3	80	5	4	6	
15												
16												
17	13.15			3			数力所	80	0	5	6	自家
18							不明		0			
19												
20												
21												
22							不明	100	0	5	6	
23					2	物産館						
24	13		4	3			6.7	80	15	5	1.6	
25	2	人手無	場所ごと				0.05	1	0	4	6	
26							少	1	2	5	6	
27												
28	13	2.7	3		60	物産館	20	50	5	4.5	6.7	
29	リンゴ・柿	時間0	1				10	80	7	5	6	

1. 橋立地区

コード	施業計画	未植林地	林業収入	管理するか	管理方針	委託方針	委託条件	村管理	交流と森林	条件
44										
45										
46										
47	3	2	5	1	1.2	1	4補助金で可能な場合	6	1	施行計画に沿った形で行なう
48	4		1	2				2		遠い
49										
50	3	2	1	1	2	2	1	7	1	作業希望・疎にし過ぎない程度
51	4	2	1	2				1	1	ぜひ
52	3	2	1	2					1	作業希望
53	3	2	1	1	1			7出来なくなればやってもらう	1	施行適木0

2. 小永田

コード	施業計画	未植林地	林業収入	管理するか	管理方針	委託方針	委託条件	村管理	交流と森林	条件
1										
2										
3	3			1	3.4					
4										
5	1			1	1				1	
6										
7										
8				1					1	
9	3			1		施業完了		6		
10				1	1	完了		6	2	
11	3			1	1	完了		6	1	
12										
13										
14				1	1			6	不明	
15										
16										
17				1	1			6	1	施業完了
18				1	2	1		3	1	
19										
20										
21										
22				2						
23										
24	3			1	2	1	3	6	1	
25				費用しだい					1	
26				1	1			6	狭い	荒らさない
27										
28	3			1	2.3	1	3	6	1	
29				1	1			6	1	

1. 橋立地区

コード	買物小	買物大	不便1	不便2	近年変化	優物	好場所	よく行く所
44	4	青梅	交通		不景気になった	小菅村・温泉・観光		
45	4	青梅	不便ばかり		景気が悪くなった			川・つり
46	4	子ども	2子ども		地区が合併したこと			家・近所
47	4	青梅	青梅	4	少子高齢化・道路が悪くなった	郷土芸能・自然	奥の自然	
48	4	青梅	青梅・親戚	4	仕事があった			景利家
49	1	4	青梅	4	家が変わった・水洗化された・	自然	山・自然	畑
50	4	青梅	自分のうち	4	少子化・仕事がない	人柄・人情	自然	小菅の湯
51	1	4	青梅・河辺			伝統芸能	畑の麦	畑
52	4	青梅	青梅	4	少子高齢化・空き家が増えた・	人間関係・伝統芸能	三ツ子山遊歩道	
53	青梅	青梅	青梅	4	人口減少・将来的な不安	自然	村・全体	山・猟・わさび

2. 小永田

コード	買物小	買物大	不便1	不便2	近年変化	優物	好場所	よく行く所
1	1	2	2	4				
2	4	青梅	無し		子ども減			温泉
3	2.4	青梅		2	人情	神社		
4	2.4	奥多摩		0	人口減	神楽		友人宅
5	2.4	青梅・通販		4	高齢化	神楽	0	0
6	2.4	青梅		0	人口減	神楽		親戚の家
7	2.4	青梅		0	お客が減った			お店に出る
8	2.4	青梅				神楽		娘の家(川久保)
9	4	青梅		0	人間関係さみしい			温泉
10	2.4	青梅		4	高齢化	神楽	神社	造った家を見に行く
11	4	青梅		0	高齢化・人口減	神楽	神社	友人宅
12	青梅	青梅		0	観光客増えた	神社		温泉
13	2.3.4	青梅		0	高齢化			近所の友人宅
14	2.4	青梅		0	人口減	神楽	自然	青梅
15	2	青梅		0	仕事減った	神楽	神社	飲み屋
16	2	甲府	1.4		仕事減った	神楽		家族の家
17	2	青梅				神楽		0
18	2	青梅	銀行	行政施設	ない	神楽		郵便局
19	2	4	青梅	0	高齢化	熊野神社祭り		ない
20								
21	1.2	青梅	奥多摩	0	バスで住みやすくなった	神楽	神社	温泉
22	2.4	青梅	青梅	0	一人暮らしが増えた	神楽		温泉
23	青梅	青梅	全て			神楽		0
24	2	甲府方面	雪		高齢化	神楽	神社からの景色	道しるべ
25	青梅	都内			家が増えた	景観	0	仕事場
26	4	生協	青梅	0	道が良くなった	神楽	畑	親戚宅
27	3.4		2	2				畑
28	生協	東京	雪		0	神楽	三つ子山	温泉
29	生協	青梅	雪		道路	神楽	神社の景色	仕事場

1. 橋立地区

コード	余 暇	郷土料理	自慢料理
44	部屋の掃除・畑		
45	つり		ざんぱん
46	家・近所・つり		
47	パチンコ	けんちん	おばく・さしみこんにゃく・わさびの花芽
48	畑仕事・のんびり		
49	畑仕事・お茶のみ・散歩	そば	そば
50	ハーモニカ(妻)	けんちん・そば	山菜御飯
51	硬筆	けんちん・そば	そば
52	ゆうゆうクラブ	わさび・そば・みそ・おばく	けんちん・山菜
53		こんにゃく・まんじゅう	

2. 小永田

コード	余 暇	郷土料理	自慢料理
1			
2	はたけ・TV	そば・けんちん	肉じゃが
3	畑	そば・たまこんにゃく	漬け物
4	畑・家	こんにゃく・そば	
5	読書		
6	はたけ・医者	こんにゃく・そば	しゃくし菜
7	はたけ		みそ
8	家・畑	イワナ刺身	ほうとう
9	畑	そば	ジャガイモ
		こんにゃく	そば
11	木工	そば	けんちん
12	買い物		けんちん
13	畑	そば	そば
14	畑		
15	外出		
16	母の面倒		
17	家・畑	そば	けんちん
18	買い物	こんにゃく	混ぜご飯
19	家	こんにゃく・けんちん	
20			
21	家事	けんちん・こんにゃく	
22	休み無し	こんにゃく	けんちん
23	畑	そば・おばく・けんちん	まんじゅう
24	畑	そば	みそ
25	TV・買い物		
26	畑	そばにこみ	
27			
28	はたけ		みそ
29	畑	団子・まんじゅう	

2. 小永田

コード	居住人数	年齢	職業	勤務地	農地所有	作付け	借入	貸付	耕作放棄	借入	貸付	作付物	目的	耕作放棄年
30	2	65	土木	小菅	0.01							15	1	
31	6	71			0.65	0.5		0.05	0.1	同地区知人		2.15	1	6
32	2	78			0.1	0.1	少			同地区親戚		2	1	

3. 白沢

コード	居住人数	年齢	職業	勤務地	農地所有	作付け	借入	貸付	耕作放棄	借入	貸付	作付物	目的	耕作放棄年
1	2	73	無職		2.3	0.2	0	0.2	0.3		同地区親戚	2.13.15	1	h10
2	2	76	無職		0.6	0.3			0.3			2.13.15	1	h5
3	5	74	無職		0.4	0.3			0.1			2.13.15	1	h5
4	4	55	会社員	東京	0.03	0.03	0.01			同地区知人		2.15	1	
5	2	45	林業	小菅	0.1							15	1	
6	4	73	無職		0.2	0.05			0.15			2.13.15	1	3
7	2	57	無職		0.02	0.02						2	1	
8	2	54	農業	村内	2	0.2			1.8			2.15	2	4
9	2	68	公務員	村内	0.15	0.15	0.12	0	0.06	同地区親戚		2.4.13.15	1	6
10	5	77	無職		0.3	0.2	0	0	0.1			15	1	h5
11	3	76	無職		0.2	0.1	0	0.1	0.1		同地区親戚	2.15	1	4
12	2	58	公務員	村内	0.12	0.1	0	0	不明			2.15	1	4
13	3	67	林業	丹波山	0.1	0.1			0.1			15	1	3
14	2	71	無職		0.03	0.03			0			2.13.わざび	1	
15	2	75	無職		0	0.1	0.1		0	同地区知人		15	1	
16	2	71	無職		0.25	0.25			0.05			13.15	1	7
17	7	76	無職		0	0.01	0.01		0.01	同地区親戚		15	1	

4. 東部

コード	居住人数	年齢	職業	勤務地	農地所有	作付け	借入	貸付	耕作放棄	借入	貸付	作付物	目的	耕作放棄年
1	6	65	自営		0.3	0.1		0.1	0.2		村内親戚	15	1	6
2	3	93			0.6	0.2			0.4		村内知人	2.13.15	1	6
3	2	71	無職									2.13.16	1	
4	4	74			0.1	0.1						2.15	1	
5	5	88			0.2		0.5			地区友人		2.13.15	1	h17
6	2	76	農業		0.07	0.07						2.13.15	1	3
7	2	77	民宿		0.3	0.3			0.1			2.13.15	1	
8	7	65	自営		0.2	0.2	0.2			地区知人		2.15	1	
9	3	81	無職			0.1	0.2				同地区親戚・知人	2.13.15		4
10	7	78	無職		0.1	0.1						2.4.13.15		
11	3	73			0.7				0.2			2.15	1	4
12	1	65	民宿											
13	1	69	温泉パート									15	1	
14	3	72										13.15	1	6
15	1	89	無職		不明									
16	2	52	左官	小菅・東京	0.3		0.3			村内親戚		2	1	

2. 小永田

コード	買物小	買物大	不便1	不便2	近年変化	優物	好場所	よく行く所
30	2.4	東京	雪			神楽	0	温泉
31	2.4	青梅・八王子						
32	2.4	青梅	保健所			神楽		温泉

3. 白沢

コード	買物小	買物大	不便1	不便2	近年変化	優物	好場所	よく行く所
1	移動	青梅	青梅	車	医療	老人増えた	原始村	こすげの湯
2	移動	青梅	昭島	医療施設		老人増	自分の畑	友人宅
3	移動・生協	青梅	青梅	医療		子ども減った	原始村	友人宅
4	移動・生協	青梅	青梅	レジャー	教育	子ども減	原始村・三つ子山	集会所
5	移動・生協	青梅	青梅	医療		出入りがある	川工事しないで	
6	移動	青梅	青梅	医療	教育	仕事減	自分の家	友人宅
7	移動	生協	青梅	交通	医療	人口減	原始村	友人宅
8	移動・生協	青梅	青梅	交通		老人増、2人暮らし		小菅の湯
9	移動	青梅	青梅	医療		分校無くなる	三つ子山	畑・山歩き
10	移動	青梅	八王子	引き売り				老人クラブ
11	青梅			医療	教育	若い人いない	自然	自然
12	移動		青梅	高齢化・雪		高齢化	人情・連携	自然
13	移動	青梅	青梅	人口減		主婦の仕事場減	自然	畑・やま
14	移動	青梅	青梅	交通	医療	下水できた・高齢化		
15	移動	青梅	奥多摩	交通	医療	若い人いない		
16	移動	青梅	青梅	医療		下水できた・林道できた	神社・自然	
17	移動	青梅	橋立の家具店			高齢化	自分の家	家・山

4. 東部

コード	買物小	買物大	不便1	不便2	近年変化	優物	好場所	よく行く所
1	2		2	1	若さ・活気減			
2	4	青梅	青梅	4	道が広く(国道)になった			小菅の湯、川久保、友人宅
3	青梅	3		4	人口減			小菅の湯・畑
4	2	4			特に0		温泉	小菅の湯
5	1, 4	奥多摩	青梅	1	観光客などの人減少			ゲートボール、畑
6	2	4	青梅		生態系が変化してきている	森林公園		友人宅
7	4	奥多摩、青梅	青梅	4	人口減、高齢化	キャンプ場		
8	青梅	青梅	青梅	1	少子高齢化、特産品が売れない			敬老会で老人の家
9	2	5 青梅、八王子			変化0		山、自然	役場
10	4	奥多摩、青梅		1	0			小菅の湯、イベント
11	2	4	青梅	1	変化0		川、自然	役場、診療所、温泉
12	4	奥多摩		4	道が舗装された			
13	4	青梅		4	C&Rがされるようになった			
14	青梅	4	青梅		駅まで遠い			温泉
15	2	4	2		住みにくくなった			
16	青梅		青梅		道がよくなった	人間関係		買い物

2. 小永田

コード	余 暇	郷土料理	自慢料理
30		畑	けんちん
31			けんちん
32		畑	

3. 白沢

コード	余 暇	郷土料理	自慢料理
1	将棋・マーじゃん	そば・煮込み	そば・漬け物
2	友人と交流	そば	そば・もち
3	猟	けんちん・そば	漬け物・そば
4	バチンコ	そば	こんにゃく・つけもの
5	つり・バチンコ		
6	友人	そば	煮物・そば
7	畑	そば	そば
8	まご・買い物(青梅)	そば・けんちん	みそ・そば
9	畑・山歩き	そば・けんちん	みそ・そば
10		こんにゃく・そば	こんにゃく・そば
11	病院		大豆・ジュース
12	畑	そば・こんにゃく	野菜・けんちん
13		そば	そば
14	甲府	そば	みそ
15			
16	畑	そば	そば・こんにゃく
17	山歩き	そば	そば

4. 東部

コード	余 暇	郷土料理	自慢料理
1			
2	ゆうゆうクラブ	おばく、そば	そば
3	ゆうゆうクラブ	山菜ごはん、けんちん	みそ、もち
4	畑		漬物
5	ゲートボール	そば、こんにゃく	そば、こんにゃく
6	畑	そば、こんにゃく	そば、こんにゃく
7	狩猟、TV	けんちん	けんちん
8	慰労のための舞踊	みそ、こんにゃく	店のお饅頭
9	古文書、スポーツ		ほうとう、みそ
10	作付講習	けんちん	みそ、こんにゃく
11	盆栽	そば、こんにゃく	
12	テレビ	こんにゃく、おばく	みそ
13		そば	漬物
14			
15		こんにゃく	
16	買い物	けんちん、手打ち煮込みうどん	うどん、そば

4. 東部

コード	居住人数	年齢	職業	勤務地	農地所有	作付け	借入	貸付	耕作放棄	借入	貸付	作付物	目的	耕作放棄年
17	2	60	自営											
18	3	81	無職		0.05		0.05					2,13,15	1	
19	3	77			0.65	0.15			0.5			2,15	1	7
20	1	80			0.03	0.03						2,13,15	1	6
21	3	50	役場		0.03	0.03				同地区親戚		2,15	1	
22	2	52	大工		0.15	0.15	0.24		0.03	同地区親戚		2,15	1	7
23	4	86	無職			0.54	0.18			村内親戚		2,13,15	1	
24	1	76	無職							村外親戚		2,15	1	
25	2	81			0.3									
26	5	78			0.05	0.02			0.03	同地区親戚・知人	同地区親戚・知人	2,15	1, 2	

5. 中組

コード	居住人数	年齢	職業	勤務地	農地所有	作付け	借入	貸付	耕作放棄	借入	貸付	作付物	目的	耕作放棄年
1	3	81	無職		0.2	0.2						役場	15	1
2	2	62	縫製業											
3	3	60	木工(自営)											
4	1	85	無職											
5	4	36	林業	水源林										
6	4	37	森林組合	(上野原)										
7	5	47	建設業	青梅										
8	1	67												
9	2	60	無職		0.02			0.1	0.01			村内知人	15	1
10	1	61	会社員		不明			0.1	不明			地区知人	15	1
11	1	84	無職		不明	不明	不明			同地区親戚		15	1	
12	2	76	無職		0.1	0.1						4,15	1	
13	2	84	無職		0.05	0.05						2,15	1	
14	2	51	養魚業				0.07		0.01	同地区親戚		2	1	
15	2	70	無職		0.5	0.1			0.4			2,15	1	4
16	1	76	無職		0.14			0.1				同地区親戚	15	1
17														
18	5	26	土木											
19	5	49	公務員		0.1	0.03	0.02		0.04	村内親戚		15	1	
20	2	71	無職		0.1							2	1	
21	1	91	無職											
22	2	78	無職											
23	6	64	自営業	民宿山水館	0.3		0.2					15	1	
24	1	85	無職		0.3	0.3								
25	1	73	無職		0.03	0.02		0.01				2,15	1	
26	4	81	無職		不明	不明			0.03			15	1	
27	2	71	無職		0.3	0.1			0.2			2,15	1	h13
28	1	85	無職											
29	2	49	公務員	小菅	0.01	0.01			0.1			15	1	4

4. 東部

コード	以前作付	放棄理由	管理意向	委託条件	農産物販売額	販売経路	山林面積	人工比率	訪問回数	育成状況	管理育林	生産・販売
17												
18												
19	13,15	2		3			20	90	0	5	5, 6	
20	2,13,15	4					不明	80	0	5	6	
21					1		0.07	100	0	4	6	
22	2,13,15	国道建設のため			1		0.1	100	0	4	6	
23							不明	100	7	4	6	8
24												
25							7	60		5		8
26							1	100	0	5	1	

5. 中組

コード	以前作付	放棄理由	管理意向	委託条件	農産物販売額	販売経路	山林面積	人工比率	訪問回数	育成状況	管理育林	生産・販売
1					15		不明	80	0	5	1	3
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9	15,13			1			不明	30	0			
10	12,15	4		4			不明	80	0	5		
11							少	80	1	5	6	
12					15	物産館	0.2	90	12	4	1.2	
13							50	100	2.3	4.5	5	1
14	12			4 信頼			3	90	0	4	6	自家
15	15	4		4			0.3	100	0	5	6	自家
16												
17												
18												
19							2	90	0	5	7	
20					10	物産館	不明	10	0	4	6	不明
21												
22												
23							30	33	1.2	5	6	自家
24							1	60	0	5	個人依頼	自家
25							不明	50	0	5	6	
26	1,15	4		4 子どもに			不明	50	0	4		
27	ふき	4		3	5		3	50	10	3	6	
28												
29	13	2		3			0.2	90	2	4	6	自家

4. 東部

コード	施業計画	未植林地	林業収入	管理するか	管理方針	委託方針	委託条件	村管理	交流と森林	条件
17										
18										
19	3			1	1				2	ボランティアの入れる場所ではない
20	3	2		2				わからない	わからない	
21		2	1	1	1			6	1	民宿なども協力していくこと
22	3	2	1	1	1			2, 3	2	いい木がだめになる可能性
23	3			1				6	2	0
24										
25				3					1	怪我をしないようにしてほしい
26	3	2		2					1	森林組合のほうに任せたい

5. 中組

コード	施業計画	未植林地	林業収入	管理するか	管理方針	委託方針	委託条件	村管理	交流と森林	条件
1	3		0	1	1				1	
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9				1	1		3		4	1
10				1	2	1	1			1
11	3									
12	3			1	1				6	
13	3		1	1.2	施業終了					1
14	3			2	委託したい	2	3		1	1
15			1	1	1				6	1
16										
17										
18										
19	3		1	1	2	1	1		1	1
20	3			2	天然林だから				1	1
21										
22										
23	3		1	1	施業終了					
24	3		1	1					3	
25	3		1						7	
26			1	2					6	
27				1	2	2			1	1
28										
29	3			1	1				6	1

4. 東部

コード	買物小	買物大	不便1	不便2	近年変化	優物	好場所	よく行く所
17	4		青梅					
18	1	4	青梅		仕事の減少、自然が優れている			
19	4		青梅	4	引き売りがくる・足の悪い人が増えた	白沢滝		
20	4		青梅	4	道が改善、祭りの減少	自然	グラウンド	グラウンド、畑
21	生協		青梅	0	高齢化		川	
22	青梅		青梅	1	2, 3 道路が広がった、空き家が増えた	自然	自然	農協、金融関係
23	青梅	奥多摩	青梅	1	人口減		神社の林	
24	4		青梅	4	特に0		自然	郵便局、農協
25	4		買わない	4	電化製品		自宅	
26	4	青梅	青梅	全部	高齢化	人間関係	0	0

5. 中組

コード	買物小	買物大	不便1	不便2	近年変化	優物	好場所	よく行く所
1	青梅		青梅	4	温泉ができた	温泉	自宅周辺	村外
2	4		甲府	特に0	温泉・村営住宅	自然	井狩	0
3	4	2	2	4	温泉			あまりでない
4	4	1	青梅	2				
5	河辺		青梅		村営住宅	人の優しさ	三子山	広瀬商店
6	生協			4	村営住宅で子ども増えた	景観	川	仕事場学校
7	青梅		青梅・上野原	0		自然	温泉	温泉・YLO
8	1	2	青梅			自然	温泉	温泉・友人宅
9	2	4	青梅	なれた	温泉	神社	無くなった	
10	2			4				
11	4			2	特に0	ない	温泉の近く	友人
12	1.3.4		青梅	4	温泉	自然	家	温泉
13	2.4		奥多摩	1.4	昔からの行事が無くなった	自然	三つ子山	温泉
14	生協	立川	青梅	飲み屋	温泉		三つ子山	飲み屋温泉
15	4		奥多摩	0		神社	庭	川久保
16	4				バス	自然	家	川久保・医者
17								
18	青梅		青梅	2.4			温泉	温泉
19	4		青梅	0	温泉	温泉	神社	グラウンド
20	1.4	青梅	青梅	ない	温泉	わからない	ない	温泉
21			1	ない	温泉			温泉・近所
22								
23	1	青梅	青梅	0	温泉で人間関係悪化		全部	温泉
24	1.4	子ども	子ども	4	老人増えた	神社		山水館
25	3.4		子ども	ない	いろいろ	神社	温泉	温泉
26	3.4		青梅	ない	温泉	神社	家	温泉
27	3.4		青梅		温泉			温泉
28	1	4	青梅	2	温泉			
29	生協		青梅	2	0	0	0	0

4. 東部

コード	余 暇	郷土料理	自慢料理
17			
18	ゆうゆうクラブ	そば	そば
19	畑	けんちん、うどん	うどん、そば
20	畑	そば、ヤマメ	こんにゃく
21	釣り、キノコ採り	そば、ほうとう	そば、ほうとう
22	畑、買い物	けんちん、漬物	太巻き、煮物
23	釣り	けんちん、こんにゃく	
24	裁縫	こんにゃく、けんちん	
25			
26	テレビ	けんちん、ほうとう	

5. 中組

コード	余 暇	郷土料理	自慢料理
1	拝島	そば	そば
2	家・甲府(実家)	山菜料理	山菜
3			
4			
5	車の洗車		唐揚げカレーライス
6	冬読書	そば	
7	家		
8	家	けんちん汁	炊き込みご飯
9		そば不明	けんちん汁・スパゲティ
10	家	そば・こんにゃく	
11	鉄砲	ない	
12	散歩		
13	読書	けんちん汁	そば
14	家	漬け物	
15	まき・ワサビ	おばく	混ぜご飯
16	お茶のみ	ジャガイモ	混ぜご飯
17			
18	青梅		
19	テレビ	そば	そば・炊き込みご飯
20	家	そば	そば・つけもの
21	いえ・TV	こんにゃく	そば
22			
23	青梅	そば・やまめ	いろいろ
24	家	煮込みうどん	そば
25	TV		おそば
26	あそぶ		
27	かごつくり	おばく・おそば	みそ
28	家	漬け物	
29	家・ぶらぶら		

5. 中組

コード	買物小	買物大	不便1	不便2	近年変化	優物	好場所	よく行く所
30	2	4 青梅・八王子	0		温泉で人の出入り			特に0
31	2	4 立川	ない		高齢化	温泉	グランド	希望の館
32								
33	青梅	青梅	0		温泉	神社	ワサビ・川	温泉・ラーメン屋
34	東京	東京	ない		感じない	景色	温泉からの景色	温泉
35	子ども	青梅・昭島	ない					ない
36	東京	青梅など	ない					温泉
37								
38	青梅・福生	羽村	ない		人(よそ者)が増えた		温泉周辺	三つ子山
39	八王子	4 青梅	特になし			グランド		グランド

6. 田元

コード	買物小	買物大	不便1	不便2	近年変化	優物	好場所	よく行く所
1	青梅	4 青梅	4		人口減	自然、静かな環境	0	
2	2	4 青梅	4		少子化			
3	青梅	4 青梅	感じない		0	箭弓神社	0	0
4	青梅	4 青梅	2		空き家の増加			友人宅、自然文化史
5	4	4 奥多摩	4		人口減	伝統行事	0	役場(集会)
6	青梅	4 青梅	特になし		一人暮らしや空き家の増加	0	0	0
7	青梅	4 青梅、八王子	すべて		空き家の増加	0	0	友人宅、自然文化史博物館
8	4	4 青梅	4		バス、温泉ができた			
9	4	4 青梅	1	4	道路が改善	0	0	0
10	青梅	4 青梅	3		0	人	0	
11	2	4 青梅	0		活気がない	自然	山	村内、山
12	2	4 青梅	特になし		温泉ができ、人が出入りするようになる	0	田元地区	YLO、温泉
13	1, 2	4 青梅、河辺	4		道路の整備	獅子舞などの芸能	川	温泉、友人と食事
14	大月	4 上野原、大月、上野原	2	4	空き家の増加、日照時間の変化	川原	堤防	
15	4	4 生協、青梅	1		高齢化	ない	ない	
16	4	4 上野原、青梅	1, 2	4	人口減		川池、祭り	
17	1, 3	4 娘より	4		便利になった	地区ごとの祭り	自然	YLO
18	4	4 府中、府中、山梨県内	1		特に0			
19	4	4 生協、青梅	4		特に0	自然、伝統芸能	お宮、神社	友人の家
20	4	4 子供が購入	0			セメント(景気がいい)		川に釣り
21	青梅	4 生協、青梅	1	4, 5	わからない	自然	自然	川池、子供のふれあい学級
22	塩山	4 1	1	4	道路が広がった	0		川、山
23	1	4 青梅	4		変わっていない		近所にお茶	近所、畑
24	2	4 生協、青梅	2	4	0	自然		0
25	1、生協	4 青梅	4		家を建て替えた	自然、人	松姫峰・雄滝	山、役場
26	1	4 青梅	店が少ない		釣り、キャンプのマナーが悪くなった	人柄		映画館
27	1、生協	4 青梅	4		高齢化	団結力	川沿い	物産館
28	1	4 青梅	4		少子化、温泉ができた	自然(大菩薩方面)		役場周辺
29	1	4 上野原、青梅	1	4	特に0	自然、水	特に0	0

5. 中組

コード	余 暇	郷土料理	自慢料理
30	家事	そば・けんちん	みそ
31	ぶらぶら	みそ・ふき	みそ・つけもの
32			
33	庭		そば
34	子どもの所		そば
35	畑		そば・ほうとう
36	買い物		
37			
38	薪割り		煮込みうどん
39	家事・ジョギング		

6. 田元

コード	余 暇	郷土料理	自慢料理
1	医者	そば、うどん	おしんこ
2	暇がない	ない	ない
3	ゲートボール、テレビ	つけもの、みそ	つけもの、みそ
4	友人と遊ぶ、釣り	ヤマメの塩焼き	ヤマメの塩焼き
5	医者	けんちん、こんにゃく	けんちん、こんにゃく
6	パチンコ、青梅	0	0
7	パチンコ、釣り	ヤマメ	0
8	裁縫、編み物	こんにゃく、ヤマメ	特に0
9	お茶のみ	0	芋煮
10	買い物	けんちん、ほうとう	けんちん、ほうとう
11	山、畑	けんちん、煮付け	きのご飯、猪鍋
12	裁縫、老人クラブ	ほうとう、そば	てんぷら、こんにゃく
13	あまり出かけない	けんちん、こんにゃく	漬物、たくあん
14	読書	おばく、けんちん	もろこしまんじゅう、おばく
15	畑	こんにゃく	
16			
17	TV	そば	白菜漬け
18	釣り、山歩き	ジャガイモ、みそ	
19	家、友人宅	そば、みそ	けんちん、漬物
20	炭焼き	つきこんにゃく	鍋
21	読書、子どもの世話	ヤマメ、イワナ	こんにゃく、漬物
22	釣り、鉄砲		カレー
23	TV、畑	源流祭りに出ているもの	漬物
24		山菜料理	
25	定休日でどこかに	そば、こんにゃく	いわしのつみれ
26	立川		こんにゃく
27	小菅の湯	けんちん、しゃくしなの漬物	
28	野球、映画、旅行	ほうとう、こんにゃく	大根、白菜の漬物
29		みそ、そば	

6. 田元

コード	居住人数	年齢	職業	勤務地	農地所有	作付け	借入	貸付	耕作放棄	借入	貸付	作作物	目的	耕作放棄年
30	2	83	無職		0.01	0.01				地区知人		2,15	1	
31	2	46	会社員		0									
32	6	44	板金工		0									
33	2	-	アルバイト		0									
34	4	47	公務員			0.3			0.5			15	1	3

7. 川池

コード	居住人数	年齢	職業	勤務地	農地所有	作付け	借入	貸付	耕作放棄	借入	貸付	作作物	目的	耕作放棄年
1	3	72	無職		0.13	0.11						2,15	1	
2	2	84			広いが不明						同地区知人		1	
3	4	51	旅館		0									
4	2	65	自営		0									
5	6	61	自営		自用小面積								1	
6	2	75	無職		0.2	0.05			0.15		同地区知人	2,15	1	6
7	1	55	物産館		0									
8	4	93			0.5	80	0.5	80	80		村内知人	2,15	1	
9	6	73	無職		0.5	0.5	80	80	80			2,15	1	
10	3	59	自営		0									
11	3	84	自営		3			3			同地区親戚	15	1	
12	2	81	無職		0.1						村	1,15	1	
13	2	82	無職		0.25							2,15	1	7
14	2	75			0.15	0.15	80	80	80			2,13,15	1	
15	2	67	食堂				0.5					15	1	
16	3	78			0.1							2,13,15	1	
17	1	80			0.5							2,16	1	7
18	1	84			0.5							2	1	
19	5	83			0.03		0.03				同地区知人	15	1	
20	5	73									村内親戚・知人	2	1	
21	2	55	養殖		0									
22	5	32	会社員		0	0	0	0	0					
23	1	69	中学用務員		0									
24	3	81			0.5	0.5	80	0.5	0.5			2,15	1	6
25	4	88	無職		0.5	0.5	80	80	80			2,13,15	1	
26	2	72	自営		0.01	0.01						2,15	1	
27	4	40	小菅の湯		0									
28	5	-	村長		0									
29	2	31	公務員											
30	2	82	無職		0.35	0.05			0.3			2,13,15	1	3
31	3	91	無職		0.15	0.15						2,4,15つじ	1	
32	2	66	無職		0.5	0.5	80	80	80			2,15	1	
33	2	68	日雇い				80				村内親戚	2,15	1	
34	1	79	無職		0.18	0.18					同地区親戚	2,15	1	

6. 田元

コード	以前作付	放棄理由	管理意向	委託条件	農産物販売額	販売経路	山林面積	人工比率	訪問回数	育成状況	管理育林	生産・販売
30							80	100	0	3	6	8
31												
32												
33												
34	13	2	1				15	60	3	5	1.4	8

7. 川池

コード	以前作付	放棄理由	管理意向	委託条件	農産物販売額	販売経路	山林面積	人工比率	訪問回数	育成状況	管理育林	生産・販売
1					1		1	100	10	4	6	
2		仕事がある	5				不明	80	0	6		8
3							0					
4							0					
5							5	80	0	5		
6	1,15	1, 7	5		1		1	100	80	4	6	
7							0					
8							9					
9					1		80	90	0	5	6	0
10												
11						6	20	70	0	5	1.6	
12							10	80	0	5	6	8
13	1	4					2	100	0	3	6	8
14							80	100	0	3	6	8
15							9					
16							80					
17	15	5	3				0.5	100	0	3	6	
18							9					
19							不明		0	4		
20												
21							80	100	0	4	5	
22							9					
23							0					
24	13	2	5				不明	100	0	5	1	
25					1		0					
26							不明	100	0	4	6	8
27							9					
28							不明	不明	0	不明		
29												
30	13,15				1		1	80	10	4	1.6	8
31					1		3	100	0	5	1,5,6	8
32					1		9					
33					1		9					
34					1		9					

6. 田元

コード	買物小	買物大	不便1	不便2	近年変化	優物	好場所	よく行く所
30	1, 4	青梅	2	4	小菅の湯ができた	三ヶ村の祭り	現状	温泉
31	2	青梅	青梅	1	2	0	0	0
32	生協	青梅	青梅	特になし	わからない	子供の遊ぶ姿	河原	0
33	生協			5	越してきたばかりでわからない		白糸の滝	今川峠、ワサビ田
34	青梅、上野原	生協		2	4	温泉ができた	伝統芸能	水源林 山

7. 川池

コード	買物小	買物大	不便1	不便2	近年変化	優物	好場所	よく行く所	
1	1, 2	4 奥多摩・青梅		0	道路の整備、公共施設の改修	人情、人とのつながり		診療所	
2	青梅		青梅	2	あまりない	0	0	0	
3	青梅	大月など	青梅・大月	4	特に0	0	0	道しるべ	
4	青梅		青梅	すべて	客が減った				
5	1	青梅	青梅, 甲府	4	不景気、自然の質低下	自然、人	山の頂上	村内	
6	奥多摩	青梅	青梅	0	就職先や仕事減			山	
7	2		青梅		高齢化	お祭り	天神山	山	
8	2		青梅	0	温暖化、過疎高齢化	わからない	0	行かない	
9	1	4	1、青梅	1, 3	4, 5	村営バスができた、工場減	伝承や芸能	天神山	温泉、ヘリポート
10	青梅		青梅		特に0	人	今のままだい	小菅の湯	
11	仕入れる		弟から	4	少子化	獅子舞、箭弓神社	箭弓神社、ほこら		
12	2	4		0	高齢化、過疎	温泉			
13	1	3	青梅	0	店が増えた	0	0	部落会	
14	1		奥多摩	0	0	獅子舞		畑、公民館	
15	1, 2	4	青梅	3	0	神楽		0	
16	1		青梅	0	人口・仕事減	0		温泉	
17	2	青梅	青梅	0	0	0		0	
18	1		青梅	0	希望の館ができた			希望の館	
19	1	青梅	青梅	0	道路、合併に関する村民の気持ち	自然、人		ヘリポート、山	
20	4	生協	青梅	0	高齢化		0	0	
21			青梅	0	わからない	わからない	わからない	YLO	
22	2		青梅	0	住宅・プール・希望の館ができた	お松焼き	0	中学校、兄弟のところ	
23	1			0					
24	1, 4	青梅	青梅、河辺	4	小菅の湯ができた、過疎	獅子舞、お祭り	遊歩道	0	
25	3	都内・山梨県内		特になし	少子化	獅子舞などお祭り	わからない	近所	
26	塩山	甲府	1	特になし	高齢化	伝統芸能	ミツデ山の公園	温泉	
27	青梅		青梅	すべて	特にない	お神楽	0	0	
28	青梅		青梅	すべて	高齢化	0	0	何もしない	
29	青梅		青梅	2	4	まだ一年しかいないのでわからない	わからない	わからない	
30	1, 4	青梅	青梅	特にない	雪かきの迅速化・道路整備・ヘリポートの設置	かやぶき屋根、祭り		ゲートボール	
31	1		青梅	1	4	人とのつながり		川	
32	1	4	青梅	特になし	特に0	まつり		ない	
33	1	生協		1	3	自然	自然	犬と散歩、川	
34	1	4	奥多摩	1	4	人口減、少子化	祭り、神社	今住んでいる場所	

6. 田元

コード	余 暇	郷土料理	自慢料理
30		わからない	
31	0	0	0
32	河原でバーベキュー	けんちん、煮込みうどん	ジャガイモのみそ炒め
33			
34	狩猟	けんちん、そば	けんちん

7. 川池

コード	余 暇	郷土料理	自慢料理
1	山、畑	0	0
2	買い物等村外に行く	0	0
3	村外へ買い物	川魚料理	川魚料理
4		川魚	川魚
5	買い物、畑など	そば	0
6	畑仕事		0
7	孫と遊ぶ、山菜採り	けんちん、山菜ごはん	山菜ごはん
8	ゲートボール	こんにゃく	0
9	ゆうゆうクラブ	おばく	けんちん、こんにゃく
10	青梅・八王子に行く		
11	0	かてめし、うどん	煮込みうどん
12			かてごはん、まんじゅう
13	畑仕事	そば、こんにゃく	そば、こんにゃく
14	畑		こんにゃく、そば
15	青梅に買い物	0	馬刺し、鳥唐
16		0	0
17	0	0	0
18	裁縫	大根・ジャガイモ料理	けんちん
19	読書、旅行	けんちん、きのこほうとう	そば、わさび漬
20	読書、散歩	こんにゃく、山菜	こんにゃく、そば
21			
22	狩猟	けんちん	0
23		そば、こんにゃく	0
24	0	きやらぶき、漬物	小菅産の加工品
25	散歩、釣り	そば	こんにゃく、肉じゃが
26	畑	0	けんちん、カレー
27	0	0	ハンバーグ
28	何もしない	ない	ない
29	買い物	わからない	わからない
30	丹波山・小菅の温泉	うどん、そば	しゃくしな、そば
31		0	0
32	ない	そば、こんにゃく	0
33	料理		コロッケ
34	山	けんちん、煮込みうどん	漬物、みそ

7. 川池

コード	居住人数	年齢	職業	勤務地	農地所有	作付け	借入	貸付	耕作放棄	借入	貸付	作物	目的	耕作放棄年
35	6	93	無職		0.27	0.07			0.2			13,15山菜	1	7
36	6	84	無職				0.5		0.5	地区知人、村内知人		2,15	1	7
37	3	67	無職		0									
38	2	82					0.08			村内その他		2,15	1	
39	1	84	無職			0.03			少々	村外親戚知人		2,15	1	
40	2	75	旅館		0.2	0.2				村外親戚		2,13,15	1	
41	2	76	無職		0.24	0.24						2,15	1	
42	4	73	無職				0.03			同地区親戚		2,15	1	
43	5	76	旅館		0									
44	5	34	パート		0									
45	2	67	家事		0.5	0.5	80	80	80			2,15	1	
46	6	78	無職		0.1	0.1	80	80	80			2,15	1	
47	2	55	団体職員		80	80	80	不明	不明	同地区親戚		2,15	1	7
48	2	69	無職			0.13	80	80	0.5			2,15	1	
49	2	57	住職		0									
50	2	68		川池	0.5	0.5			0.5			2,4,13,15	1	7
51	3	75		川池	0.5	0.5	0.5			村外親戚		2,13,15	1	3

8. 長作

コード	居住人数	年齢	職業	勤務地	農地所有	作付け	借入	貸付	耕作放棄	借入	貸付	作物	目的	耕作放棄年
1	1	89	無職		0.1	0.1	0	0	0.1			2,13,15	1	H12
2	2	54	自営		0	0	0	0	0					
3	2	54	役場	小菅	0.1	0.1	0.1	0	0	同地区知人		15	1	
4	3	76			0.05	0.03	0	0	0			15	1	20年<らい前
5	5	86	無職		0.05	0	0	0	0			13,15		
6	3	68	無職		0.05	0.05	0.05	0	0	同地区親戚		2,15	1	30年<らい
7	2	80	農業		0.1	0.1	0.05			村内・村外知人		わさび	2	
8	1	64	自給的農業		0.05	0.05	0	0.05	0.03		同地区知人	2	1	6
9	3	95	自給的農業		1	0.03	0	0	0.5		同地区知人	15	1	30年以上前
10	3	63	無職		0.1	0.1	0	0	0			2,15	1	H12,13
11	2	72	農業		0.35	0.05	0	0.05	0.3		同地区知人	2,15	1	2
12	2	64			0.1	0.03~0.06	0	0	0.04			2,13,15	1	3
13	1	57	無職		0.25	0.05	0	0	0.2			2,15	1	
14	1	89			0.15	0.075	0	0	0.075			2,13,15	1	H11
15	1	80	無職		0.01	0.01	0	0	0			2,15	1	
16	2	55	自営		0.2	0.1	0	0	0.1			2,15	1	3
17	1	71	無職		1	0.5	0	0	0.5			2,15	1	H7
18	1	89	無職		0.1	0.1	0	0	0			2,4,15	1	
19	1	68	無職											
20	2	50	会社員	上野原										
21	1	66	無職		0.1	0.1	0	0	0.1			2	1	7
22	3	58	公務員	役場	0.1	0.1	0	0.03	0.1		同地区親戚	2,13,15	1	3,6
23	5	31	役場	川池	0.3	0.1	0.05	0	0.2	同地区知人		2,15	1	6

7. 川池

コード	以前作付	放棄理由	管理意向	委託条件	農産物販売額	販売経路	山林面積	人工比率	訪問回数	育成状況	管理育林	生産・販売
35	13,15山菜		5		1		1	70	0	4	1,6	8
36		7					9					
37							0					
38							9					
39			3				9					
40							1	100	15	4	6	
41					2	小菅の湯	0.5	80	0	4	6	8
42							80	100	0	4		
43							0.3	100	0	5	6	8
44							0					
45							9					
46							80	80	0	3	6	8
47		1					不明	90	0	5	6	8
48							9					
49							0					
50	13	2	3					90	10	5	6	
51	13	2	2				0.15	100	10	5	6	

8. 長作

コード	以前作付	放棄理由	管理意向	委託条件	農産物販売額	販売経路	山林面積	人工比率	訪問回数	育成状況	管理育林	生産・販売
1	2,15	4	息子と相談									
2							不明	80	1	3	6	8
3							9					
4	2,15		3				不明	3	0	4	6	
5		4,5	3				不明	100	0	5	6	
6	12,13,15	7	1				3	90	2	5	6	8
7							6	100	1	5	1	8
8	1,2,12,13,14,15	5、人手無し	5				6	10	2	4	6	
9	12,13,15	2,5	3,5				6	90	1	5	1,6	
10	2,15	4	3				1	不明	不明	不明		
11	15,桑畑	2,5	5				不明	30	3	5	6	
12	13、桑畑	蚕をやめた	3				5	80	3	5	6	8
13	2, 13, 15	5, 7	3				1	0	2		6	
14	13	4,5	3				9					
15	麦	5	3									
16	2, 15	2, 7	3				9					
17	13	4	3				5	70~80	1			
18							9					
19												
20												
21	2	4	3				1		1	5	6	
22	13, 15	4	1				3	70	2	4	1	8
23	2, 15						2	50	1	4		

7.川池

コード	施業計画	未植林地	林業収入	管理するか	管理方針	委託方針	委託条件	村管理	交流と森林	条件
35	3	2	1	2					1	行くまでが遠い
36										
37										
38										
39										
40	3	2	1	1	1			1	2	狭い
41	3	2	1	1	1			6	1	面積が十分なら
42				1					2	提供はしない
43	3	2	1	2				6		
44										
45										
46	3	2	1	2				1	1	林地が広ければ
47	3	2	1	1	1				1	特に0
48										
49										
50	3	2		2	1			1.2	1	急斜面で作業に通してない
51		2	1	1	1			6	1	間伐も枝打ちも終わっている

8.長作

コード	施業計画	未植林地	林業収入	管理するか	管理方針	委託方針	委託条件	村管理	交流と森林	条件
1										
2	1	0	1	1	1			6	1	やるところがない
3										
4				2						
5								1	1	ルールを確約して守ってくれれば
6	2	0.1		1	2	1	1	1	1	作業適地があれば
7	2	5	1	1	2	1	補助金	6	1	専門家がしっかり指導をした上でならまし
8	3	0	1	1	1			3	1	借り手があれば
9	3	0	1	1						
10										
11	3	0	1	1	1			7	1	1~2人ならいいけど
12				1	1			6	2	ゴミ不法投棄問題などあるから
13	3	0	1	2						
14										
15										
16										
17	3	0		2				考えていない	考えていない	
18										
19										
20										
21	3			2						
22	3	0	1	2	2	2	1	1	1	特に0
23		0		2				1	1	林道がなく、遠いけど

7. 川池

コード	買物小	買物大	不便1	不便2	近年変化	優物	好場所	よく行く所
35	青梅	青梅	4		下水、道路	植林に適している	自然	特に0
36	1	4	青梅	1	4, 5	人口減、少子化	自然、人	自然
37	1	4	青梅	特になし	コンビニなど店ができた	0	0	丹波山・小菅の温泉
38	1	4	奥多摩、青梅	特になし	特に0	0	0	ない
39	1	4	青梅	特になし	店が増えた	自然などすべて		友人宅
40	青梅	青梅	4		人口減	伝統芸能	神社、山	0
41	3	青梅、河辺	4		少子化	小菅全部	川	川
42	1, 4	生協	青梅	特に0	川の巨石がなくなった、店が増えた	0	0	0
43	1, 4	青梅、昭島	奥多摩	5		人口減	自然	川池
44	生協			4		少子化	特に0	小菅の湯
45	1	奥多摩	0			とくに0	わからない	わからない
46	3	八王子	0		新しい建物の増加	伝統行事	特に0	温泉
47	青梅	青梅	4		人口減	地域の祭り	長作観音堂	0
48	4	青梅	4		人口減	0	0	0
49	上野原	青梅、青梅、上野原	1	4	0	自然	滝	0
50	4	青梅	奥多摩		便利になった・自然がなくなった	自然	川	川・山・畑
51	青梅	4	青梅	4	人口減少・団地の建設、道路・施設・電話の整備		自然	山・畑

8. 長作

コード	買物小	買物大	不便1	不便2	近年変化	優物	好場所	よく行く所
1	移動	八王子	息子	医療	押し売り来なくなった、道路・水道整備		自分の家	友人宅
2	八王子	八王子	医療施設	携帯が通じない	若い人がいなくなっている	自然、おたか神社	上野段	特に0
3	上野原	上野原	冬場の交通		0	観音堂のお祭り	御たか神社	0
4	上野原	上野原	感じない		特に感じない			
5	村外	移動	上野原	医療				家の周囲の山歩き
6	村内、生協	上野原	村内、村外	医療施設	高齢化	御たか神社、観音堂	森の中、自然	自分の畑、山
7	村外	長男家	村外	医療施設	何もかも整った、人口減、嫁が来ない、後継ぎ	長作観音堂	御鷹神社、都留川	役場近く
8	上野原	上野原	医療施設		高齢化、子供がいなくなった	神社、木、観音様		
9	村内、移動	上野原	橋立	医療施設	教育関係	観音様	0	温泉
10	上野原	村外	バスがこない		人が減った	観音様	0	温泉
11	青梅	移動	子ども	感じない	道がよくなった	わからない	ない	近所
12	移動	上野原	八王子	交通の便	携帯の電波が入らない	仕事が無くなってきた	観音様、御鷹神社	古観音、音無の滝周辺
13	移動	上野原	交通の便		人が減ってきている	神社、観音様	山	仕事があるし
14	移動	上野原	バスが少ない		あまりない	べつにない	べつにない	温泉
15	移動	上野原	交通の便		土葬でなくなった	観音様	どこもいい	公民館、老人のつどい
16	上野原	移動	上野原	医療施設	道路も良くなってきた	観音様	ここが一番	役場の方へ(高齢者学級)
17	村内	上野原	上野原	医療施設	出前がとれない	そんなに変わってない	自然、神社の森、近所	森、自然
18	移動	上野原	青梅市	交通の便	特に0	0	0	0
19	移動	上野原	上野原	医療施設	年寄りしかいなくなった	神社		家にいることが多い
20	移動	仕事帰り	上野原	医療施設	全部...	特に0		
21	移動	上野原	上野原		年をとった、子供がいなくなった	0	0	0
22	村内	移動	八王子	1, 2, 3, 4	電波が届かない	年寄りばかり、子供がいなくなった	御鷹神社、森	特に0
23	上野原	八王子	携帯が使えない		少子高齢化が進んだ	観音堂(重文)	0	0

7. 川池

コード	余 暇	郷土料理	自慢料理
35	畑、山、買い物	けんちん、そば	
36	お茶飲み	こんにゃく、川魚	山菜の塩漬け
37	0	そば、こんにゃく	うどん
38	ない	0	0
39	畑	0	野菜の煮物、白菜漬け
40	旅行	けんちん	てんぷら
41	バチンコ	0	0
42	ゲートボール	けんちん	漬物、そば
43	温泉	そば、川魚	
44	家事	0	0
45	特に0	0	0
46	0	0	0
47	TV	そば	漬物
48	畑、晩酌		漬物、みそ
49	スポーツ、ドライブ	わからない	
50		けんちん汁	けんちん汁
51	山・畑		自家野菜で使った料理

8. 長作

コード	余 暇	郷土料理	自慢料理
1	草むしり、ゲートボール	こんにゃく	そば
2	時間の	大福、手打ちそば、こんにゃく	そば、酒まんじゅう
3	車そうじ、休む	0	じゃがいもの塩焼き
4	昔は編み物	特に無い	嫁さんに任せている
5		じゃがいもの味噌煮、そば	混ぜご飯、ピザ
6	家事	じゃがいもの煮っころがし	そば
7		そば、酒まんじゅう、わさび漬け	酒まんじゅう、わさび漬け
8		特に0	特に0
9		こんにゃく、そば、まんじゅう	こんにゃく、そば、まんじゅう、山菜
10	お茶飲み	べつにない	天ぷら(フキ、ウド)まぜごはん(シイタケ)
11	ワサビ田	わからない	山菜おこわ、自家野菜の煮付け
12	山が出掛ける(八王子とか青梅)		そば、味噌煮込みうどん
13	畑	山でとれたもの、こんにゃく	0
14	畑、ゲートボール	伝統的に味噌	
15	畑仕事、お茶飲み	特に無い	そば、煮物
16	冬猟	そば	おまんじゅう(キビ、アワ)
17	0	わからない	わからない
18	畑とか	わからない	わからない
19			
20			
21	いろいろ		
22	畑仕事、都会へ行く	そば	特に0
23	週一回の買い物(上野原や八王子)	そば、こんにゃく、けんちん汁、	ない

小菅村住民意識調査票

整理No. S-1

集落名: XXXXXXXXXX 宅

職業	無職	1次	2次	3次
農地	無	有	貸	借
林地	無	有		
			販	放
			販	放

世帯構成 居住人数 3 人 2 世代

【同居家族】

【村外転出家族】

続柄	年齢	性別	職業	所属クラブ等	続柄	年齢	性別	職業	居住地
本人		男	無職	老人会	長男		男	会社員	東京
妻		女	無職	老人会	次男		男	会社員	東京
三男		男	-		長女		女		東京

家計収入源: 年金・給与
 近年の推移: 変化無し

住居の形態: 一戸建て
 建築年数: 70 年

農地

聞き取り面積	備考		
所有面積	2.3	ha	
作付面積	0.2	ha	
借入面積	0	ha	
貸付面積	0.2	ha	同地区・親戚
耕作放棄地	0.5	ha	未満
耕作物	露地野菜・こんにゃく・雑穀		
耕作目的	自給用		
放棄理由	H10～、高齢化		
管理意向	放棄or代わって管理、条件なし		
販売	無		
	有	収入額	円
	経路		
品種			

林地

所有面積	24	ha
人工林面積	5～6	ha
人工林年生	26～40	年生
山林訪問頻度	0回	年
管理実績	下刈り	自家労力
	除伐	組合・単発
	間伐	組合・単発
木材生産	無	
	有	収入額 千円
施業計画	未作成	皆伐後未植栽 有 無
管理意向	放置	
交流時の林地提供	可・管理してくれるならありがたい	

生活

買い物	食料・日用品	移動商店・村外(青梅)
	その他(家具等)	村外: 青梅
余暇活動	将棋・マージャン	
よく行く場所	畑・小菅の湯	
インターネット	無し	
備考		

意見・意向

上下流の交流(連携)について
今の型を守ればよい
小菅村の発展について
子どもがいなくては発展できない。教育の整備が必要
行政に対する要望
付け焼き刃では意味がない、展望が必要

集落について

不便を感じる所	医者・買い物、車無しで生活できない
近年感じる変化	老人が増えた
優れているもの	原始村、神社
残したいもの	

特記事項

人工林は公団との分収林(4:6) 森林放棄理由 収益、(自家)労働力なし

調査日: 2005/3/13

小菅村住民意識調査票

整理No. k-1

集落名: XXXXXXXXXX 宅

職業		1次	2次	3次
農地	無	有	貸	借
林地	無	有		販
			販	放

世帯構成 居住人数 2 人 1 世代

【同居家族】

【村外転出家族】

続柄	年齢	性別	職業	所属クラブ等	続柄	年齢	性別	職業	居住地
本人	XXXX	男	農業	老人会	長男	50	男	会社員	昭島
妻	XXXX	女	無職	老人会					

家計収入源: 農業・年金
 近年の推移: 変化無し

住居の形態: 一戸建て
 建築年数: 3 年

農地

聞き取り面積	備考		
所有面積	0.6	ha	
作付面積	0.3	ha	
借入面積		ha	
貸付面積		ha	
耕作放棄地	0.3	ha	植林した
耕作物	露地野菜・こんにゃく・そば・山芋		
耕作目的	主に自給		
放棄理由	平成以降、不採算による経営困難		
管理意向	考え中		
販売	無		
	有	収入額	円
	経路		
	品種		

林地

所有面積	15	ha
人工林面積	15	ha
人工林年生	20~30	年生
山林訪問頻度	0回	年
管理実績	下刈り	自家労力
	除伐	自家労力
	間伐	自家労力
木材生産	無	
	有	収入額 千円
施業計画	未作成	皆伐後未植栽 有 無
管理意向	管理はしたいが、金・体力がない	
交流時の林地提供	条件によっては提供しても良い、条件は個別に考える	

生活

買い物	食料・日用品	移動商店・村外(青梅)
	その他(家具等)	村外:昭島
余暇活動	友人と交流、畑	
よく行く場所	友人宅	
インターネット	無し	
備考		

意見・意向

上下流の交流(連携)について	よくわからない
小菅村の発展について	
行政に対する要望	木が売れるようにしてほしい。 仕事が欲しい。 若い人が住み続けられる環境を整備すべき。

集落について

不便を感じる所	医療施設
近年感じる変化	人口減少、老人が増えた
優れているもの	-
残したいもの	自分の家の畑

特記事項

--

調査日: 2005/3/9

小菅村住民意識調査票

整理No. h-1

集落名: XXXXXXXXXX 宅

職業			1次	2次	3次
農地	無	有	貸	借	販
林地	無	有			販

世帯構成 居住人数 5 人 3 世代

【同居家族】

【村外転出家族】

続柄	年齢	性別	職業	所属クラブ等	続柄	年齢	性別	職業	居住地
本人		男	無職	なし					
妻		女	無職	なし					
長男		男	公務員	野球					
嫁		女	公務員	婦人会					
孫		女							

家計収入源: 給与・年金
 近年の推移: 変化無し

住居の形態: 一戸建て
 建築年数: 70 年

農地

聞き取り面積	備考		
所有面積	0.4	ha	
作付面積	0.3	ha	
借入面積	0	ha	
貸付面積	0.1	ha	村内知人
耕作放棄地	0	ha	少しある
耕作物	露地野菜・こんにゃく・雑穀		
耕作目的	自給用		
放棄理由	価格低下(こんにゃく)		
管理意向	今後も放棄する		
販売	無		
	有	収入額	円
	経路		
	品種		

林地

所有面積	20	ha
人工林面積	20	ha
人工林年生	20~40	年生
山林訪問頻度	1~2回	年
管理実績	下刈り	自家労力
	除伐	自家労力
	間伐	自家労力
木材生産	無	
	有	収入額 千円
施業計画	未作成	皆伐後未植栽 有 無
管理意向	自分で管理したい	
交流時の林地提供	提供しても良い。条件はその都度考える	

生活

買い物	食料・日用品	移動商店・農協・青梅
	その他(家具等)	青梅
余暇活動	猟(冬)	
よく行く場所	橋立(友人宅)	
インターネット	よく利用している	
備考		

意見・意向

上下流の交流(連携)について
もっと盛んにやって欲しい、こすげの自然を広くアピールすべき。若ければ自分もやりたかった。
小菅村の発展について
みんなで相談して、観光の目玉になるようなものを作りたい。
行政に対する要望
木が売れる状態にして欲しい(補助金) 後継者問題を考えて欲しい

集落について

不便を感じる所	医療施設、交通
近年感じる変化	子どもが少なくなった
優れているもの	
残したいもの	原始村

特記事項

森林: 100年生もすこしある。保安林の森林施行計画は大月の事務所が作成。
 猟: 山鳥、キツネ、タヌキが減少した。
 イノシシ、シカの被害増えた。

調査日: 2005/3/24

小菅村住民意識調査票

整理No. kw-1

集落名: XXXXXXXXXX 宅

職業	自営業			1次	2次	3次
農地	無	有	貸	借	販	放
林地	無	有			販	放

世帯構成 居住人数 2 人 1 世代

【同居家族】

【村外転出家族】

続柄	年齢	性別	職業	所属クラブ等	続柄	年齢	性別	職業	居住地
本人	XXXX	男	自営業						
妻	XXXX	女							

家計収入源: 自営業
 近年の推移: 2割減

住居の形態: 一戸建て
 建築年数: 18 年

農地

聞き取り面積	備考		
所有面積		ha	
作付面積		ha	
借入面積		ha	
貸付面積		ha	
耕作放棄地		ha	
耕作物			
耕作目的			
放棄理由			
管理意向			
販売	無		
	有	収入額	円
	経路		
品種			

林地

所有面積		ha
人工林面積		ha
人工林年生		年生
山林訪問頻度		年
管理実績	下刈り	
	除伐	
	間伐	
木材生産	無	
	有	収入額 千円
施業計画	皆伐後未植栽	有 無
管理意向		
交流時の林地提供		

生活

買い物	食料・日用品	移動商店・村外(青梅)
	その他(家具等)	村外: 青梅
余暇活動	買い物	
よく行く場所	神社	
インターネット	なし	
備考		

意見・意向

上下流の交流(連携)について
村で買い物をしたい
小菅村の発展について
-
行政に対する要望
みんなが潤うことを...

集落について

不便を感じる所	すべて
近年感じる変化	客が減った
優れているもの	-
残したいもの	-

特記事項

調査日: 2005/3/16

小菅村住民意識調査票

整理No. n-1

集落名: XXXXXXXXXX 宅

職業	自営業		1次	2次	3次
農地	無	有	貸	借	販
林地	無	有			販

世帯構成 居住人数 2 人 1 世代

【同居家族】

【村外転出家族】

続柄	年齢	性別	職業	所属クラブ等	続柄	年齢	性別	職業	居住地
本人	XXXX	男	無職						
妻	XXXX	女							

家計収入源: 年金
 近年の推移: 変化無し

住居の形態: 一戸建て
 建築年数: 20 年

農地

聞き取り面積			備考
所有面積	0.02	ha	
作付面積	0	ha	
借入面積	0	ha	
貸付面積	0	ha	
耕作放棄地	0	ha	
耕作物	露地野菜、じゃがいも		
耕作目的	自給用		
放棄理由			
管理意向			
販売	無		
	有	収入額	円
	経路		
	品種		

林地

所有面積			ha
人工林面積			ha
人工林年生			年生
山林訪問頻度			年
管理実績	下刈り		
	除伐		
	間伐		
木材生産	無		
	有	収入額	千円
施業計画	皆伐後未植栽 有 無		
管理意向			
交流時の林地提供			

生活

買い物	食料・日用品	移動商店・村内
	その他(家具等)	村外:奥多摩
余暇活動	山へいく(山菜・きのこ)	
よく行く場所	猟	
インターネット	なし	
備考		

意見・意向

上下流の交流(連携)について
いいことだと思うが、キノコやワサビ泥棒が困る
小菅村の発展について
就職先がない、子どもが出て行ってそのままになってしまう
行政に対する要望
大月線の開通を早く

集落について

不便を感じる所	道路、医療
近年感じる変化	人口減、少子化
優れているもの	祭り、神社
残したいもの	自分の家、観音様

特記事項

調査日: 2005/3/4

小菅村住民意識調査票

整理No. t-1

集落名: XXXXXXXXXX 宅

職業	無職	1次	2次	3次
農地	無 有	貸 借	販	放
林地	無 有		販	放

世帯構成 居住人数 1 人 1 世代

【同居家族】

【村外転出家族】

続柄	年齢	性別	職業	所属クラブ等	続柄	年齢	性別	職業	居住地
本人		女	無職						

家計収入源: 年金
近年の推移: 変化無し

住居の形態: 一戸建て
建築年数: 15 年

農地

聞き取り面積	備考		
所有面積	0.05	ha	
作付面積	0.03	ha	
借入面積	0.01	ha	村外親戚より
貸付面積		ha	
耕作放棄地	0.01	ha	
耕作物	露地野菜、じゃがいも		
耕作目的	自給用		
放棄理由	高齢		
管理意向	放棄する		
販売	無		
	有	収入額	円
	経路		
品種			

林地

所有面積			ha
人工林面積			ha
人工林年生			年生
山林訪問頻度			年
管理実績	下刈り		
	除伐		
	間伐		
木材生産	無		
	有	収入額	千円
施業計画	皆伐後未植栽		有 無
管理意向			
交流時の林地提供			

生活

買い物	食料・日用品	移動商店・村内
	その他(家具等)	村外: 青梅
余暇活動	畑仕事	
よく行く場所	友人宅	
インターネット	なし	
備考		

意見・意向

上下流の交流(連携)について	ない
小菅村の発展について	ない
行政に対する要望	ない

集落について

不便を感じる所	特になし
近年感じる変化	店が増えた
優れているもの	全て
残したいもの	

特記事項

調査日: 2005/3/12

小菅村住民意識調査票

整理No. nk-1

集落名: XXXXXXXXXX 宅

職業	自営業			1次	2次	3次
農地	無	有	貸	借	販	放
林地	無	有			販	放

世帯構成 居住人数 1 人 1 世代

【同居家族】

【村外転出家族】

続柄	年齢	性別	職業	所属クラブ等	続柄	年齢	性別	職業	居住地
本人	XXXX	女	自営業						

家計収入源: 自営業
近年の推移: 5割減

住居の形態: 一戸建て
建築年数: 25 年

農地

聞き取り面積	備考		
所有面積	0.05	ha	
作付面積		ha	
借入面積		ha	
貸付面積		ha	
耕作放棄地	0.05	ha	
耕作物			
耕作目的			
放棄理由	体が少し不自由になった		
管理意向	放棄する。貸しても良い		
販売	無		
	有	収入額	円
	経路		
品種			

林地

所有面積	5	ha
人工林面積	4	ha
人工林年生	40-50	年生
山林訪問頻度	0	年
管理実績	下刈り	?
	除伐	?
	間伐	?
木材生産	無	
	有	収入額 千円
施業計画	?	皆伐後未植栽 有 無
管理意向	放置する	
交流時の林地提供	境界がわからない	

生活

買い物	食料・日用品	移動商店・村外(青梅)
	その他(家具等)	村外:奥多摩町
余暇活動	テレビ	
よく行く場所	友人宅	
インターネット	なし	
備考		

意見・意向

上下流の交流(連携)について
全村を観光地化して欲しい
小菅村の発展について
入ってきた人が住み続けられるように
行政に対する要望
-

集落について

不便を感じる所	医療
近年感じる変化	道路が舗装された
優れているもの	神楽
残したいもの	神楽

特記事項

調査日: 2005/3/14

小菅村住民意識調査票

整理No. tb-1

集落名: XXXXXXXXXX 宅

職業		1次	2次	3次
農地	無	有	貸	借
林地	無	有		販
				放

世帯構成 居住人数 5 人 3 世代

【同居家族】

【村外転出家族】

続柄	年齢	性別	職業	所属クラブ等	続柄	年齢	性別	職業	居住地
本人		男	無職		次男		男		
妻		女			三男		男		
長男		男	会社員						
嫁		女							
孫		男							

家計収入源: 年金・給与
近年の推移: 変化無し

住居の形態: 一戸建て
建築年数: 30 年

農地

聞き取り面積	備考		
所有面積	0.2	ha	
作付面積	0.1	ha	
借入面積	0.05	ha	
貸付面積	0	ha	
耕作放棄地	0	ha	
耕作物	露地野菜、こんにゃく、じゃがいも		
耕作目的	自給用		
放棄理由			
管理意向			
販売	無		
	有	収入額	円
	経路		
	品種		

林地

所有面積	20	ha
人工林面積	15	ha
人工林年生	40-50	年生
山林訪問頻度	2	年
管理実績	下刈り	自家労力
	除伐	自家労力
	間伐	自家労力
木材生産	無	
	有	収入額 千円
施業計画	未作成	皆伐後未植栽 有 無
管理意向	自分で管理する	
交流時の林地提供	可能: どんどんやってください	

生活

買い物	食料・日用品	移動商店・村外(青梅)
	その他(家具等)	村外: 青梅
余暇活動	ゲートボール	
よく行く場所	ゲートボール	
インターネット	たまに	
備考		

意見・意向

上下流の交流(連携)について	
森林の管理は個人では難しくなってきたので補助的にやってもらいたい	
小菅村の発展について	
観光資源はある。誘致できないなら自分たちで	
行政に対する要望	
合併に関する不安がある。早期解決を過疎対策を	

集落について

不便を感じる所	道路、病院
近年感じる変化	観光客が減った
優れているもの	人情
残したいもの	家

特記事項

調査日: 2005/3/15

小学生用

私たちは小菅村のこれからのあり方について調査を行っています。みなさんの意見を聞いて参考にしたいと考えています。以下の質問に答えて下さい。答えは、当てはまるものに または () の中に記入して下さい。

1. あなたの性別 (男・女) を教えてください。

男 女

2. あなたの年齢を教えてください。

9才 10才 11才 12才

3. あなたは小菅村の何処どこに住んでいますか。

ながさく 長作 こながた 小永田 しらさわ 白沢 とうぶ 東部 なかくみ 中組 たもと 田元 かわいけ 川池 はしたて 橋立

4. あなたはなんにん兄弟 (姉妹) ですか。

一人っ子 二人兄弟 (姉妹) 三人兄弟 (姉妹) 四人兄弟 (姉妹)
その他 () 兄弟 (姉妹)

5. あなたはいつもだれと遊あそんでいますか。

きょうだい 兄弟 (姉妹) しまい 友達 ともだち 友達 あそばない その他 ()

6. あなたがいつも遊あそんでいるところはどんなところですか (当てはまるもの全てすべてに をして下さい)

山や川 学校の庭 じんじゃ 神社の庭 ひろば 広場 (空あき地) や公園 こうえん 家の中 (テレビなど) 友達の家 こすげの湯 その他 () ()

7. あなたはいつもどんな遊びをしていますか (当てはまるもの五つあげてください)

自転車で遊ぶ テレビゲーム パソコン おにごっこ
野球 サッカー 釣り なわとび かくれんぼ インターネット
その他 () () ()

答え 1. () 2. () 3. () 4. () 5. ()

8. あなたはいつもどのようなお手伝いお手伝いをしていますか。

やさい 野菜などの畑仕事 はたけしごと 草刈りなどの山仕事 くさかり 掃除や洗濯など家の仕事 やましごと 庭の草取り そうじ 花や庭木に水をあたえる せんたく おつかい (かいものなど)
その他 () ()

9. 小菅村で好きな季節季節ときらいな季節季節を教えてください。

好き _____ きらい _____

10. あなたが小菅村の中で好きなところ（あるいはもの）を3つあげてください。

1. _____
2. _____
3. _____

11. あなたが小菅村の中できらいなところ（あるいはもの）を3つあげてください。

1. _____
2. _____
3. _____

12. あなたが小菅村の中にあつたらいいと思うものは何ですか。3つ書いてください。

1. _____
2. _____
3. _____

13. あなたは将来、小菅村に住みたいと思いますか。

住みたい 住みたくない わからない その他()

14. 小菅村の将来（10～20年後）について「こうだったらいいのに」と思うことは
なんですか。

ごきょうりょくありがとうございました

中学生用

私たちは小菅村のこれからのあり方について調査を行っています。みなさんの意見を聞いて参考にしたいと考えています。以下の質問に答えて下さい。答えは、当てはまるものに または () の中に記入して下さい。

小菅村・多摩川源流研究所
東京農業大学森林政策学研究室

1. あなたの性別(男・女)と年齢を教えてください。

男 () 才 女 () 才

2. あなたは小菅村の何処に住んでいますか。

ながさく 長作 こながた 小永田 しらすわ 白沢 とうぶ 東部 なかくみ 中組 たもと 田元 かわいけ 川池 はしたて 橋立

3. あなたはなんにん兄弟(姉妹)ですか。

一人っ子 二人兄弟(姉妹) 三人兄弟(姉妹) 四人兄弟(姉妹)
その他() 兄弟(姉妹)

4. 高校や大学を出たらまた村に帰ってきて、村に住みたい(働きたい)と思いますか。

村に帰ってきたい 村には帰らない まだ考えていない わからない

5. 小菅村で自慢できるところ(もの)は何ですか。3つ選んで下さい。

美しい森林 清流 溪谷 滝 歴史 神社(祭り) 山菜 そば
わさび ひとがら その他()

6. 小菅村で好きな季節と嫌いな季節を教えてください。

好き _____ 嫌い _____

7. 小菅村で将来、残しておきたいものを3つ上げて下さい。

1. _____
2. _____
3. _____

8. 小菅村の中でこれから整備(改善あるいはなおして)してもらいたいことは何ですか。3つあげて下さい。

1. _____
2. _____
3. _____

高校生以上

私たちは国土創発調査のためにアンケートを実施しております。このアンケート調査は、厳しい状況にある源流域の新たな地域施策を提言するために資するものです。ご多忙中の所誠に恐縮に存じますがご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、データ集計に当たっては全体的に集計し、プライバシーには十分に気をつけることをお約束いたします。

小菅村・多摩川源流研究所
東京農業大学森林政策学研究室

1. あなたの性別と年齢を教えてください。

男 () 才代 女 () 才代

2. あなたのお住まいは何処ですか

長作 小永田 白沢 東部 中組 田元 川池 橋立

3. あなたの職業を教えてください。

自営業 公務員 団体職員 農林業 サラリーマン フリーター
学生 主婦 無職 年金生活者 その他 ()

4. あなたの家族構成は次の内どれですか。

一人暮らし 父母と同居 夫婦のみ 夫婦と子ども 三世代
その他 ()

5. あなたは、現在の集落に通算してどのくらいお住まいですか

生まれてからずっと 3年以下 4年以上～10年未満
10年以上～20年未満 20年以上～30年未満 30年以上 () 年

6. あなたは、自分お住まいや周辺の環境、暮らしにどの程度満足していますか。

それぞれの項目について を付けて下さい。

1. 満足している 2. どちらかといえば満足 3. どちらかといえば不満
4. 不満である 5. わからない

Q 1 犯罪防止・消防・救急体制など生活の安全性	1	2	3	4	5
Q 2 医療施設や地域の保健活動	1	2	3	4	5
Q 3 交通条件や買い物の便利さ	1	2	3	4	5
Q 4 住環境・自然環境の快適さ	1	2	3	4	5
Q 5 衣・食・住など生活の豊かさ	1	2	3	4	5
Q 6 小・中学校の教育施設や教育環境	1	2	3	4	5
Q 7 社会教育・体育・文化施設とその活動について	1	2	3	4	5
Q 8 福祉施設や福祉サービスについて	1	2	3	4	5
Q 9 地域活動や住民間の交流・ふれあいについて	1	2	3	4	5
Q 10 生活の充実感・精神的な満足度	1	2	3	4	5
Q 11 公的機関(役場など)の取り組みとサービス	1	2	3	4	5
Q 12 情報サービス(インターネット、携帯電話などの普及)	1	2	3	4	5
Q 13 全てを総合した生活全般について	1	2	3	4	5

7. あなたは将来とも今のところに住みたいと思いますか

その理由もお答えください

: 住みたい・住みたくない : 理由 :

今後とも住みたい ———— { 1. 生まれ育ったところだから
2. 自然がきれいだから
3. 農山村が好きだから
4. 特に不便を感じない
5. その他 ()

村外へ転出したい ———— { 1. 生活が不便
2. 仕事がない
3. 子どもの教育のため
4. つき合いが大変
5. その他 ()

集落を変わりたい ———— { 1. 生活が不便
2. 家族との同居または別居のため
3. 勤務先の関係
4. その他 ()

わからない

8. あなたが日頃活動に参加している団体、クラブ等がありますか

どのような団体ですか

1 ある ———— { 1. 青年会・婦人会・老人クラブ等の団体
2. 文化サークル・趣味サークル
3. 奉仕活動の団体
4. 農林業・商工業等の団体
5. その他 ()

理由は何ですか

2 ない ———— { 1. 時間的な余裕がない
2. 興味ある団体がない
3. その他 ()

9. あなたは自分の健康を管理するため、どんなことに気をつけていますか

睡眠を十分にとり、規則正しい生活をする

スポーツ等適当な運動をする

食生活に気をつける

定期的に健康診断を受ける

ストレスの解消に努める

その他 ()

10. あなたは、余暇をどのように過ごしていますか (3つ選び をつけてください)

テレビ 読書・レコード鑑賞 スポーツ 盆栽等 旅行・ドライブ

囲碁・将棋 パチンコ・マージャン スポーツ等の見学 散歩 ごろ寝

その他 ()

11. あなたは、日頃買い物等はどこへ行っていますか。それぞれについてお答えください

	村内が多い	山梨方面が多い	東京方面が多い
日用の食料品	1	2	3
日用の衣料品	1	2	3
家具・電気製品	1	2	3
スポーツ用品	1	2	3
スーツ等高級衣料品	1	2	3
病院の診察	1	2	3

12. あなたは、老後をどのように送りたいと思いますか。それぞれの項目で、あなたの考えに近いものの番号に をつけてください。

仕事について { 1 年をとっても働ける間は仕事したい
2 年をとったらあまり働きたくない
3 どちらともいえない

社会活動について { 1 地域活動やボランティア活動は積極的にやりたい
2 地域活動やボランティア活動はしないで暮らしたい
3 どちらともいえない

看護・介護について { 1 長期治療が必要になった場合は、
家で家族に面倒をみてもらいたい
2 長期治療が必要になった場合は、
福祉施設や老人ホーム等に入りたい

3 どちらともいえない

- 人間関係について
- 1 友人や知人と、楽しくつきあう生活をしたい
 - 2 人間関係のわずらわしさから離れて暮らしたい
 - 3 どちらともいえない
- 家族について
- 1 子供や孫などと暮らしたい
 - 2 夫婦だけ、または一人で暮らしたい
 - 3 どちらともいえない

13. 集落を住みよい集落とするために、特に優先して進める必要があると思うものは何ですか（3つ選んでをつけてください）。

- 集落道・林道の道路交通網の整備を図る
- 山林、河川等の自然環境の保護と美化を図る
- 土地の基盤整備、有効活用や農林業など基幹産業の振興等を図る
- 観光開発、レクリエーション施設の整備等、観光と集落民の憩いの場作りを行う
- 企業の誘致及び商工業の振興を図る
- 高齢者のための福祉施設と在宅福祉サービスの充実を図る
- 水道、下水道等の生活環境の整備を図る
- 消防、防災等、防災対策の充実を図る
- 学校教育施設、社会教育施設の整備と内容の充実を図る
- 国際化、情報化時代にふさわしい人材の育成を図る
- その他（ ）

14. 21世紀の集落は、どのようにあって欲しいと思われませんか（次の中から3つ選んでをつけてください）。

- 産業活動が活発な活力ある集落
- 交通網や情報通信網が発達した便利な集落
- 教育、文化施設が充実し、文化水準の高い集落
- 高齢者等の生きがいをもって、生き生きと暮らせる集落
- 保険、医療サービスがいきとどいた、安心して暮らせる集落
- 犯罪、災害のない安全な集落
- 水や空気のきれいな自然が今のまま残され、うるおいのある集落
- 下水道など生活環境の整備されたきれいな集落
- 人情豊かで、地域住民間で、交流が活発な、ふれあいの多い集落
- スポーツや趣味が生かせる施設が充実した余暇活動の楽しめる集落
- 都会に比べ所得や生活様式に格差がない集落

その他 ()

15. 世帯主又は、その配偶者だけお答えください。

あなたの家族には、後継者がいますか。

- 1 いる
- 1 現在後継者がいる
 - 2 現在は村外にいるが、将来は帰村し家を継ぐ予定
 - 3 現在は学生等であるが、将来は家を継ぐ予定
 - 4 その他 ()
- 2 いない
- 1 村外に転出している
 - 2 現在は学生であるが、将来は家を継ぐ見込みはない
 - 3 その他 ()

16. 将来に村づくりで、何かご意見がありましたらご自由に書いてください。

17. 小菅村に欲しい又は必要だと思ふ施設は何ですか (3つまでお答えください)

1. _____
2. _____
3. _____

18. インターネットを使っていますか (どんなことを見たり、調べていますか)
また、使っていない方はこれから使いたいと思いますか

- 使っている
- 1 現在の回線速度に満足している
 - 2 現在の回線速度に不満がある

どんなことを見たり、調べたりしていますか

- 使っていない
- 1 回線速度に関わらずこれから使いたい
 - 2 回線速度が向上したら使いたい
 - 3 インターネットを使うつもりはない

*現在の小菅村では主に電話回線もしくはISDN回線です。

19. 小菅村の好きなところと嫌いなところを教えてください

20. 小菅村の自慢はなんですか

1 _____

2 _____

3 _____

21. 小菅村のもので今後も是非残しておきたいと思うものは何ですか

1 _____

2 _____

3 _____

22. 小菅村を「ふるさと」だと思えますか

思う おもわない わからない

23. 近年、自然保護や文化継承保全の観点から「都市と農村の交流」が盛んに提唱されていますがどう思えますか

積極的に進めるべき 進めるべき 進めるべきでない わからない その他

24. あなたの考える都市と農村の交流を教えてください(3つ をしてください)

農林業体験 自然体験 農山村生活体験 自然や森林を守る基金

山村留学など子供の相互関係 農産物の流通 スポーツ体験 姉妹関係

その他()

交流に関して出来ること全てに をつけてください

農山村の案内 農林業体験の指導 村の道案内 川遊び指導

郷土料理指導 伝統工芸作りの指導 伝統芸術の指導 その他()

25. 多くの市町村で地場産業の振興や市民活動を通して地域活性化が行われていますが(小菅村でも行われています)これについてどう思えますか

賛成：理由 _____

反対：理由 _____

関心がない

26. 村で育った子どもたちは高校・大学時代に一度村を出なくてはならない現状にありますが、これらの子どもたちに村に帰ってきて欲しいと思えますか

帰ってきて欲しい 帰ってきて欲しくない 子どもに任せる

どちらとも言えない その他()

そのためにはどんな施策(条件)が必要だと思えますか

産業振興 生活環境の整備 交通条件の整備 教育施設の整備

若者の娯楽施設の整備 集落の交流 社会スポーツ活動

その他()

28. 県や村に要望がありましたらご記入ください

ご協力ありがとうございました

小菅村村民アンケート調査結果表 小学生の部

1. 性別

	件数	全体割合	有効回答割合
男	17	51.5	51.5
女	16	48.5	48.5
無回答	0	0.0	-
合計	33	100.0	100.0

2. あなたの年齢を教えてください

	件数	全体割合	有効回答割合
9才	1	3.0	3.0
10才	11	33.3	33.3
11才	14	42.4	42.4
12才	7	21.2	21.2
無回答	0	0.0	-
合計	33	100.0	100.0

3. あなたは小菅村のどこ何処に住んでいますか。

	件数	全体割合	有効回答割合
長作	0	0.0	0.0
小永田	3	9.1	9.4
白沢	1	3.0	3.1
東部	6	18.2	18.8
中組	8	24.2	25.0
田元	2	6.1	6.3
川池	4	12.1	12.5
橋立	8	24.2	25.0
無回答	1	3.0	-
合計	33	100.0	100.0

4. あなたはなんにん兄弟(姉妹)ですか。

	件数	全体割合	有効回答割合
一人っ子	2	6.1	6.1
二人兄弟(姉妹)	11	33.3	33.3
三人兄弟(姉妹)	15	45.5	45.5
四人兄弟(姉妹)	5	15.2	15.2
その他	0	0.0	0.0
無回答	0	0.0	-
合計	33	100.0	100.0

5. あなたはいつもだれとあそんでいますか

	件数	全体割合	有効回答割合
兄弟(姉妹)	8	24.2	24.2
友達	30	90.9	90.9
あそばない	1	3.0	3.0
その他	0	0.0	0.0
無回答	0	0.0	-
合計	33	100.0	100.0

6. あなたがいつもあそんでいるところはどんなところですか
(当てはまるものすべてに をして下さい)

	件数	全体割合	有効回答割合
山や川	6	18.2	18.8
学校の庭	5	15.2	15.6
神社の庭	0	0.0	0.0
広場(空き地)や公園	14	42.4	43.8
家の中(テレビなど)	28	84.8	87.5
友達の家	14	42.4	43.8
こすげの湯	3	9.1	9.4
その他	3	9.1	9.4
無回答	1	3.0	-
合計	33	100.0	100.0

小菅村村民アンケート調査結果表 小学生の部

7. あなたはいつもどんな遊びをしていますか(当てはまるものを五つあげてください)

	件数	全体割合	有効回答割合
自転車であそぶ	14	42.4	42.4
テレビゲーム	26	78.8	78.8
パソコン	15	45.5	45.5
おにごっこ	4	12.1	12.1
野球	7	21.2	21.2
サッカー	14	42.4	42.4
釣り	4	12.1	12.1
なわとび	13	39.4	39.4
かくれんぼ	11	33.3	33.3
インターネット	9	27.3	27.3
その他	16	48.5	48.5
無回答	0	0.0	-
合計	33	100.0	100.0

8. あなたはいつもどのようなお手伝いをしていますか？

	件数	全体割合	有効回答割合
野菜などの畑仕事	2	6.1	6.1
草刈りなどの山仕事	0	0.0	0.0
掃除や洗濯など家の仕事	26	78.8	78.8
庭の草取り	1	3.0	3.0
花や庭木に水をあたえる	2	6.1	6.1
おつかい(かいものなど)	4	12.1	12.1
その他	7	21.2	21.2
無回答	0	0.0	-
合計	33	100.0	100.0

9-1. 小菅村で好きな季節を教えてください

	件数	全体割合	有効回答割合
春	3	9.1	9.1
夏	7	21.2	21.2
秋	0	0.0	0.0
冬	12	36.4	36.4
全部好き	8	24.2	24.2
その他の組み合わせ	3	9.1	9.1
ない	0	0.0	0.0
無回答	0	0.0	-
合計	33	100.0	100.0

9-2. 小菅村で嫌いな季節を教えてください

	件数	全体割合	有効回答割合
春	5	15.2	15.2
夏	11	33.3	33.3
秋	0	0.0	0.0
冬	4	12.1	12.1
全部嫌い	0	0.0	0.0
その他	3	9.1	9.1
ない	10	30.3	30.3
無回答	0	0.0	-
合計	33	100.0	100.0

10. あなたが小菅村の中で好きなところ(あるいはもの)を3つあげてください

- ・小菅の湯 15件
- ・YLO 6件
- ・家 5件
- ・川 4件
- ・山 4件
- ・雪 4件
- ・空気がきれい 4件
- ・学校 3件
- ・水がおいしい 3件
- ・村のみんなが仲がよい 2件
- ・グランド 2件
- ・滝 2件
- ・桜
- ・星が見える
- ・たちかわ
- ・役場
- ・図書館
- ・物産館
- ・希望の館
- ・ジャスコ
- ・自然がたくさんあること
- ・大菩薩
- ・保育園
- ・エスパ
- ・木
- ・原始村
- ・魚が釣れる
- ・家賃
- ・川池
- ・犯罪等が少ない 2件

小菅村村民アンケート調査結果表 小学生の部

11. あなたが小菅村の中できれいなところ(あるいはもの)を3つあげてください

- ・学校 9件
- ・熊 4件
- ・山 4件
- ・店が少ない 3件
- ・虫 2件
- ・外に遊具がない 2件
- ・寒い
- ・土砂崩れ
- ・春が嫌い
- ・図書館
- ・YLO
- ・病院
- ・家事があると燃え尽きてしまう
- ・雪が滑ると危ない
- ・プール

12. あなたが小菅村の中にあつたらいいと思うものは何ですか。3つ書いてください

- ・ベルハウス(ゲームやカードなどを売っている所) 7件
- ・デパート 6件
- ・遊園地 6件
- ・ゲームセンター 5件
- ・ジェットコースター 3件
- ・店 3件
- ・コンビニ 3件
- ・公園 2件
- ・ダンス教室 2件
- ・駅や電車 2件
- ・空港 2件
- ・ホテル 2件
- ・カラオケ 2件
- ・マック 2件
- ・ジャスコ
- ・本屋
- ・大きな病院
- ・おもちゃ屋
- ・スキー場
- ・パイゴー
- ・ADSL通信
- ・エスパ
- ・焼き肉屋
- ・昆虫館
- ・ボーリング場
- ・公園(遊具)
- ・レストラン
- ・ショッピングホール
- ・友達がたくさんいたらいい
- ・高校
- ・ビデオ屋
- ・服屋さん
- ・スポーツカー
- ・お母さんの仕事
- ・光ファイバー通信
- ・まっすぐな道
- ・有名なもの
- ・大型電気店
- ・CD屋
- ・パッティングセンター
- ・スーパー
- ・ゲーム
- ・友達
- ・大きな病院
- ・ボーリング場

13. あなたはしょうらい将来、小菅村に住みたいと思いますか。

	件数	全体割合	有効回答割合
住みたい	3	9.1	9.1
住みたくない	14	42.4	42.4
わからない	16	48.5	48.5
その他	0	0.0	0.0
無回答	0	0.0	-
合計	33	100.0	100.0

14. 小菅村の将来(10~20年後)について「こうだったらいいのに」と思うことはなんですか

- ・今のままが良い 9件
- ・栄えて欲しい 5件
- ・もっとお店が増えると良い 4件
- ・遊園地 4件
- ・病院などの不便が無くなると良い 2件
- ・合併する 2件
- ・遊園地 2件
- ・川
- ・人が増えると良い
- ・もっと遊べる場所が増えると良い
- ・駅ができたらしい
- ・山が無くなると良い
- ・ボーリング場があつたらいい

小菅村村民アンケート調査結果表 中学生の部

1-a. 性別

	件数	全体割合	有効回答割合
男	13	52.0	52.0
女	12	48.0	48.0
無回答	0	0.0	
合計	25	100.0	100.0

1-b. あなたの年齢を教えてください

	件数	全体割合	有効回答割合
12才	2	8.0	8.0
13才	10	40.0	40.0
14才	9	36.0	36.0
15才	4	16.0	16.0
無回答	0	0.0	-
合計	25	100.0	100.0

2. あなたは小菅村のどこ何処に住んでいますか。

	件数	全体割合	有効回答割合
長作	0	0.0	0.0
小永田	5	20.0	20.0
白沢	0	0.0	0.0
東部	3	12.0	12.0
中組	4	16.0	16.0
田元	4	16.0	16.0
川池	5	20.0	20.0
橋立	4	16.0	16.0
無回答	0	0.0	-
合計	25	100.0	100.0

3. あなたはなんにん兄弟(姉妹)ですか。

	件数	全体割合	有効回答割合
一人っ子	2	8.0	8.0
二人兄弟(姉妹)	7	28.0	28.0
三人兄弟(姉妹)	15	60.0	60.0
四人兄弟(姉妹)	1	4.0	4.0
その他	0	0.0	0.0
無回答	0	0.0	-
合計	25	100.0	25.0

4. 高校や大学を出たらまた村に帰ってきて、村に住みたい(働きたい)と思いますか

	件数	全体割合	有効回答割合
村に帰ってきたい	1.0	4.0	4.0
村には帰らない	11.0	44.0	44.0
まだ考えていない	10.0	40.0	40.0
わからない	3.0	12.0	12.0
無回答	0.0	0.0	-
合計	25.0	100.0	100.0

5. 小菅村で自慢できるところ(もの)は何ですか。3つ選んで下さい。

	件数	全体割合	有効回答割合
美しい森林	18	72.0	72.0
清流	15	60.0	60.0
溪谷	2	8.0	8.0
滝	7	28.0	28.0
歴史	5	20.0	20.0
神社(祭り)	3	12.0	12.0
山菜	4	16.0	16.0
そば	7	28.0	28.0
わさび	1	4.0	4.0
ひとがら	2	8.0	8.0
その他	2	8.0	8.0
無回答	0	0.0	
合計	25	100.0	100.0

小菅村村民アンケート調査結果表 中学生の部

6-a. 小菅村で好きな季節を教えてください

	件数	全体割合	有効回答割合
春	4	16.0	16.0
夏	5	20.0	20.0
秋	6	24.0	24.0
冬	8	32.0	32.0
全部好き	0	0.0	0.0
その他の組み合わせ	1	4.0	4.0
ない	1	4.0	4.0
無回答	0	0.0	
合計	25	100.0	100.0

6-b. 小菅村で嫌いな季節を教えてください

	件数	全体割合	有効回答割合
春	2	8.0	8.0
夏	5	20.0	20.0
秋	4	16.0	16.0
冬	12	48.0	48.0
全部嫌い	0	0.0	0.0
その他	0	0.0	0.0
ない	2	8.0	8.0
無回答	0	0.0	
合計	25	100.0	100.0

7. 小菅村で将来、残しておきたいものを3つ上げて下さい。

- ・きれいな川・水 16件
- ・伝統芸能 7件
- ・滝 7件
- ・自然 6件
- ・山 6件
- ・森林・木 6件
- ・小菅の湯 5件
- ・源流祭り 4件
- ・魚 2件
- ・学校 2件
- ・畑 2件
- ・人の優しさ 2件
- ・神社 2件
- ・原始村
- ・自分の家
- ・山菜

8. 小菅村の中でこれから整備してもらいたいことは何ですか。3つあげて下さい

- ・道路 21件
- ・店 18件
- ・駅 10件
- ・YLO 5件
- ・ケータイの電波
- ・川に飛び込みのできるところ
- ・広場
- ・プール
- ・カラオケ・ゲームセンターなどの娯楽 2件
- ・病院
- ・テレビ映像をきれいに
- ・山
- ・山を少なくして欲しい

9. 小菅村の将来について提案があれば記入して下さい

- ・駅・電車の整備 6件
- ・お店や施設の誘致建設 4件
- ・道路の整備 3件
- ・人口を増やして欲しい 3件
- ・自然があって欲しい 3件
- ・なし 3件
- ・誰でも来やすくしたい 2件
- ・住みやすくして欲しい

10. あなたの将来の夢あるいは職業はどんなことですか(例えば、医者、教員など)

- ・まだ決めていない 4件
- ・車関係 2件
- ・スポーツ選手 2件
- ・保育士 2件
- ・医者 2件
- ・なし 2件
- ・女優
- ・消防士
- ・美容師
- ・ゲームを作る人
- ・東京か千葉に住む
- ・デザインの仕事
- ・BEINGの社員
- ・自由な生活

11. あなたは将来小菅村で仕事(就職)につきたいと思えますか

	件数	全体割合	有効回答割合
小菅村で仕事(就職)がしたい	1	4.0	4.2
小菅村で仕事(就職)はしたくない	14	56.0	58.3
考えていない	3	12.0	12.5
わからない	4	16.0	16.7
その他	2	8.0	8.3
不明	1	4.0	
サンプル数(%ベース)	25	100.0	100.0

12. 小菅村の将来について、「こうだったらいいのに」と思うことは何ですか

- ・コンビニなど店ができて欲しい 7件
- ・交通が便利になって欲しい 7件
- ・駅ができて欲しい 5件
- ・都会になって欲しい 2件
- ・今のまま 2件
- ・発展して欲しい
- ・東京と合併してほしい
- ・ものを増やして欲しい
- ・街灯の設置
- ・村の産物をつくって欲しい
- ・祭りなどをやって欲しい
- ・自然があって欲しい
- ・ボウリング場
- ・特になし

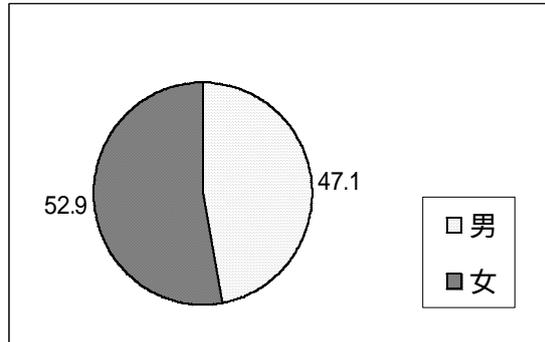
13. あなたはしょうらい将来、小菅村に住みたいと思えますか。

	件数	全体割合	有効回答割合
住みたい	3	9.1	9.1
住みたくない	14	42.4	42.4
わからない	16	48.5	48.5
その他	0	0.0	0.0
無回答	0	0.0	-
合計	33	100.0	100.0

小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

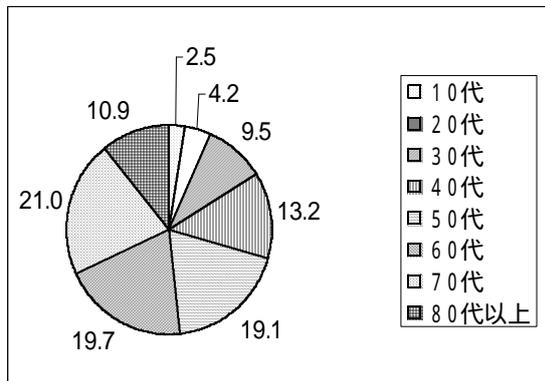
1-1.性別

	有効回答割合(%)
男	47.1
女	52.9
無回答	
合計	650



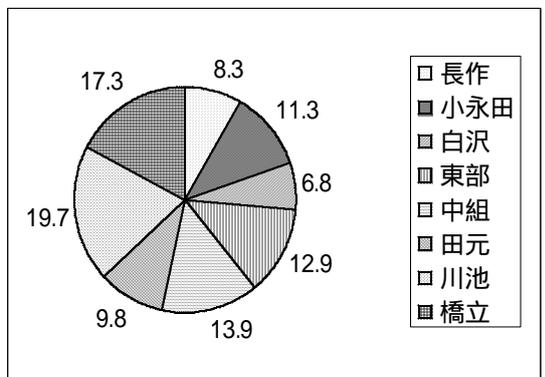
1-2.年齢

	有効回答割合(%)
10代	2.5
20代	4.2
30代	9.5
40代	13.2
50代	19.1
60代	19.7
70代	21.0
80代以上	10.9
無回答	
合計	644



2. お住まいはどこですか

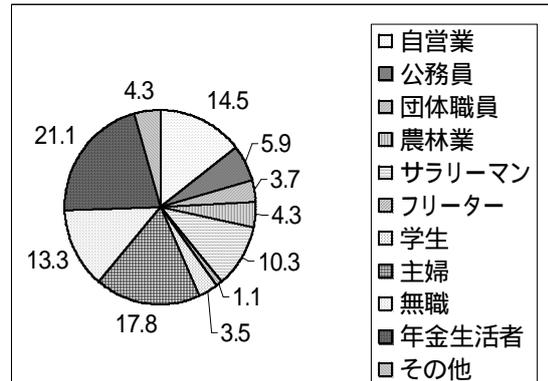
	有効回答割合(%)
長作	8.3
小永田	11.3
白沢	6.8
東部	12.9
中組	13.9
田元	9.8
川池	19.7
橋立	17.3
無回答	
合計	635



小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

3. 職業を教えてください

	有効回答割合(%)
自営業	14.5
公務員	5.9
団体職員	3.7
農林業	4.3
サラリーマン	10.3
フリーター	1.1
学生	3.5
主婦	17.8
無職	13.3
年金生活者	21.1
その他	4.3
無回答	
合計	622

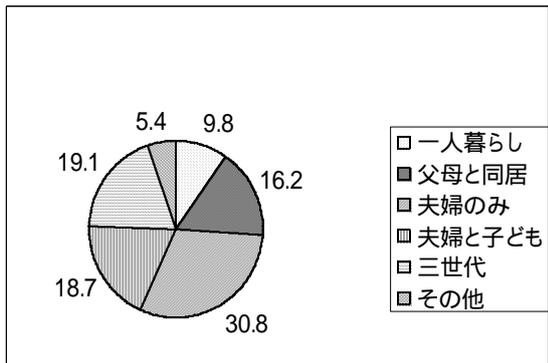


その他の回答

- ・パート 15件
- ・会社員 5件
- ・建設・土木業 5件
- ・アルバイト 2件
- ・講師
- ・養魚場弟子入り
- ・嘱託
- ・新聞配達
- ・専従者
- ・僧侶
- ・内職
- ・なし

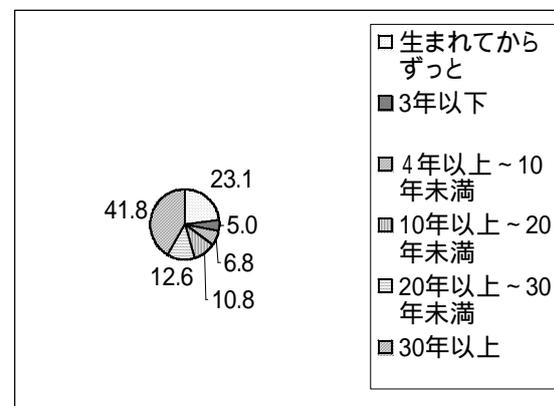
4. 家族構成は次のうちどれですか

	有効回答割合(%)
一人暮らし	9.8
父母と同居	16.2
夫婦のみ	30.8
夫婦と子ども	18.7
三世代	19.1
その他	5.4
無回答	
合計	611



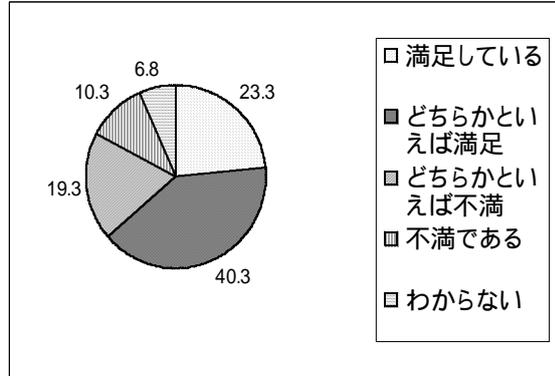
5. 現在の集落に通算してどのくらいお住まいですか

	有効回答割合(%)
生まれてからずっと	23.1
3年以下	5.0
4年以上～10年未満	6.8
10年以上～20年未満	10.8
20年以上～30年未満	12.6
30年以上	41.8
無回答	
合計	637



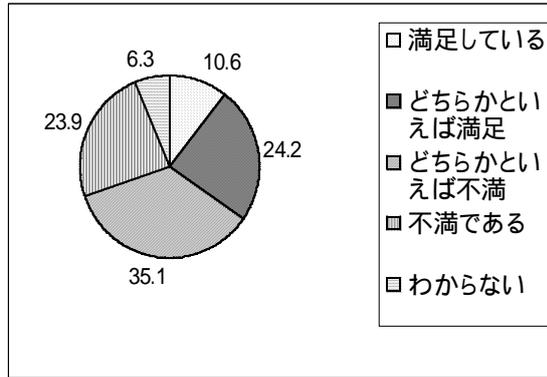
6. 自分のお住まいや周辺の環境、暮らしにどの程度満足していますか
Q1犯罪防止・消防・救急など生活の安全性

	有効回答割合(%)
満足している	23.3
どちらかといえば満足	40.3
どちらかといえば不満	19.3
不満である	10.3
わからない	6.8
無回答	
合計	621



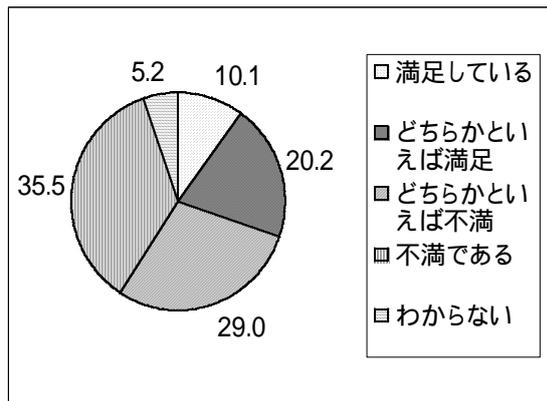
Q2医療施設や地域の保健活動

	有効回答割合(%)
満足している	10.6
どちらかといえば満足	24.2
どちらかといえば不満	35.1
不満である	23.9
わからない	6.3
無回答	
合計	616



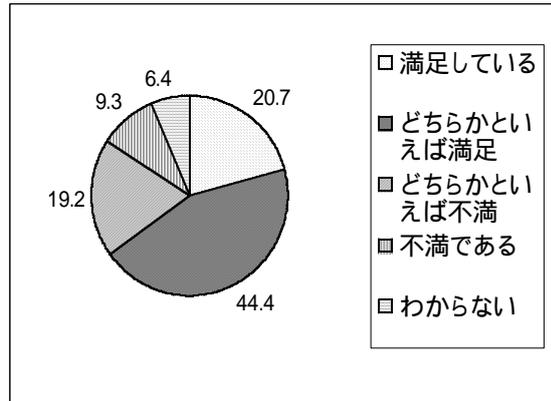
Q3交通条件や買い物の便利

	有効回答割合(%)
満足している	10.1
どちらかといえば満足	20.2
どちらかといえば不満	29.0
不満である	35.5
わからない	5.2
無回答	
合計	614



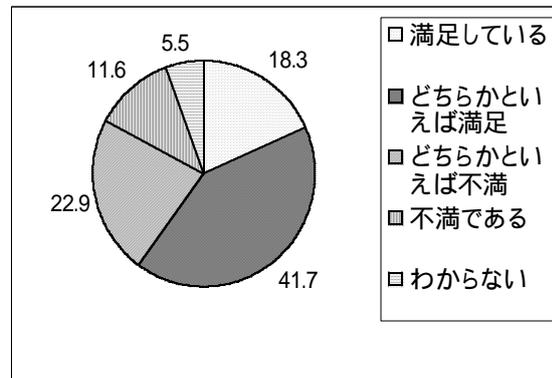
Q4住環境・自然環境の快適さ

	有効回答割合(%)
満足している	20.7
どちらかといえば満足	44.4
どちらかといえば不満	19.2
不満である	9.3
わからない	6.4
無回答	
合計	610



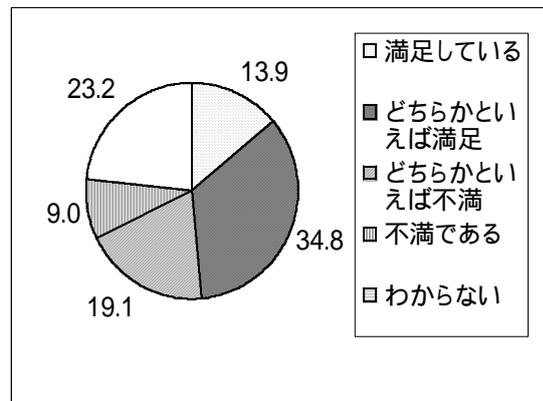
Q5衣・食・住など生活の豊か

	有効回答割合(%)
満足している	18.3
どちらかといえば満足	41.7
どちらかといえば不満	22.9
不満である	11.6
わからない	5.5
無回答	
合計	619



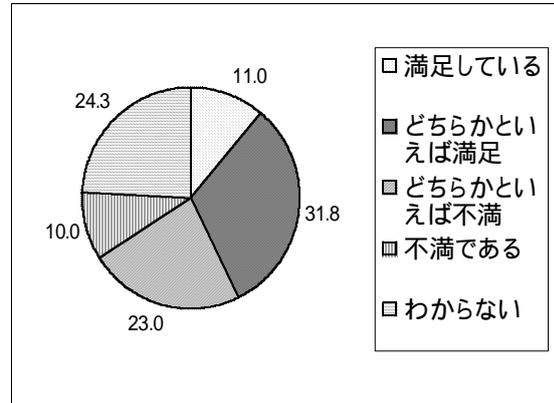
Q6小・中学校の教育施設や教育環境

	有効回答割合(%)
満足している	13.9
どちらかといえば満足	34.8
どちらかといえば不満	19.1
不満である	9.0
わからない	23.2
無回答	
合計	603



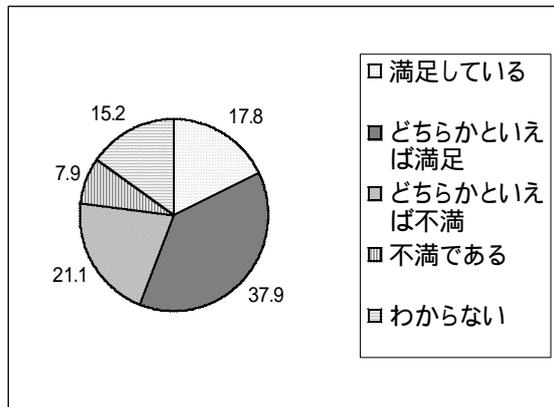
Q7社会教育・体育・文化施設
とその活動について

	有効回答割合 (%)
満足している	11.0
どちらかといえば満足	31.8
どちらかといえば不満	23.0
不満である	10.0
わからない	24.3
無回答	
合計	601



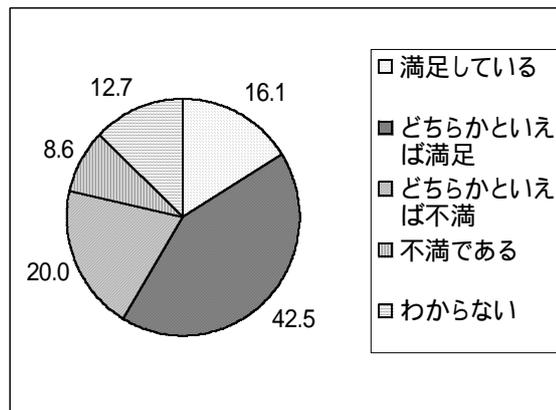
Q8福祉施設や福祉サー
ビスについて

	有効回答割合 (%)
満足している	17.8
どちらかといえば満足	37.9
どちらかといえば不満	21.1
不満である	7.9
わからない	15.2
無回答	
合計	617



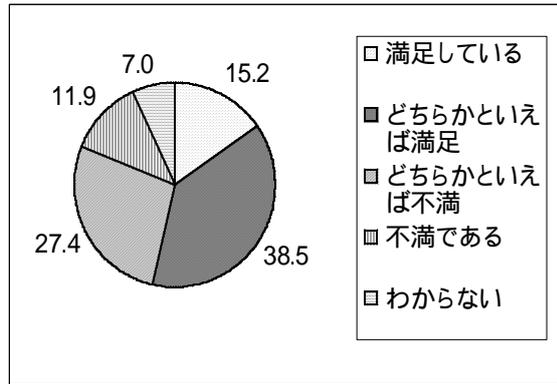
Q9地域活動や住民間の交流・
ふれあいについて

	有効回答割合 (%)
満足している	16.1
どちらかといえば満足	42.5
どちらかといえば不満	20.0
不満である	8.6
わからない	12.7
無回答	
合計	614



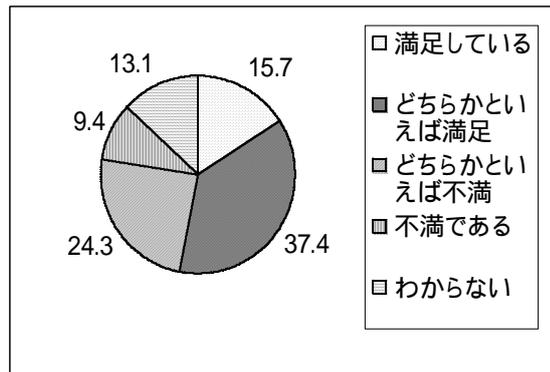
Q10生活の充実感・精神的な満足度

	有効回答割合(%)
満足している	15.2
どちらかといえば満足	38.5
どちらかといえば不満	27.4
不満である	11.9
わからない	7.0
無回答	
合計	613



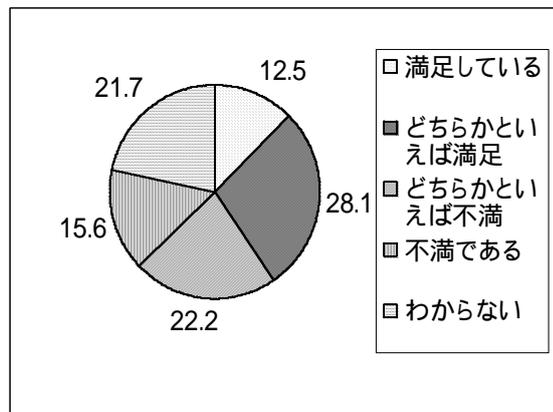
Q11公的機関(役場など)の取り組みとサービス

	有効回答割合(%)
満足している	15.7
どちらかといえば満足	37.4
どちらかといえば不満	24.3
不満である	9.4
わからない	13.1
無回答	
合計	617



Q12情報サービス(インターネット、携帯電話などの普及)

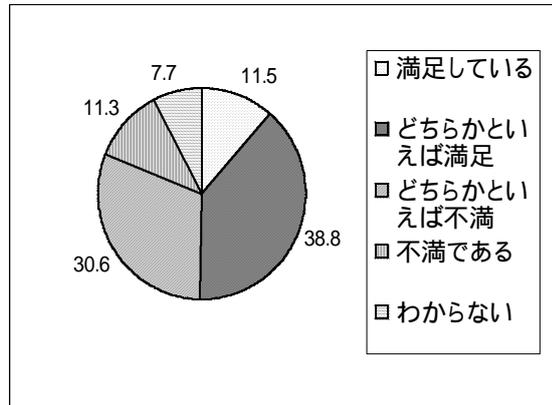
	有効回答割合(%)
満足している	12.5
どちらかといえば満足	28.1
どちらかといえば不満	22.2
不満である	15.6
わからない	21.7
無回答	
合計	591



小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

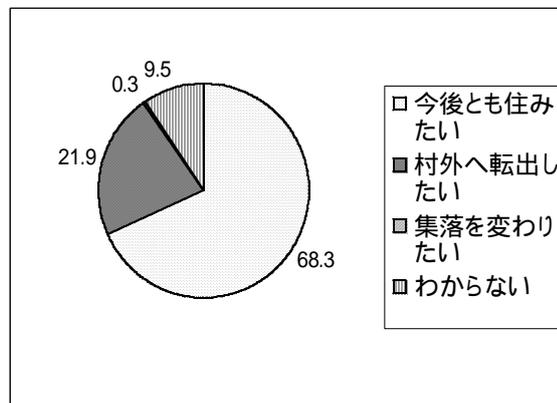
Q13全てを総合した生活全般について

	有効回答割合(%)
満足している	11.5
どちらかといえば満足	38.8
どちらかといえば不満	30.6
不満である	11.3
わからない	7.7
無回答	
合計	608



7. 将来とも今のところに住みたいですか

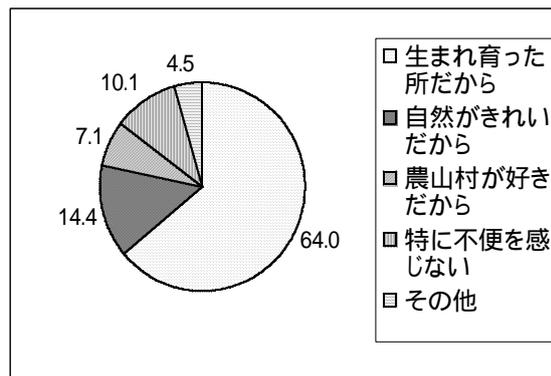
	有効回答割合(%)
今後とも住みたい	68.3
村外へ転出したい	21.9
集落を変わりたい	0.3
わからない	9.5
無回答	
合計	602



7-a. 住みたい理由

	有効回答割合(%)
生まれ育った所だから	64.0
自然がきれいだから	14.4
農山村が好きだから	7.1
特に不便を感じない	10.1
その他	4.5
無回答	
合計	397

その他
 ・温かい人柄がいい
 ・先祖を守るため

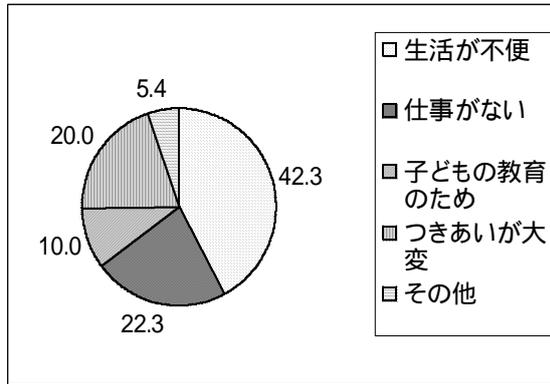


小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

7-b. 村外に転出したい理由

	有効回答割合 (%)
生活が不便	42.3
仕事がない	22.3
子どもの教育のため	10.0
つきあいが大変	20.0
その他	5.4
無回答	
合計	130

その他
 ・高齢のため 2件
 ・日当たりが悪い

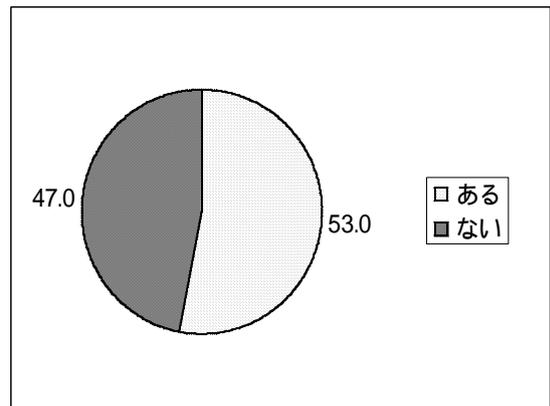


7-c. 集落を変わりたい理由

	有効回答割合 (%)
生活が不便	-
家族との同居または別居のため	-
勤務先との関係	-
その他	-
無回答	
合計	0

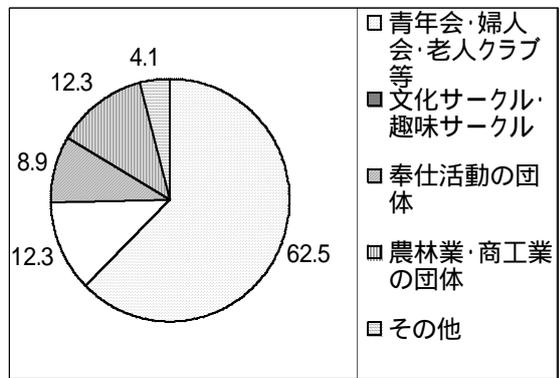
8. あなたが日頃活動に参加している団体、クラブ等がありますか(SA)

	有効回答割合 (%)
ある	53.0
ない	47.0
無回答	
合計	564



8-a. どのような団体ですか

	有効回答割合 (%)
青年会・婦人会・老人クラブ等	62.5
文化サークル・趣味サークル	12.3
奉仕活動の団体	8.9
農林業・商工業の団体	12.3
その他	4.1
無回答	
合計	293

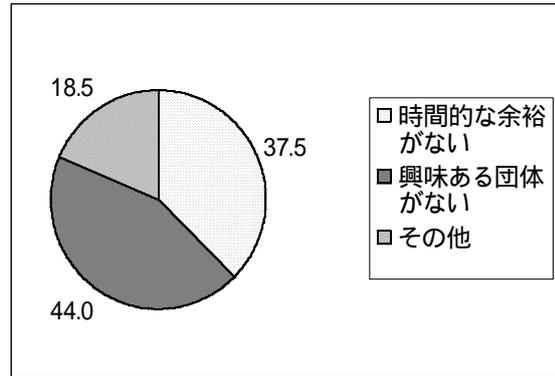


8-b. 参加してない理由

	有効回答割合(%)
時間的な余裕がない	37.5
興味ある団体がない	44.0
その他	18.5
無回答	
合計	200

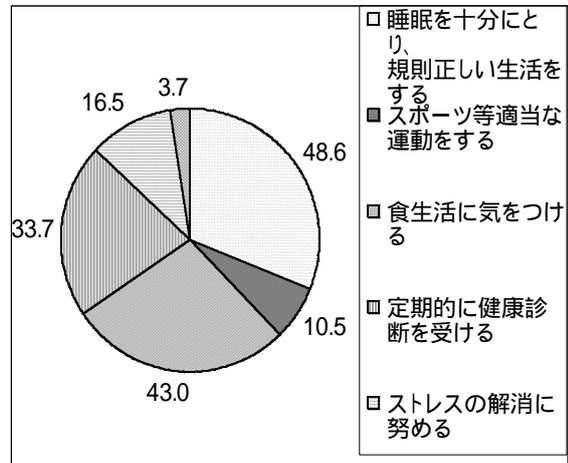
その他

- ・高齢になったため 10件
- ・体が動かない 8件
- ・団体について分からない 3
- ・交通の足がない
- ・今後は参加したい



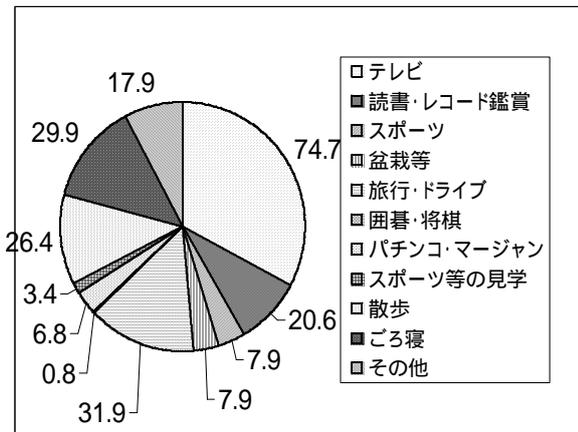
9. 自分の健康を管理するため、どんなことに気をつけていますか。(MA)

	有効回答割合(%)
睡眠を十分にとり、規則正しい生活をする	48.6
スポーツ等適当な運動をする	10.5
食生活に気をつける	43.0
定期的に健康診断を受ける	33.7
ストレスの解消に努める	16.5
その他	3.7
無回答	
合計	593



10. あなたは余暇をどのように過ごしていますか(3つま (MA)

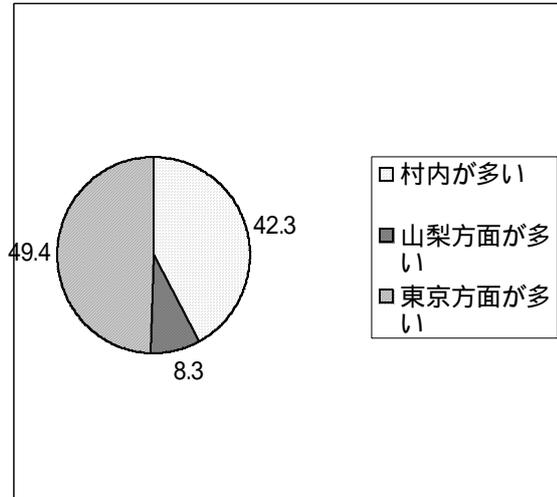
	有効回答割合(%)
テレビ	74.7
読書・レコード鑑賞	20.6
スポーツ	7.9
盆栽等	7.9
旅行・ドライブ	31.9
囲碁・将棋	0.8
パチンコ・マーじゃん	6.8
スポーツ等の見学	3.4
散歩	26.4
ごろ寝	29.9
その他	17.9
無回答	
合計	592



小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

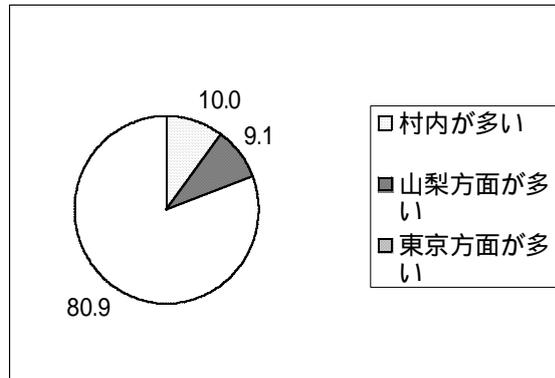
11. あなたは日頃買い物はどこに行きますか 日用の食

	有効回答割合 (%)
村内が多い	42.3
山梨方面が多い	8.3
東京方面が多い	49.4
無回答	
合計	605



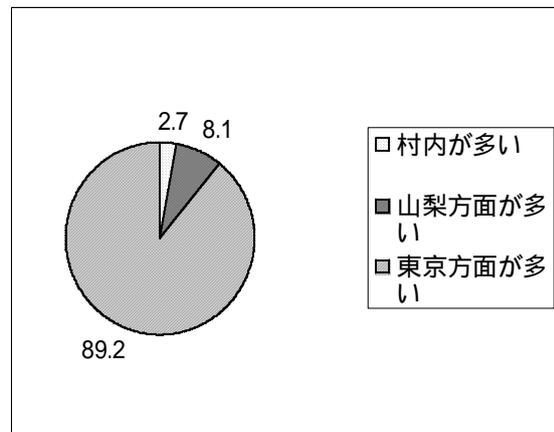
11. あなたは日頃買い物はどこに行きますか 日用の衣

	有効回答割合 (%)
村内が多い	10.0
山梨方面が多い	9.1
東京方面が多い	80.9
無回答	
合計	571



11. あなたは日頃買い物はどこに行きますか 家具・電気製品

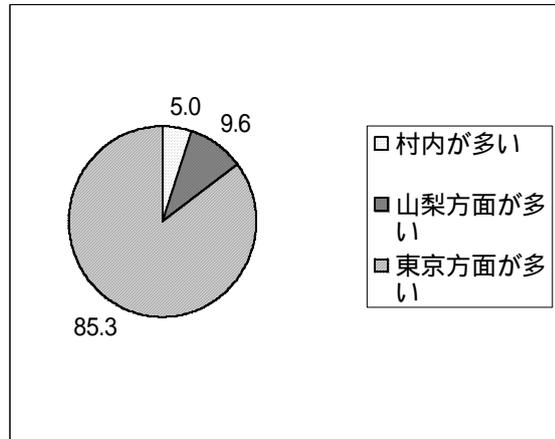
	有効回答割合 (%)
村内が多い	2.7
山梨方面が多い	8.1
東京方面が多い	89.2
無回答	
合計	554



小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

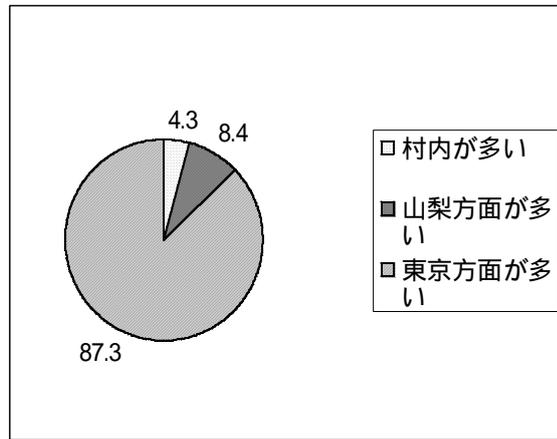
11. あなたは日頃買い物はどこに行きますか スポーツ

	有効回答割合 (%)
村内が多い	5.0
山梨方面が多い	9.6
東京方面が多い	85.3
無回答	
合計	436



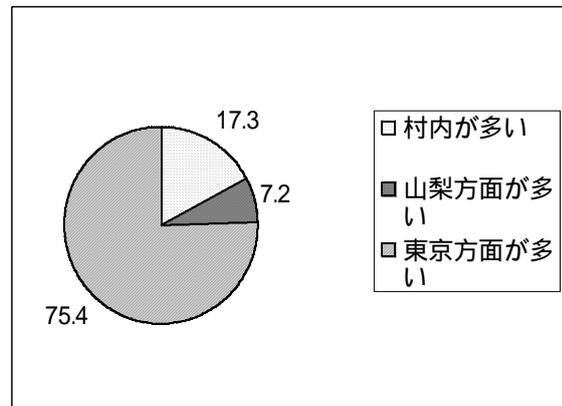
11. あなたは日頃買い物はどこに行きますか スーツ等高級衣料品

	有効回答割合 (%)
村内が多い	4.3
山梨方面が多い	8.4
東京方面が多い	87.3
無回答	
合計	463



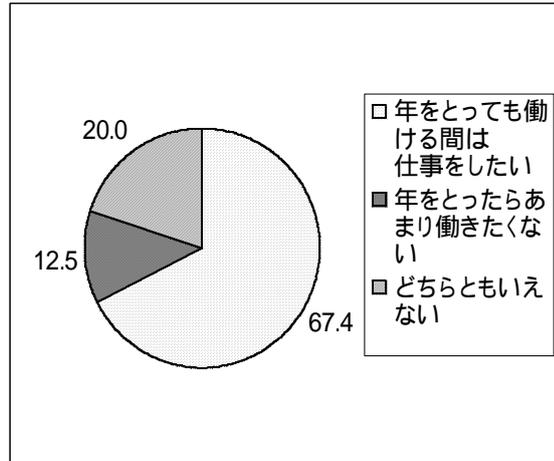
11. あなたは日頃買い物はどこに行きますか 病院の診

	有効回答割合 (%)
村内が多い	17.3
山梨方面が多い	7.2
東京方面が多い	75.4
無回答	
合計	594



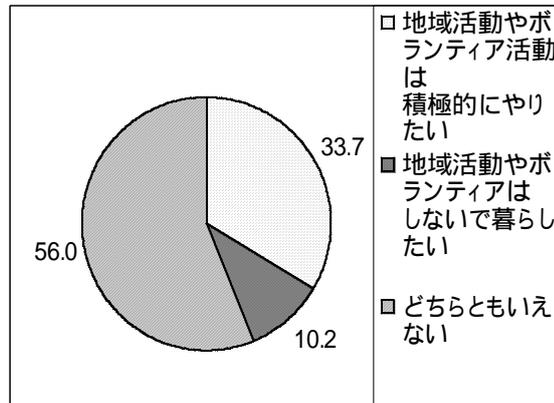
12. あなたは老後をどのように送りたいと思いますか 仕事について

	有効回答割合 (%)
年をとっても働ける間は仕事をしたい	67.4
年をとったらあまり働きたくない	12.5
どちらともいえない	20.0
無回答	
合計	599



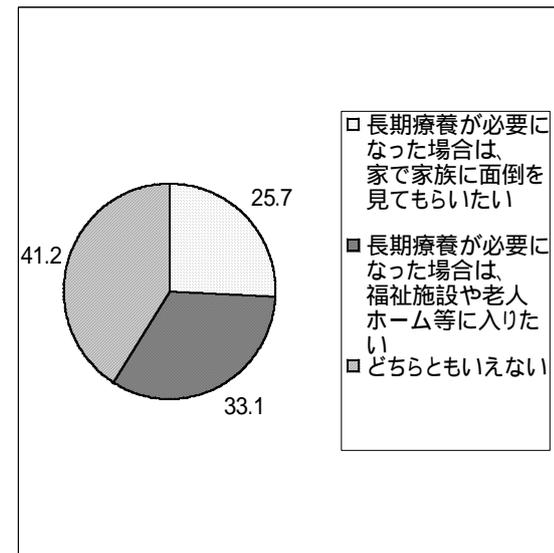
12. あなたは老後をどのように送りたいと思いますか 社会活動について

	有効回答割合 (%)
地域活動やボランティア活動は	33.7
地域活動やボランティアはしないで暮らしたい	10.2
どちらともいえない	56.0
無回答	
合計	566



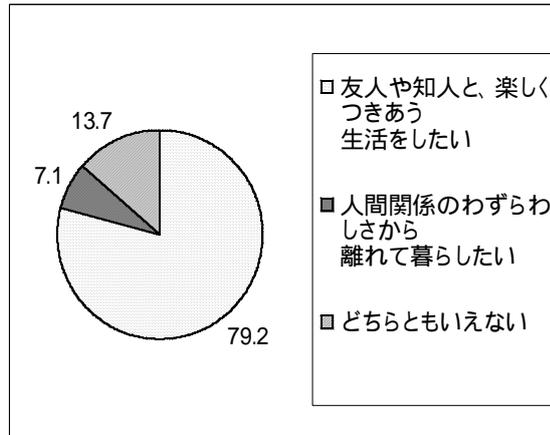
12. あなたは老後をどのように送りたいと思いますか 看護・介護について

	有効回答割合 (%)
長期療養が必要になった場合は、家で家族に面倒を見てもらいたい	25.7
長期療養が必要になった場合は、福祉施設や老人ホーム等に入りたい	33.1
どちらともいえない	41.2
無回答	
合計	611



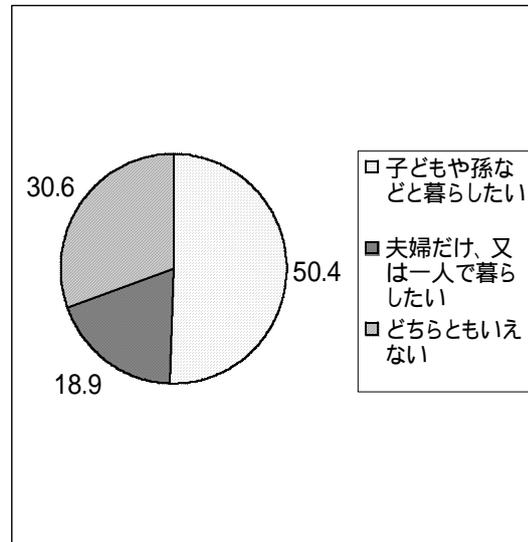
12. あなたは老後をどのように送りたいと思いますか 人間関係について

	有効回答割合 (%)
友人や知人と、楽しくつきあう生活をしたい	79.2
人間関係のわずらわしさから離れて暮らしたい	7.1
どちらともいえない	13.7
無回答	
合計	591



12. あなたは老後をどのように送りたいと思いますか 家族について

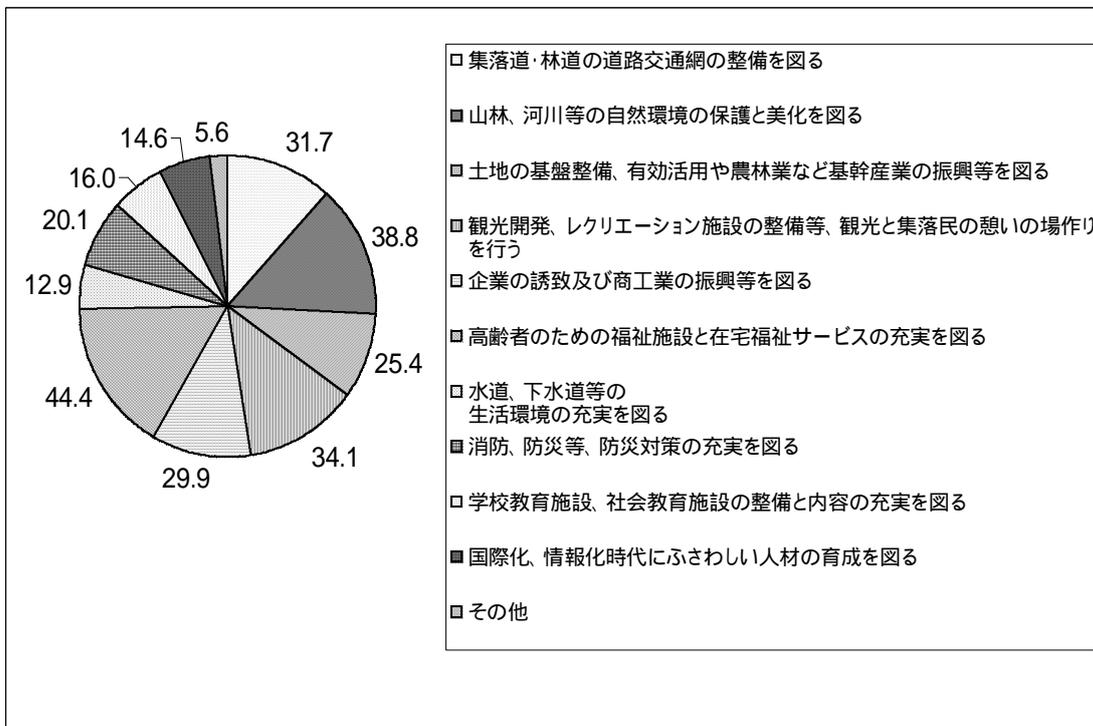
	有効回答割合 (%)
子どもや孫などと暮らしたい	50.4
夫婦だけ、又は一人で暮らしたい	18.9
どちらともいえない	30.6
無回答	
合計	581



小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

13. 小菅村を住みよい村とするため、特に優先して進める必要があると思うものは何ですか(3つまで)

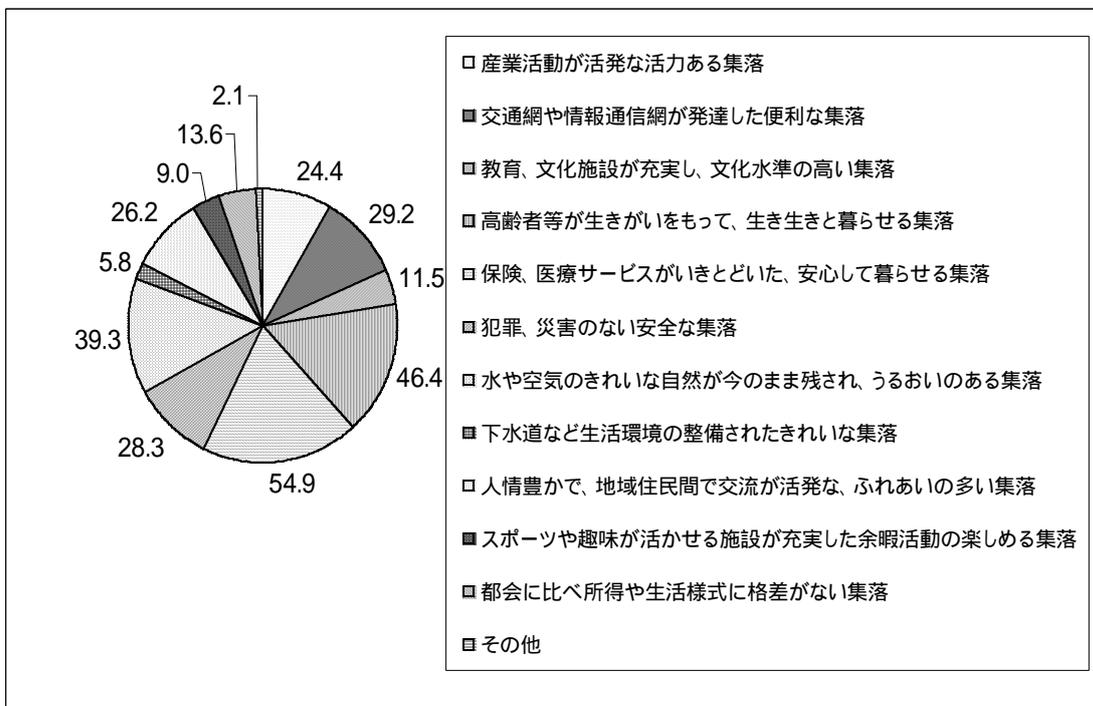
(MA)	有効回答割合(%)
集落道・林道の道路交通網の整備を図る	31.7
山林、河川等の自然環境の保護と美化を図る	38.8
土地の基盤整備、有効活用や農林業など基幹産業の振興等を図る	25.4
観光開発、レクリエーション施設の整備等、観光と集落民の憩いの場作りを行う	34.1
企業の誘致及び商工業の振興等を図る	29.9
高齢者のための福祉施設と在宅福祉サービスの充実を図る	44.4
水道、下水道等の生活環境の充実を図る	12.9
消防、防災等、防災対策の充実を図る	20.1
学校教育施設、社会教育施設の整備と内容の充実を図る	16.0
国際化、情報化時代にふさわしい人材の育成を図る	14.6
その他	5.6
無回答	
合計	536



小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

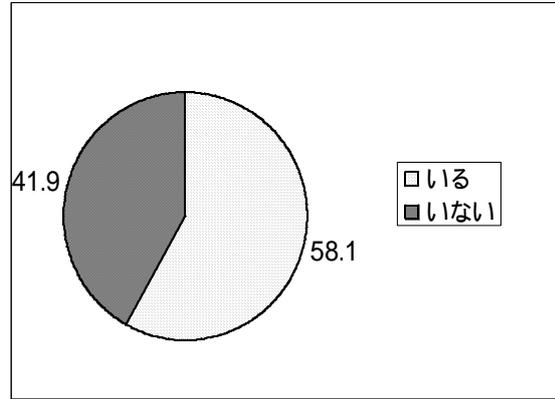
14. 21世紀の小菅村は、どのようであって欲しいと思われ
ますか(3つまで)

(MA)	有効回答割合(%)
産業活動が活発な活力ある集落	24.4
交通網や情報通信網が発達した便利な集落	29.2
教育、文化施設が充実し、文化水準の高い集落	11.5
高齢者等が生きがいをもって、生き生きと暮らせる集落	46.4
保険、医療サービスがいきとどいた、安心して暮らせる集落	54.9
犯罪、災害のない安全な集落	28.3
水や空気のきれいな自然が今のまま残され、うるおいのある集落	39.3
下水道など生活環境の整備されたきれいな集落	5.8
人情豊かで、地域住民間で交流が活発な、ふれあいの多い集落	26.2
スポーツや趣味が活かせる施設が充実した余暇活動の楽しめる集落	9.0
都会に比べ所得や生活様式に格差がない集落	13.6
その他	2.1
無回答	
合計	565



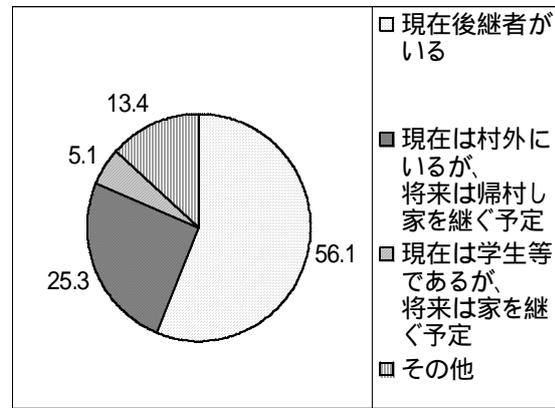
15. あなたの家族には後継者がいますか

	有効回答割合(%)
いる	58.1
いない	41.9
無回答	
合計	456



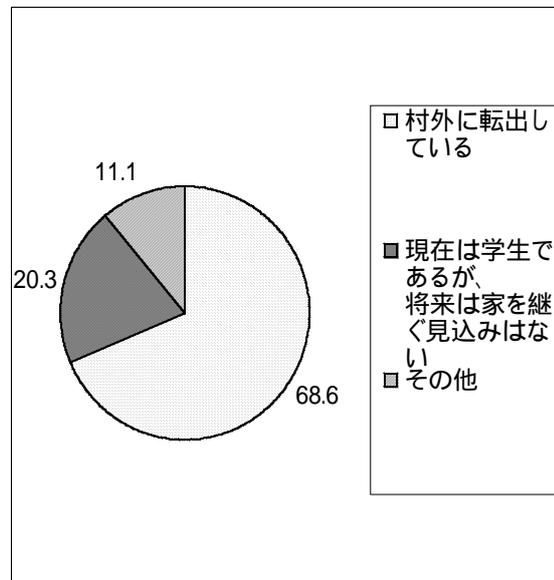
15. あなたの家族には後継者がいますか いる場合

	有効回答割合(%)
現在後継者がいる	56.1
現在は村外にいるが、将来は帰村し家を継ぐ予定	25.3
現在は学生等であるが、将来は家を継ぐ予定	5.1
その他	13.4
無回答	
合計	253



15. あなたの家族には後継者がいますか いない場合

	有効回答割合(%)
村外に転出している	68.6
現在は学生であるが、将来は家を継ぐ見込みはない	20.3
その他	11.1
無回答	
合計	153



小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

16. 将来に村づくりで何かご意見がありましたらご自由に書いてください

- | | |
|---|--|
| ・人口増・少子高齢化対策 10件 | ・意識改革 10件 |
| ・後継者の雇用先確保 10件 | ・村内外の交通整備 7件 |
| ・医師のいる村づくり・病院 5件 | ・観光開発 5件 |
| ・安心して暮らせる村づくり 4件 | ・ありのままが生きている村づくり 4件 |
| ・インターネットの高速化・活用 3件 | ・合併問題 3件 |
| ・自然の残っている村・地区づくり 3件 | ・Uターンの実現 3件 |
| ・自然の豊かさや土地を生かした観光活性化を 3件 | ・携帯電話の使用可 2件 |
| ・災害対策や森林整備 2件 | ・村民や財政の負担になることはしないで欲しい 2件 |
| ・特になし 2件 | ・環境保全・自然保護 2件 |
| ・団体が多く、兼任している人も多い | ・セレモニーホール |
| ・期待しても変わらないので、意見を言っても無駄 | ・村外の意見に左右ではなく、村の考えを持つ |
| ・日照や道路の邪魔になりそうな木は伐って欲しい | ・文化交流など知的な村づくり |
| ・山林経営の充実 | ・必要なものとそうでないものの区別と判断を慎重に |
| ・活気のある役場 | ・(村が主催で)小菅村名物を考え、どこにも出来ない物を考え、客を呼ぶ。又、各店に出店、宅配などに力を入れる。 |
| ・1. 老人ホーム 2. インターネット(情報化に取り残されない為) | ・空き家のリフォームし、貸し出す |
| ・多目的(冠婚、葬祭、レクリエーション)な施設が是非必要と考える。 | ・アンケートをとるのは良いが、結果がない |
| ・NPO法人として村に来ました。住んでいて素晴らしいです。から俺が頑張ります。 | ・積極的な村づくり |

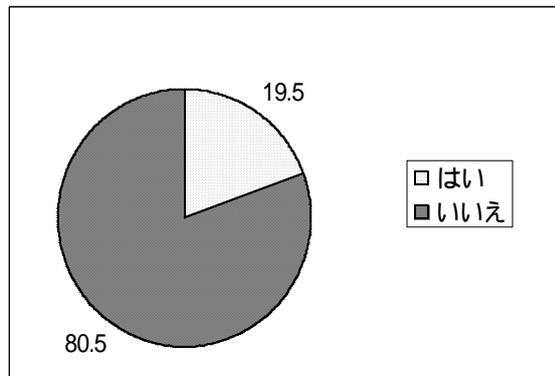
小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

17. 小菅村にほしい施設または必要な施設は何ですか(3つまで)

- ・病院・医療の整備 48件
- ・公民館・スポーツジムなどの自由なスペース 22件
- ・雇用 9件
- ・情報・インターネットの整備 6件
- ・スーパー・デパート(人口にあった大きさ) 6件
- ・温泉施設 4件
- ・公園・親水公園 3件
- ・学習塾・教育機関 3件
- ・自然文化交流施設 3件
- ・駅 2件
- ・児童館・図書館 2件
- ・若者向け宿泊施設等 2件
- ・産業振興研究所の設置
- ・喫茶店
- ・サービス面の充実
- ・老人の利用しやすい遊歩道
- ・新しい産業
- ・お金がないので今さら無理
- ・遊園地
- ・防災施設
- ・冠婚葬祭用施設 38件
- ・福祉施設・老人ホーム 20件
- ・観光施設・名所 8件
- ・携帯電話のエリア拡大 6件
- ・なし 5件
- ・コンビニ 4件
- ・バスの運行増 3件
- ・定年後・女性も働ける職場 3件
- ・これ以上必要ない 3件
- ・未舗装の遊歩道(各部落) 2件
- ・スキー場 2件
- ・若者定住のための教育施設・大学 2件
- ・映画館
- ・中学校の体育館の拡大
- ・滝への道路
- ・分からない
- ・特産品販売所
- ・交通網の整備
- ・銀行・ATM
- ・ペンション

見たり、調べていますか)。また、使っていない方はこれから使いたいと思

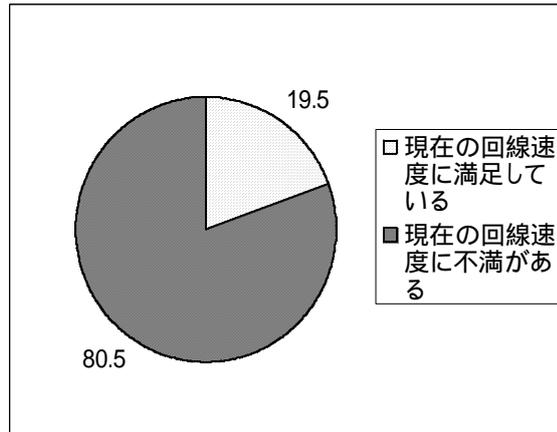
	有効回答割合(%)
はい	19.5
いいえ	80.5
無回答	
合計	451



小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

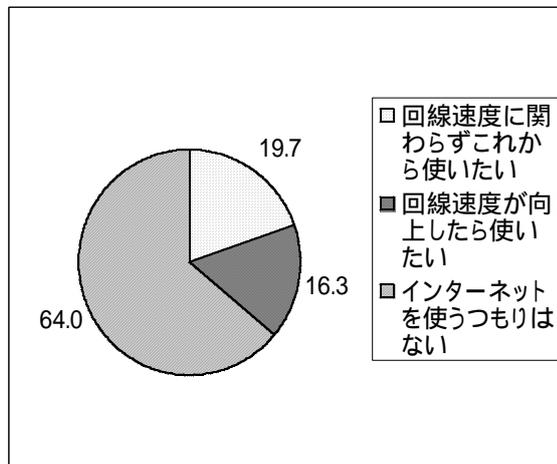
18. インターネットを使っていますか 使っている

	有効回答割合 (%)
現在の回線速度に満足している	19.5
現在の回線速度に不満がある	80.5
無回答	
合計	82



18. インターネットを使っていますか 使っていない

	有効回答割合 (%)
回線速度に関わらずこれから使いたい	19.7
回線速度が向上したら使いたい	16.3
インターネットを使うつもりはない	64.0
無回答	
合計	239



19. 小菅村の好きなところと嫌いなところを教えてください
好き

- ・友人・知人と楽しく付き合える 45件
- ・安心して暮らせる・住みやすい 5件
- ・好き 3件
- ・山・川 3件
- ・小菅村・集落が好き 2件
- ・春や夏が住みやすい 2件
- ・下水道完備
- ・若い人に期待
- ・星がきれい
- ・きれいな自然 77件
- 特になし 10件
- ・水が美味しい 5件
- ・のどか・素朴 3件
- ・村外の人にも優しい 2件
- ・温泉がある暮らし 2件
- ・働き者 2件
- ・家賃がない
- ・田舎らしさ
- ・雪への対応

小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

嫌い	
・交通・買い物が不便 32件	・近所付き合い わさ・干渉・悪口 32件
・行事が多すぎる 10件	・寒さ・日照時間 の短さ 6件
・病院や医師がない 6件	・仕事がない 4 ・役場に従わな きゃいけないよう な雰囲気 2件
・保守的 3件	・食料品の偏り
・少子化 2件	・日本一美しい村 のはずが、不法 投棄がある
・ブロードバンドの導入	・今住んでいる家
・災害の可能性	・役場など公共施 設
・除雪の方法	・村外の人を多く 入れること
・川が汚い	・小・中学校の先 生が週末は村に いない
・ものが高い	・嫌です
・生活していくのは厳しい	・護岸などの自然 破壊
・話題の少なさ	・携帯電話が使い にくい
・自分に甘く他人に厳しい	

20. 小菅村の自慢は何です

・美しい自然・景観 116件	・誰とでも話せる・ 人情味・助け合い 54件
・きれいな水 36件	・きれいな空気 31件
・温泉・小菅の湯 18件	・こんにゃく・川魚 など郷土料理 8 件
・川がきれい 7件	・なし・わからない 5件
・そばが美味しい 5件	・農作物が美味し い 4件
・源流の里・源流祭り 4件	・伝統芸能 3件
・治安がよい 2件	・下水道の整備 2件
・年寄りが元気 2件	・夏は過ごしやす ・集落ごとのまと まり
・松姫峠	・何もないところ
・星がきれい	・「森を中心とした 持続可能な循環 型社会をめざして いる」ところ
・未だ合併したいないこと	・お年寄りと子ども たちの交流
・釣りができる	
・勤勉	

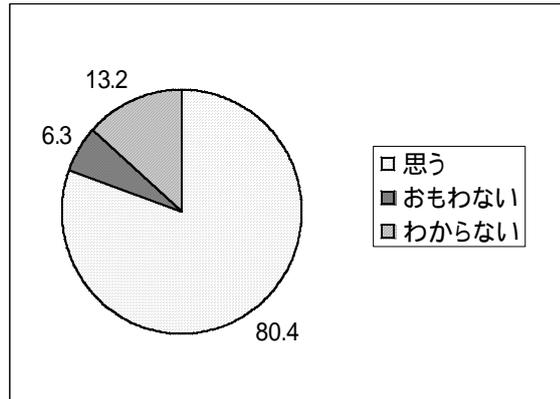
小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

21. 小菅村のもので今後も是非残しておきたいものは何で

- | | |
|----------------|----------------|
| ・自然・景観・山 103件 | ・伝統芸能・文化 50件 |
| ・近所付き合い 27件 | ・郷土料理・特産物 16件 |
| ・温泉・小菅の湯 11件 | ・源流祭りと花火 7件 |
| ・小中学校・保育所 7件 | ・魚の多く住む川 6件 |
| ・自宅やその周辺 4件 | ・特になし・わからない 4件 |
| ・長作観音堂 4件 | ・美味しい水 4件 |
| ・村で頑張っていること 2件 | ・小菅弁 2件 |
| ・人口の維持 2件 | ・都有林内の天然林 |
| ・診療所 | ・料理教室 |
| ・きれいな空気 | ・一軒しかない茅葺き屋根の家 |
| ・クリーン作戦 | ・子どもたちと老人の交流 |
| ・全部 | ・村への愛 |
| ・自給自足の料理 | |

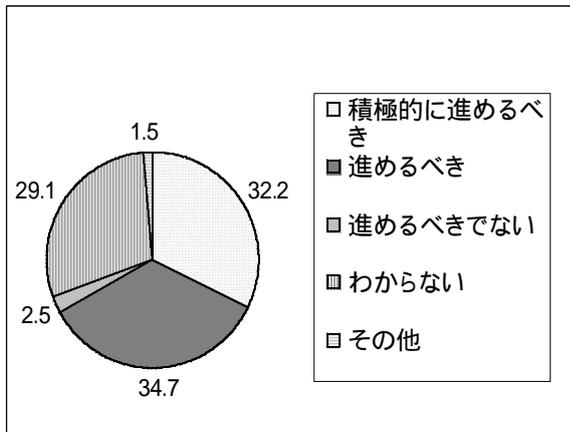
22. 小菅村を「ふるさと」だと思いますか

	有効回答割合 (%)
思う	80.4
おもわない	6.3
わからない	13.2
無回答	
合計	506



23. 近年、自然保護や文化継承保全の観点から「都市と農村の交流」が盛んに提唱されていますがどうおもいますか

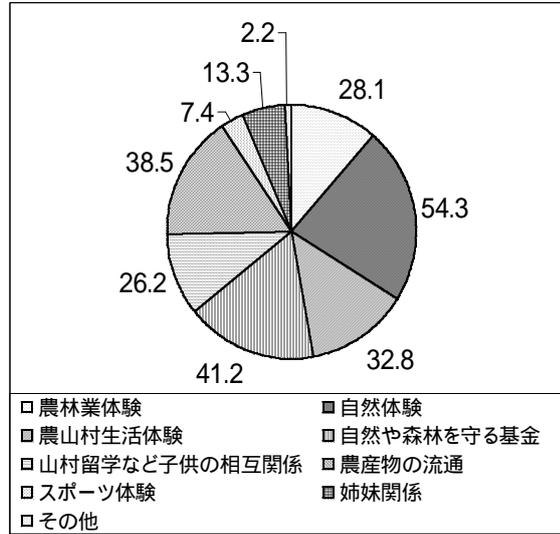
	有効回答割合 (%)
積極的に進めるべき	32.2
進めるべき	34.7
進めるべきでない	2.5
わからない	29.1
その他	1.5
無回答	
合計	475



小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

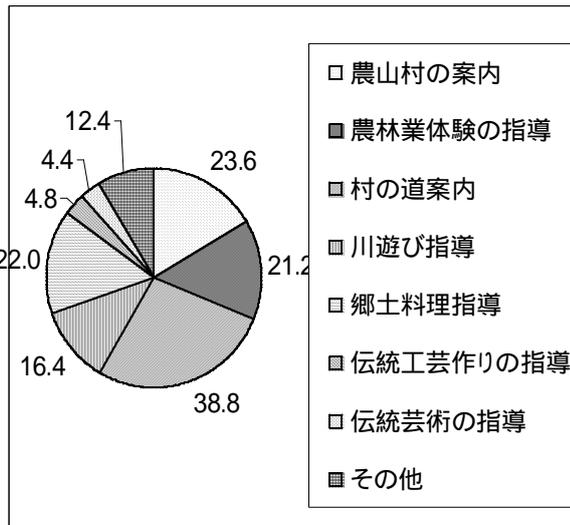
24. あなたの考える都市と農村の交流を教えてください(3つ をしてください)

(MA)	有効回答割合 (%)
農林業体験	28.1
自然体験	54.3
農山村生活体験	32.8
自然や森林を守る基金	41.2
山村留学など子供の相互関係	26.2
農産物の流通	38.5
スポーツ体験	7.4
姉妹関係	13.3
その他	2.2
無回答	
合計	405



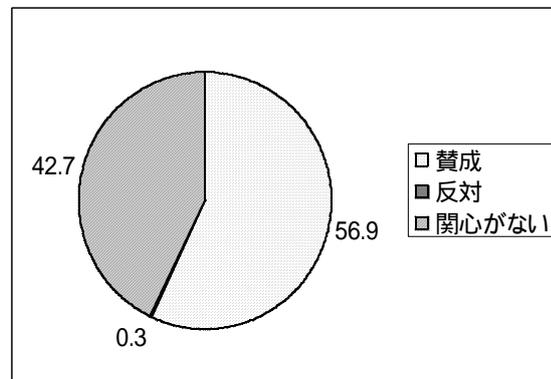
24. あなたが交流に関して出来ること全てに をつけてくだ

(MA)	有効回答割合 (%)
農山村の案内	23.6
農林業体験の指導	21.2
村の道案内	38.8
川遊び指導	16.4
郷土料理指導	22.0
伝統工芸作りの指導	4.8
伝統芸術の指導	4.4
その他	12.4
無回答	
合計	250



25. 地域活性化について

	有効回答割合 (%)
賛成	56.9
反対	0.3
関心がない	42.7
無回答	
合計	295



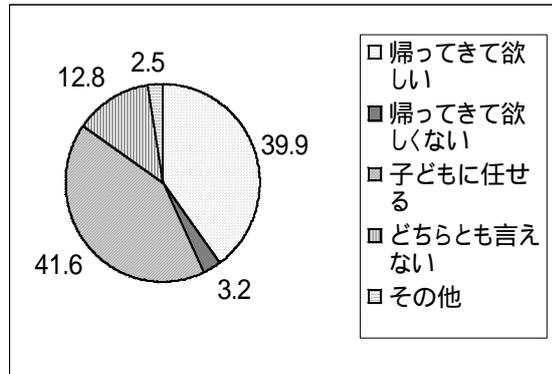
小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

賛成意見

- ・交流によって、産業などの活性化を考える 13件
 - ・高齢化でも次代のために継続・村づくりに必要 7件
 - ・活性化した方が 7件
 - ・良い・大切 7件
 - ・休耕畑・産物の利用 7件
 - ・頑張らないと後がない 5件
 - ・小菅や産物・様子などを知って欲しい 6件
 - ・なんとなく・わからない 4件
 - ・良いと思う 4件
 - ・過疎化に歯止めがかかる 3件
 - ・なんとなく・わからない 4件
 - ・生き甲斐づくり 2件
 - ・村が良くなる・活性化 3件
 - ・一人でも多く村に来て欲しい 2件
 - ・雇用の発生 2件
 - ・大勢との交流で色々学べる
 - ・人口増 2件
 - ・人の生きる術
 - ・小菅の湯来訪者を利用
 - ・今までの実績を大切にして継続して欲しい
- ・村民との合意が必要
 反対意見
 人口が少なくなる

26. 村で育った子どもたちは高校・大学時代に一度村を出なくてはならない現状がありますが、これらの子どもたちに村に帰ってきて欲しいと思いますか

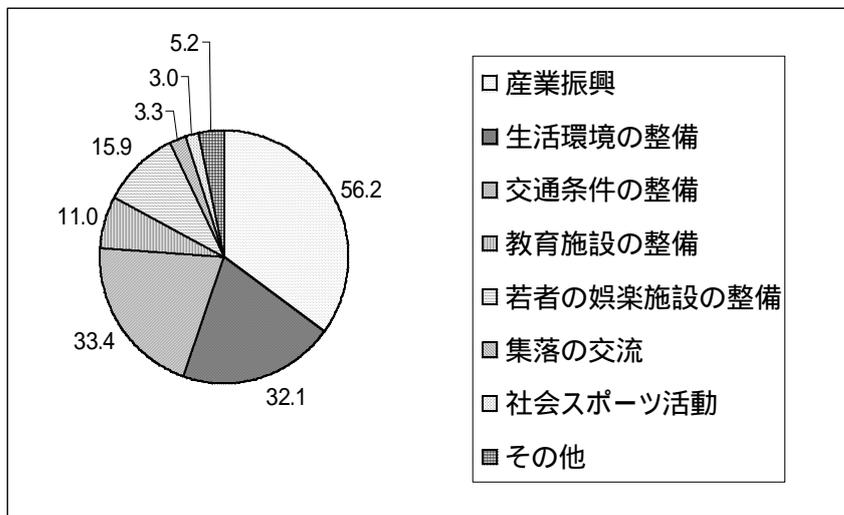
(SA)	有効回答割合 (%)
帰ってきて欲しい	39.9
帰ってきて欲しくない	3.2
子どもに任せる	41.6
どちらとも言えない	12.8
その他	2.5
無回答	
合計	476



小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

26. 子どもたちに村に帰ってき
て欲しいと思いますか そのた
めにはどんな施策が必要だと
思いますか

(MA)	有効回答割合 (%)
産業振興	56.2
生活環境の整備	32.1
交通条件の整備	33.4
教育施設の整備	11.0
若者の娯楽施設の整備	15.9
集落の交流	3.3
社会スポーツ活動	3.0
その他	5.2
無回答	
合計	365



小菅村村民アンケート調査集計表 一般の部

27. 県や村に要望がありましたらご記入ください

・村内外に通じる道路・トンネル・バイパスの整備・着工 18件	・合併問題。進んでいるのか。どこと合併か 9件
・携帯電話のエリア拡大 8件	・特になし 8件
・生き残りについてのビジョンと村民一丸の協力体制構築 5件	・高校・大学進学者のUターンできる環境にして欲しい 5件
・大きな樹木のため、村内が暗く感じる。日照時間の改善 4件	・今の小菅を維持して欲しい 3件
・小菅村を残して欲しい 3件	・病院での待ち時間対策 2件
・財政の改善 2件	・国、県、村等の増税の不安・反対 2件
	・要望が通るのだろうか。住民のことを考えていないのではないかと 2件
・常勤の医師・医療の充実 2件	・各集落に防災対策の小屋設置
・林道 農道の整備 2件	・過疎防止策を検討して欲しい
・インターネット環境の充実	・小菅を好きになってくれる人が増える村づく
・川のそばに街灯設置	・こんなアンケートをしても、小菅のような村は五年後には潰され
・人員削減	・今さら地方交付税減額すれば、村の若者は戻らず、村はなくな
・今のところなし	・他校との交流・山村留学の実行
・水を消毒することに疑問	・今は無理なことも申請していった方がよい
・森林の過度の伐採防止	・小菅の不便さの解消により、都市との交流がうまくいくのではな
・県、村の意識向上	・部落ごとにショッピングセンター・公園・大きな病院づくり
・地場産業の奨励	・Uターン者に土地を貸しやすく、小菅の湯に宿泊施設を
・村営バスの延長	・村民の意見を聞いて欲しい。ゆとりを持って欲しい
・花粉症対策	・源流研究所が必要なのか。毎日の草むしりやゴミ拾いなどの積み重ねが大きいことにつながるのではない
・人材の育成・活用	・お付き合いが過剰では、子どもたちも帰るのが手間になる。気
・過度の食事サービスは不要	・粗雑になるので、プロに調査をお願いした
・住環境整備	・村民の模範となるよう、村内を回ってください
・豊かな生活ができるようにして欲しい	・男性は結婚ができていない。さらに先の後継者がいない
・乳幼児医療の年齢の引き上げと負担額の軽減	

平成16年度 国土施策創発調査

「源流再生・流域単位の国土の保全と管理に関する調査」

源流ネットワーク形成に関する調査 報告書

平成17年3月

環境省自然環境計画局
山梨県小菅村・多摩川源流研究所

源流ネットワーク形成に関する調査報告書

目次

第1部	概要	・・・・・・・・・・	1
第2部	本編		
	源流ネットワーク形成に関する調査	・・・・・・・・・・	6
(1)	源流再生の目的と今後の課題		
	1) 源流に迫る二つの危機への対応		
	2) 小菅の発案と源流再生モデル構築へ		
	3) 源流再生に向け国土創発調査全体会を開催		
	4) 源流関係者会議で目的を明確化		
	5) 源流の風土記・源流の可視化・源流のネットワーク化		
(2)	源流再生に向け全国源流の郷協議会準備会の結成	・・・・・・・・・・	9
	1) 全ての源流域へ連携組織を		
	2) 九州から北海道までの源流へ連携組織		
	3) 活動の成果について		
	4) 「全国源流の里協議会」づくり		
	5) 民間団体の源流ネットワーク形成		
(3)	先進事例に学ぶ流域管理のあり方	・・・・・・・・・・	12
	1) 香川用水 水源の森保全事業		
	2) 四万十川条例と四万十川財団について		
	3) 十勝川の情報発信システム		
	第3部	資料編	
	1. 全国源流の郷協議会の設立趣意書	・・・・・・・・・・	17
	2. 全国源流の郷協議会の運営規約	・・・・・・・・・・	18
	3. 特定非営利活動法人全国源流ネットワークの設立趣意書	・・・・・・・・・・	21
	4. 特定非営利活動法人全国源流ネットワークの役員名簿	・・・・・・・・・・	22
	5. 国土施策創発調査会議の経過について	・・・・・・・・・・	23

第 1 部 概要版

源流ネットワーク形成に関する調査

(1) 源流再生の仕組みづくりと今後の課題

1) 源流再生に向けた組織作りが進展

この国土施策創発調査は、急速な過疎化・少子高齢化が進展する全国の源流域が抱える国土管理や源流文化の課題解決の検討に向けて、流域圏的なアプローチを活用した源流再生モデルを構築するとともに、全国の源流域が連携して再生を図るための行政組織「全国源流の郷協議会」を組織し、これと全国源流ネットワークや学識者からなる連携組織を創設し、行政、民間、学識者などの協働による枠組みと体勢を確立して全国の源流域の再生を図ることがその目的である。

この調査活動を通して源流域の地方自治体による「全国源流の郷協議会準備会」が創設され、また、民間団体の全国源流ネットワークはその組織を広め、特定非営利活動法人として認証されるなど、全国の源流域が連携して源流再生を目指す仕組みづくり、組織作りが進展した。しかし、この事業の推進には、流域の市民の理解と協力が欠かせないが、源流に関する必要な情報が流域に伝わっていないという大きな課題を抱えている。

2) 国土管理の新たな担い手の創出は緊急の課題

ところで、全国の源流域に於ける過疎化・高齢化は益々深刻化し、国土の保全や管理に暗い影を落としている。我が国の森林面積は国土の約7割を占めており、その森林面積の約4割にスギやヒノキの人工林が広がっているが、木材価格の低迷により人工林の手入れが放置され、森林の荒廃が叫ばれて久しい。間伐が進まない真っ暗なヒノキ林の林床には、草木が一本も生えていない荒涼たる光景が出現している。こうした林床は、大雨の度に表土の流失を繰り返し、ひいては山津波や土砂災害の遠因ともなっている。このような現状は、国土の保全と管理の上からも国民の安全を確保する上からも、さらには防災上からも放置できない深刻な事態であり、流域管理の観点からの国土管理の新しい総合的な対策と担い手づくりを早急に創り出していくことが緊急の課題になっている。

3) 自立したむらづくりへの抜本的な支援を

こうした中、源流域の課題の解決に向けて昨年(平成16年)秋に、環境省、国土交通省、林野庁などの省庁連携による「源流再生・流域単位の国土の保全と管理に関する国土創発調査」が山梨県小菅村の発案によって開始された。

源流再生への鍵は、源流域の町や村が自立した町づくりが出来るよう抜本的に支援・協力体勢を強化することである。源流資源の活用による流域経済圏を基調としつつ、源流で暮らす人々と源流の恩恵を受ける人々との協働の輪による上下流連携の構築に向けて新し

い視点と角度からの方法と対策を講じていくことが求められている。流域を視野に入れた、流域単位の源流再生にむけた組織「全国源流の郷協議会」と「NPO法人全国源流ネットワーク」がそれぞれ結成されたことは、今後の源流再生への大きな財産といえる。こうした源流ネットワークの構築を図りながら、今後の源流域の再生と振興の課題を様々な角度から総合的に検討した。

4) 今後の源流域の再生と振興に関する課題

1 源流の可視化・情報発信事業

国土施策創発調査の成果を全国的な規模で具体化すること。特にこの取り組みの中心的な課題である源流の可視化・情報発信を積極的に推進すること。また、全国的な「源流再生プロジェクト」を推し進めていく連携組織・「全国源流の郷協議会」及び「NPO法人全国源流ネットワーク」の輪を広げるなど、国の支援も得て源流ネットワーク形成事業をより一段と強力に推進することが必要である。

2 流域圏アプローチによる源流の森林再生及び森林整備事業

森林の荒廃など国土の保全と管理への課題は、どこかの部局の縦割りの仕事に任せられる時代ではない。流域管理・総合治水の観点から、既存の枠組みを超えた国土管理の新しい仕組みと担い手の創出に向けた抜本的な対策を流域圏アプローチを活用し早急に検討する必要がある。例えば、実行主体のある流域管理システムの構築が課題といえる。

人工林対策に関しては、香川用水水源林保全の取り組みに見られるように、県境や流域を越えた先進事例がすでに生まれている。国と流域の市町村や市民・企業の共同の責任による森林整備基金の創設や森林整備隊の確立などこれまでの発想をこえた大胆で具体的な対策を早急に講ずる必要がある。

3 源流資源管理促進事業

全国の源流域が抱える課題解決の検討に向けて、流域圏的なアプローチを活用した源流再生モデルを構築するうえで、多摩川において全国に先駆けて流域管理の模範例を示していくことが大切である。流域管理は、流域全体でその流域を守り、流域全体が栄えるよう対策と体制を整えることであるが、その障害になっている古い枠組みの改変と克服が必要である。

4 流域自然再生事業

源流域の水資源や森林資源を流域圏に着目して永続的に保全・管理していくことが重要である。各流域で流域圏アプローチを効果的に推進していくために流域単位の総合計画の検討が求められており、各流域の県境や古い枠組みなどの壁を乗り越えて、源流から河口までの一貫した流域の保全と振興を図る総合計画が必要である。また、この計画の中に流域管理の思想を徹底させ源流資源の保全と管理の重要性を正確に位置づけることが大切である。

5 源流基本法（源流活性化促進法）の提言；「源流白書」の発行事業

源流ネットワーク形成事業と連動して、全国源流資源調査に基づく「源流白書」づくりを実施することが大切である。それぞれの主要河川の最上流部に位置する自治体とその現状や上下流連携の課題を的確に把握した「源流白書」づくりと行政と民間と学識者の三者による源流再生に向けた連携を今後より一層強めていくこと。

6 全国源流祭り（全国源流物産展の開催）

「源流宣言21」とか「源流からのアピール」など分かりやすい「国民への訴え」を検討し、官民の源流ネットワークが国民と協働で何に取り組むのかを明確に示し実現可能な課題を明示して、全国源流祭りなど具体的にアクションを起こしていくことが重要である。

この間の源流ネットワークの連携強化は、「源流再生」の活動の発展に大きな弾みを与えたことは間違いない。しかし、現在取り組まれている各地における「源流再生プロジェクト」は、流域単位においても、その活動の姿は殆ど知られていないのが現状である。内容を良く検討し効果的なアピールの方法や具体的に何をやるのかのアクションプログラムを明確にすることが重要である。

（2）全国源流の郷協議会準備会の結成

平成16年12月10日、山梨県小菅村で「全国源流の郷協議会」の設立の趣旨に賛同する地方自治体の組織からなる「全国源流の郷協議会準備会」が設立された。

全国源流の郷協議会の設立趣旨のコンセプトと課題は次の通り。

コンセプト

- ・美しい国土の原風景が最も素朴な形で息づいているのが日本の源流である。
- ・源流の資源は、普遍的な価値を持つ国民共有の宝物であり財産である。
- ・源流に住む人々だけでは山や森が守れない時代である。
- ・住民は流域の多様な機能の恩恵に浴している。最上流部の源流資源を、流域全ての住民にとっての大切な宝物として、後世に継承する。
- ・安定した生活を持続させるために全国各地の源流の郷が協働して「源流基金創設」等の新たな国民的な運動を開始する。

課題

- （1）国土と源流の資源を守るための「源流基金」の創設
- （2）市民・企業・学識者・行政など広範な人々の参加による「源流を守れ・国民会議」（仮称）運動の展開
- （3）森林環境に対する新たな財源制度の創設
- （4）源流域の持つ価値や役割などの普及・啓発活動

- (5) 源流の自然を再生する住民参加のプロデュース
- (6) 健全な源流の郷づくりへの支援

現在、全国源流の郷協議会準備会に加盟している自治体及び賛助会員、オブザーバーの自治体は次の通り。

全国源流の郷協議会準備会 加盟自治体

- (1) 五ヶ瀬川源流 五ヶ瀬町
- (2) 旭川源流 新庄村
- (3) 高津川源流 六日市町
- (4) 富士川源流 早川町
- (5) 多摩川源流 小菅村

賛助会員 島根県中山間地域研究センター

オブザーバー

- 紀ノ川吉野川 川上村
- 熊野川源流 天川村
- 江の川源流 西条町

連携自治体

- 十勝川源流 新得町
- 吉野川源流 大川村

(3) 源流ネットワーク形成と今後の課題

この間の国土施策創発調査活動を通して、耳川源流、五ヶ瀬川源流、吉野川源流、紀の川・吉野川源流、錦川源流、北上川源流、雄物川源流、十勝川源流などに新しい源流ネットワークが築かれた。また、源流域の民間団体で組織されている全国源流ネットワークが特定非営利活動法人に認証されるなど民間における源流再生の組織作りの基盤が強化された。以下に見るように北海道の十勝川から九州の五ヶ瀬川までの21水系に源流ネットワークが築かれてきている。一級河川は、全国に109あるが、出来るだけ早く55の水系に連携組織を確立することが大きな課題になっている。これまでに確立されてきた特定非営利活動法人全国源流ネットワークの連携水系は次の通りである。

特定非営利活動法人全国源流ネットワーク

- | | |
|--------------------|-------------------|
| (1) 耳川・小丸川源流 椎葉村 | (2) 五ヶ瀬川源流 五ヶ瀬町 |
| (3) 大野川 | (4) 吉野川 大川村 |
| (5) 四万十川 ゆずはら町 | (6) 錦川 錦町 |
| (7) 太田川 | (8) 高津川 六日市町 |
| (9) 江の川 | (10) 旭川 新庄村 |
| (11) 紀ノ川吉野川 川上村 | (12) 熊野川 天川村 |

(1 3) 木津川

(1 5) 富士川 早川町

(1 7) 荒川 大滝村

(1 9) 雄物川 田沢湖町

(2 1) 十勝川 新得町

(1 4) 天竜川

(1 6) 多摩川 小菅村

(1 8) 北上川

(2 0) 尻別川 二セコ町

国土交通省、環境省、林野庁の省庁連携による「源流再生プロジェクト」が開始されたこと、源流域の地方自治体の連携組織が確立されたこと、源流域で活動する民間団体のNPO法人化が図られたこと、源流大学構想検討などを通して、専門家・学識者の連携が広がっていることなど確実に源流関係のネットワークの輪が拡大されていることは、今後の源流再生にとって大変有意義である。

第 2 部 本編

源流ネットワーク形成に関する調査

(1) 源流再生プロジェクトの目的と課題

1) 源流に迫る二つの危機への対応

新しい世紀は環境と水の世紀といわれている。日本民族は有史以来わが国の国土と自然をこよなく愛し続けてきているが、その美しい国土の原風景が最も素朴な形で息づいているのが日本の源流である。豊かな森林に覆われている源流域は、私たちに美味しい水やきれいな空気など多くの恵みを与えると共に、私たちの生活や文化と密接にかかわり、人間の生き方や自然観にも大きな影響を与えてきた。この源流域の水や森林などの資源や文化は、私たちにとって普遍的な価値を持つ日本社会共有の財産であり、このかけがえのない源流資源を保全することが、いま日本の全ての人々にとって重要になっている。

ところで、自然資源の重要性ばかりでなく源流文化に関心が広まりつつあるが、急速な過疎化・高齢化の進展の中で、特に注目すべきことは、源流域に存在する無数の滝や淵、沢や尾根等の地名とその由来が、記録されることがないまま、消えようとしていることである。源流域の淵や滝、沢や尾根などの地名には、その地域特有の歴史や文化、暮らしや仕事などが色濃く反映しており、いわば大地に刻まれた無形文化財の役割すら果たしている。こうした貴重な無形の文化遺産が、何ら対策が取られることもなく次々と消え去っている。こうした源流文化の危機をただ手をこまねいて見過ごすことはあってはならないし、継続した全国的な源流資源調査の取り組みが求められている。

豊かな自然の中にこそ豊かな文化が芽生える。太古の昔から豊かな自然に恵まれた源流、そこに生きた人々の源流への思いは計り知れないほど深くて広い。源流域に広がる滝や淵の名称やその由来を調査研究することは、人間の自然に対する愛着や感謝、崇拜や畏怖の念を辿る道でもある。こうした源流域に残された人と自然との関係に関する知的財産とも言うべき先人の巧みな知恵や技を、克明に記録し次代に引き継ぐことは私たちの責務であろう。

2) 小菅の発案と源流再生モデル構築へ

ところで、全国各地の源流域では急速な過疎化・高齢化が進展しており、林業の構造的な不振とも相まって林業の担い手が急激に減少している。我が国の森林面積は国土の約7割を占めており、その森林面積の約4割にスギやヒノキの人工林が広がっているが、木材価格の低迷により人工林の手入れが全く放置され、森林の荒廃が叫ばれて久しい。間伐が進まない真っ暗なヒノキ林の林床には、草木が一本も生えていない荒涼たる光景が出現している。こうした林床は、大雨の度に表土の流失を繰り返し、ひいては山津波や土砂災害の遠因ともなっている。こうした事態をこれ以上放置することは、国土の保全と管理の上で許されない事態である。さらに、その肝心な国土の管理と保全の上で河川の最上流部に

於いて、源流域の生活や文化を維持し国土の管理や森林の保全のための中核的な役割を担う基礎的自治体の存立すら危うくなっている。今や源流に住む人々だけでは山や森が守れない時代となつていいる。こうした源流域の現状をふまえた対策と課題については、概要版で紹介したとおりである。

こうした中、源流域の課題の解決に向けて昨年（平成16年）秋に、環境省、国土交通省、林野庁などの省庁連携による「源流再生・流域単位の国土の保全と管理に関する国土創発調査」が山梨県小菅村の発案によって開始された。これは、我が国の中で特に過疎化やそれに伴う経済基盤や文化の衰退が著しい源流域を対象に、源流資源の活用による小菅村の再生モデルを構築すると共に、源流域の様々な取り組みのネットワーク化を図ることにより源流域の再生を目指す活動に取り組んだ。

3) 源流再生に向け国土創発調査全体会を開催

小菅村の発案によって開始された国土施策創発調査は、環境省、国土交通省、林野庁、文化庁などによる省庁連携により推進された。この調査を通して源流域の国土保全や源流文化の課題に対してどんな有効な方策があるのか、源流の価値や素晴らしさを流域の都市住民に分かりやすく伝えていく手段や方法はなにか、源流域のネットワークをどう構築して行くのかなどについて、官、民、学の関係者が幾度となく真剣な議論を積み重ねた。国土創発調査に関する全国的な会議だけでも短期間に三回開催するなど、現場で実際に汗をかいている源流再生を願う関係者の参加と協働と連携による共同事業としてこの取り組みは進められた。ここでは、9月と10月に源流再生を巡る基本的なコンセプトが議論された内容を紹介する。

4) 源流関係者会議で目的を明確化

9月16日12時30分より東京農業大学7号館4階リファレンスルームにおいて国土施策創発調査対策会議が開かれた。会議には環境省から佐藤、立田、国土交通省から森本、斉田、梅津、林野庁から河野、小菅村・源流研究所から中村、青柳、奥秋、中川、学識者から高橋、宮林、菅原、竹村、恵、山道、神谷が出席した。

会議ではまず、個別課題の議論や具体化の前に、今度の源流再生の国土施策創発調査で何をを目指すのか、基本的なコンセプトは何か、どんな成果を上げていくのかについて議論された。まず環境省からこの調査は旧国土庁系の予算で、国土計画局が所管し、全体としての予算は6800万円で、この調査を通して目に見える成果が求められていることなどが報告された。

続いて参加者から次のような意見が出された。

今、全国の源流が他の地域と比べて軽視され、見捨てられてきていることは日本にとって由々しきことであること、源流以外の人に源流の重要性を分かってもらえる取り組みが重要である。

創発において、トップダウン的手法でなく、ボトムアップの仕組み作りが重要で、小菅村での取り組みはこうした取り組みの姿になっている。取り組みとして、一点、二点、

深堀を作る必要がある。一つは、源流の姿が全国的に見やすくする開かれたプラットフォームがある。二つ目に、源流の調査をして価値の共有化が図られなければ意味がない。今、学校現場にも上流のことが分かる構造になっていない。例えば、小学校のモデルケースとして、水道の蛇口に小菅の森の音を流すとか、森の姿を映すとか工夫して水道蛇口を情報蛇口と位置づけることで、小菅の水を飲んでいることが意識化されるようになる。

従前、調査の成果が報告書にまとめられるが、そのほとんどがお蔵入りしている。この際、コミュニケーション構造を立ち上げて、源流の可視化が重要である。又、創発に関する手法は、市民参加をベースとすべきだろう。

全国源流一斉調査は、調査の仕掛けとして全国の水辺で同日、同時刻の一斉調査など工夫するといいい。

どういう所に行くと、どういう経験が出来るという経験地図を作るなど都市市民と源流・自然を近づけていく手法を考え、多くの都市市民に源流の資源、宝に興味を抱かせるきっかけを作ることが大切だ。下流域の多くの市民は源流への知識、川への知識がゼロだという認識から出発することが大事。源流からの情報発信こそ大切である。

今度の創発調査は国民の税金でまかなわれることからその成果が、国民に還元される必要がある。この調査がどんな内容をもつべきか、第1に、国土保全につながる施策、第2に雇用をどう発生させるか、第3に、数年すると、団塊の世代が大定年時代を迎え、国土保全に貢献したいと希望する市民が大量に生まれる。この活用も重要である。第4に、源流を知ってもらい新しい情報を知る喜びを提供する。第5に、林業への関心をもつ市民を増やし林業が国土管理上大きな役割を果たしていることをアピールし、森が元気になることの大切さを広めていく。

こうした参加者の意見と提案、議論を踏まえて環境省の佐藤課長補佐から、源流再生・国土施策創発調査の全体的なコンセプトとして

第1に、全国的な源流の記録や科学的なデータを蓄積し、GISを構築する。

第2に、源流の可視化プロジェクトを推進する。

第3に、ネットワーク形成事業を推進する。

という3本の柱が提起され、この3本柱を中心に国土創発調査を実施することを確認した。このあと、繰り返し課題確認と課題具体化に向けての打合せ会議がもたれたが、その詳しい経過については、資料5に詳細が記されている。

5) 源流の風土記・源流の可視化・源流のネットワーク化

こうした経緯をふまえて「源流再生・流域単位の国土施策創発調査」の目的と課題が明確にされた。その大きな3つの目標は次の通りである。

第一は源流域の風土記(記録)プロジェクトである。いくら時代が経過しても風化しない源流域の記録を作成する。これは、文化、歴史、地名等源流域が長い年月育んできた履歴のものを記録し、後々の源流再生にも十分使える内容のものを作成する。具体的な手法としては、まず山梨県小菅村と島根県六日市町をモデルとして、実際にそれぞれ調査を

実施し風土記を作成する。そのノウハウをもとに、とりまとめ方をマニュアル化し、次年度全国源流調査として、全国を対象に実施する。その際、GISデータとして整理する。随時データの追加が可能なものとし、運動論としての風土記の作成を目指す。

第二は、源流域の可視化プロジェクトである。源流域がどのような状態なのか、ほとんど情報が発信されていないのが実情である。このため、特に都市部を対象とする源流域以外の人に源流の姿を伝える。源流域の風土記（記録）で作成したGISをWEB対応とすると共に新たにコンテンツを加え、源流の情報を発信するプラットフォームを作成する。

第三は源流域ネットワーク形成プロジェクトである。個々の源流の力には限りがあるが、連携することにより、その力の集積と活性化を図る。具体的には、源流の自治体からなる「全国源流の郷協議会」、源流域で活動する民間団体からなる源流ネットワーク、また専門家や学識者のネットワーク化を進め、全国に張りめぐらされた官、学、民のトライアングルで源流域の活性化を図るものである。

（２）源流再生に向けて全国源流の郷協議会を結成

１）全ての源流域へ連携組織を

小菅村・多摩川源流研究所は、この国土創発調査推進の中核としての立場から、源流資源調査、源流の可視化、源流ネットワーク形成事業などの全体の事業に深くに係わりながら、特に源流ネットワーク形成事業に関しては大きな力を注いできた。

この国土創発調査の取り組みで様々な画期的な成果が上げられているが、最も大切なことは源流再生事業の趣旨がどれほど理解され、各地の源流域や各流域に広まったのかの、もっと具体的に言えば源流への理解と源流再生を担うネットワーク（推進力）をどれほど構築できたかにある。全国に一級河川だけでも109あるが、その全ての源流域にネットワークを構築することが目標であるが、当面北海道から九州までの8ブロックに50個所の交流拠点を築いていくのが課題である。

源流ネットワークを形成するのは、手間と時間はかかるが、系統的に現地に出かけ、現地の源流の景観や風に触れ、人と言葉を交わし、信頼を深めることが何よりも大切である。源流のどの村にもどの町にも、源流を心の拠り所として源流と共に暮らすことを喜びとしている人々が必ずいるし、その源流に熱い思いを寄せる流域の市民がいる。源流に生きる人々と源流に思いを寄せる流域の市民との心の通った連携こそが源流再生の鍵を握っているといえよう。

２）九州から北海道までの源流へ働きかけ

昨年の9月から源流ネットワーク形成事業の輪を広めるために、精力的な取り組みを開始した。その時期は、第五回全国源流シンポジウムの開催時期とも重なる多忙を極める時

期であったが、この「源流再生・流域単位の国土の保全と管理に関する国土施策創発調査」という大事業が舞い込んできたのである。

先ず源流ネットの空白地である東北地区の北上川源流を9月6日に訪れた。続いて10月30日に奈良・熊野川源流を、11月1日に奈良・吉野川源流に、さらに11月20、宮崎・耳川源流に、12月22日には奈良・熊野川源流へ、12月25日には奈良・吉野川源流へと師走の忙しい中、全国各地の源流に足を伸ばした。

年が明けて、平成17年1月12日、五ヶ瀬川・耳川源流に出かけたのを皮切りに、2月2日、吉野川・熊野川源流に、2月3日、吉野川源流に、2月12日、広島・太田川流域の「やまなみ大学」先進事例調査に、2月21日、高知・四万十川源流に、さらに3月7日、北海道十勝川源流に、続いて、3月16日、島根・高津川源流、さらに3月18日には山口・錦川源流に、さらに3月28日は徳島・吉野川源流にそれぞれ出向いて源流資源調査と源流の人々との交流を図ってきた。また、2月20日には、秋田・雄物川源流の玉川ダム活性化委員会の方々が多摩川源流視察に見えられ交流を深めあった。

3) 活動の成果について

こうした取り組みの結果、

1) 源流域のネットワーク形成事業に関しては源流域の地方自治体からなる「全国源流の里協議会」準備会が結成されたこと、

2) さらに源流域で活動する民間団体からなる全国源流ネットワークの輪が確実に広がり、今年2月17日に特定非営利活動法人として認証されたことである。

4) 「全国源流の郷協議会」づくり

最も苦労したことは、源流域の地方自治体からなる「全国源流の郷協議会」づくりであった。もともと各水系の源流域にどんな自治体が存在するのか、その自治体はどんな課題を抱えているのか、またその自治体とどう連携するか、まったくの手探り状態から出発した。この源流再生の課題は、流域の上下流連携を基本とすべきとの考えから、全国各地の流域のネットワークと連絡を取った。

ところが、全国各地の流域ネットワークはその殆どが中下流を基盤としており、源流の市民団体との連携も、自治体との交流や連携は、殆ど進んでいないのが現状であった。この事業の取り組みを契機に各地のネットワークとの連携を開始した。全国で10を越える自治体と連絡が取れるようになったが、そのなかで、熊本の緑川、島根の江の川、広島の太田川、三重の木津川、埼玉の荒川などが、市町村合併の渦中にあり、全国源流の郷協議会への参加が困難になった。そのため、新たなネットワークを構築するため、熊野川、四万十川、吉野川、耳川、錦川、十勝川などの源流に出向き、全国源流の郷協議会参加への理解と協力をお願いした。

各地の源流域は、厳しい財政の中、森林環境税創設を求める全国組織やダムサミット会議などにすでに加わり会費を分担するなど、自らの源流域の振興を図るために真剣な活動

が進められていた。ここで改めて源流再生に向けての新しい全国的な組織に加盟するには、幾つもの障害が存在した。その組織に魅力と利益がどれだけあるかが試されたばかりか、その組織を担う人々への信頼が必要条件として浮かび上がってきた。各地の流域で、日常的な活動で源流への熱い眼差しを注ぎ、実際に源流へ何度も出向いて源流との信頼関係を築いている流域からしか、この全国源流の郷協議会に加わることは難しかった。

しかし、こうした取り組みの中、二年前に全国源流シンポジウムを開催した高津川源流の六日市町から手が上がった。続いて、上下流交流が盛んで源流の碑を流域各地の源流に建立する独創的な活動を展開している旭川流域がこれに続いた。さらに十数年前から河川の上流文化圏の価値や可能性を探求し続けていた早川源流の町から参加の意思が伝えられてきた。

このように、一つ一つの自治体の参加に汗とドラマが刻まれていた。お金でははかれない源流の魅力に新しい価値を見いだそうという今回の取り組みは、本当の意味で源流の未来の利益を守ろうという、困難ではあるが重要な社会的な活動である。まだ小さな小さな波紋に過ぎないが、しかし確実にその輪を広げていった。さらに、源流資源の豊かな熊野川源流や紀ノ川・吉野川源流の村から、オブザーバーとしての参加の申し出があり、島根県の中山間地域研究センターからは賛助会員としての参加の申し入れもあった。

こうした取り組みの結果、全国源流の郷協議会は、12月10日、小菅村で準備会が結成された。準備会では、源流の郷協議会の設立の趣旨（別紙）や運営規約等の検討を進めると同時に、協議会への幅広い参加を働きかけていくことを確認した。現在、全国源流の郷協議会準備会に加盟している自治体及びオブザーバーの自治体は概要版で紹介した通りである。

5) 民間団体の源流ネットワーク形成

民間団体の源流ネットワークに関しては、この間、新たに宮崎・椎葉村、奈良・天川村、高知・大川村、広島・安芸太田町、秋田・田沢湖町、岩手・岩手町、北海道・新得町、吉野川・大川村、秋田・田沢湖町等との連携が図られたが、その先々で源流に熱い思いを寄せる源流仲間に出会えたことがこの源流ネットワーク形成事業の最大の成果である。どんな素晴らしい報告がなされても、その中に今後の源流の生きていくべき活路が明確に示されていたとしても、その成果や施策を源流域や流域で実際に汗をかきながら実践していく人々がいなければ、その成果は活かされない。

これまで、源流再生をテーマとした全国的な調査は取り組まれたことがないし、それぞれの流域部に位置する源流域に熱い視線を送る人々を調査したこともない。今回の調査を通して、はじめて、限られているとはいえ、全国各地の源流に熱い視線を送る人々に出会えた意味は非常に大きい。

以下に見るように北海道の十勝川から九州の五ヶ瀬川まで21水系に、源流ネットワークが築かれてきている。特定非営利活動法人全国源流ネットワークの連携水系は概要版で紹介した通りである。

国土交通省、環境省、林野庁の省庁連携による「源流再生プロジェクト」が開始されたこと、源流域の地方自治体の連携組織が確立されたこと、源流域で活動する民間団体の

NPO法人化が図られたこと、源流大学構想検討などを通して、専門家・学識者の連携が広がっていることなど確実に源流関係のネットワークの輪が拡大されていることは大変有意義である。

(3) 先進事例に学ぶ流域管理のあり方

昨年秋以来、全国各地の源流域に出向いて「源流再生・流域単位の国土の保全と管理に関する国土施策創発調査」の一環として、源流の実際を確認するためのネットワーク形成・源流資源調査に乗り出した。各河川の最上流部にどんな村や町があるのか、各地の源流がどんな姿や形をしているのか、どんなことが課題になっているのか、上下流連携の進み具合はどうか、流域の視点は大事にされているか、そこでどんな人々が活動しているのかを調査することがその目的であった。宮崎の耳川・椎葉村、五ヶ瀬川・五ヶ瀬町、島根の高津川・六日市町、広島の大田川流域、高知の四万十川・橋原町、徳島の吉野川・大川村（高知県）、奈良の熊野川・天川村、紀ノ川吉野川・川上村、北上川・岩手町、十勝川・勝得町に足を伸ばしたが、流域管理が重要になってきている昨今、その課題の現状と課題を明らかにすると共に、とくにその中で流域単位の河川環境の保全と上下流連携等で先進的な取り組みをしていた「香川用水 水源の森保全事業」と「四万十川流域の環境保全と振興対策」に関する調査概要を報告する。

1) 香川用水 水源の森保全事業

香川県は、県民の水源を県内に確保することが出来ないという事情を抱えている県であるが、平成6年、異常渇水による深刻な水不足に襲われた。特に高松市では138日間水道の水圧調整、時間給水、夜間断水や公営プールの閉鎖が続き、飲み水が足りないだけでなくトイレも流すことが出来ないなど、市民は困り果ててしまう事態に見舞われた。香川県での大渇水は20年ぶりで昭和48年の「高松砂漠」といわれた時以来のものであるが、瀬戸内海気候による小雨が深刻な水不足をたびたびもたらす香川県の水事情は、県にとって特別な対策が求められてきた。

20年前の大渇水の年に吉野川の源流に早明浦ダムが完成し、その翌年に吉野川の下流から香川用水の通水が確保されたため、繰り返される渇水時でも市民の日常生活に支障なく水が使えるようになったのであるが、平成6年の異常渇水はまさかの悪夢の再来であった。深刻な水不足の打開を目指して香川県知事は、同じく吉野川の水を得ている徳島県知事に「水を香川に回して欲しい」と依頼したが、こうした香川県知事に対してマスコミから批判がわき起こった。大川村を始めとする吉野川の水源地である高知県の町村に対しては、香川県として直接何もしてこなかったからである。

この平成6年の異常渇水を契機に香川県と早明浦ダム上流の大川村との交流が開始され、その中で香川用水の水源地は大川村周辺にあることに始めて気づき、大川村が早明浦ダムの建設に当たって多くの民家が水没するなど大きな犠牲を払っていた事実を知るに至っ

た。さらに交流が進む中で、大川村の9割以上が森林で、その殆どが人工林であることが判明、長引く木材価格の低迷で林業は瀕死の状態にあり、人工林の大半が間伐遅れになっている現状が見えてきたのだ。

こうした水源地域の現状に対して、香川県は、行政レベルの取り組みと市民レベルの取り組みを同時に開始した。市民レベルでは、どんぐり銀行と交流の森づくりに取りかかり、行政レベルでは、「香川用水 水源の森保全事業」を開始した。

「香川用水 水源の森保全事業」の趣旨は、「吉野川上流域の森林について、水源かん養等を維持する観点から、その整備を促進し、安定的な水資源の確保を図る」こととされ、早明浦ダム上流の私有林のスギやヒノキの人工林を対象にして、その間伐への経費支援として、毎年3400万円を森林組合等に助成するものである。今、河川環境を保全していく上で、流域の視点を重視して流域管理の流れに沿った管理運営が大きな課題になっている。全国各地の流域は、県境の壁や縦割り行政による古い枠組みなどにより分断されていることなどを要因として、源流域の人工林の保全に向けた上下流連携は進んでいない。源流域の人工林の荒廃をどう食い止めていくかが大きな課題になっている中、この香川県の取り組みは、県境を越えた森林保全事業として、また流域を越えた取り組みとして大変重要な意味を持っていると言えよう。水資源に対してもっとも切実な要求も持っている地域が、過去のしがらみや古い枠組みを乗り越え、河川の最上流部の森林の保全に関して、全国的にも先進的な事例を生み出しているのは、大変教訓的である。

2) 四万十川条例と四万十川財団について

今、全国各地で環境保全、森林再生の活動が進められているが、流域を視野に入れ流域全体を保全する仕組みが法的な整備を含めて確立されているのはおそらく四万十川だけであろう。四国・高知の四万十川では昭和58年9月NHK番組で日本最後の清流として四万十川が紹介されたことを契機に、高知県を上げての四万十川への見直しと再評価が行われ、四万十川シンポジウムなどを開催して、四万十川の存在と価値をアピールする取り組みが進められた。平成8年には市民、行政、専門家、学識者など広範な県民の参加者を得た委員会の審議を経て「清流四万十川総合プラン21」が策定された。そのプランで示された提言の柱が四万十川条例の制定と四万十川財団の設立であった。

財団法人四万十川財団は、高知県と四万十川流域の8市町村が協働で基本財産をそれぞれ出資して設立された。財団は市民や市民団体・地方自治体と連携、協働して四万十川の保全と流域の振興に取り組み、清流保全事業では人と人のネットワーク形成を目指している。四万十川財団の調査内容は次の通り。

1 四万十川条例と四万十川財団の特色

「清流四万十川総合プラン21」の策定

平成8年3月に「清流四万十川総合プラン21」が策定された。四万十川総合プラン21その理念として

「循環 を基本とし環境に負担を掛けない流域の創造」「予防 予防視点に立った流域の創造」「調和 自然と人間の昭和による生き生きとした流域の創造」の3つを掲げている。ここには川を保全するには流域全体を良くすることが必要であると言う認識が明確に示され、循環・予防・調和の精神による流域の一体感を醸成することの必要性を強調している。水循環は流域規模というような大循環、市町村規模の中循環、コミュニティを中心とする小循環といった多層構造で成り立っている。こうした理念と具体的な課題を地元密着型で推進しているのが四万十川財団である。

四万十川財団は高知県と流域8市町村で構成されており、県と市町村の出資金と企業から寄付を原資に四万十川保全事業に幅広く取り組んでいる。川づくりは人づくりとの基本理念に基づき条例による行政間の連携、学校教育と社会教育の連携、市民のネットワークの構築を柱に、清流保全活動と環境教育がリンクして取り組まれているところに特徴がある。地元小学生が参加しての継続的な四万十川の水質調査、清流保全活動に取り組むボランティア同士の交流の支援、森林再生ボランティアの育成、四万十リバーマスターと連携したマナーアップ活動など多様な四万十川保全事業が展開されている。

清流四万十川総合プラン21は進むべき方向として

- 1) 四万十川を守りはぐくむ環境づくり
- 2) 四万十川の魅力をみがき活かした環境づくり
- 3) 四万十川らしさあふれる生き生きとした地域づくり を目指している

いずれも流域の視点が重視され「流域の生態系保全を基礎とした環境づくり」が貫かれている。四万十川総合プラン21は今後の施策として「豊富な水量の確保」「清流の保全と創造」「自然浄化力の回復」「四万十ブランドの育成と強化」「川のルールづくりの推進」「流域の連携」など30項目が提案され、こういった施策の推進を通して「打ち立てたい流域の総合方法」として「人と人 人と川とが語り合う心弾む清流四万十の里」の具体化が謳われた。

2 四万十川流域保全条例を制定

こうした理念と課題を遂行するために、四万十川流域の独自方針として「四万十川流域保全条例の制定」「四万十憲章の制定」「単独処理浄化槽の設置抑制」「新たな利水ダムの建設抑制」「四万十川サミットの開催」を挙げておりその中核的な課題ともいえる「四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」が平成13年6月に制定された。この条例を遵守する目的で高知県庁には、四万十川流域振興推進室、現地には四万十川財団がそれぞれ設置され清流四万十川を守り育てる対策がとられている。こうした法的な仕組みを整え、対策と体制が確立している四万十川の取り組みは、今求められている流域管理の流れの最先端を走る重要な役割を果たしていると言えよう。

3) 十勝川の情報発信システム

十勝川には帯広市を中心に北海道エールセンター、十勝川インフォメーションセンター、十勝川資料館の3館が配置され、十勝川の情報発信システムが良く整備され、この3館を巡ると川の物知り博士になれる仕組みになっている。さらに、近年北海道立のエコミュージアムも配置され、十勝川流域の歴史や文化、暮らしやいきものといった様々な分野の情報を市民が自由に得られる環境が整えられている。

1 十勝川インフォメーションセンター

十勝川インフォメーションセンターは、川に関する学習や川での体験川でのイベント案内など様々な相談に応じている。館内では水槽で本物の魚を見たり、パネルを見たり、クイズで遊んだり、十勝川について楽しみながら学習できるようになっている。

2 十勝川資料館

十勝川資料館では十勝川の流域に住む人々や動植物をパノラマ模型や数々の展示物で表現し、面白体験と見学を通して川の大切さが学べる川の博物館になっている。特に源流から河口までを表現した大きな模型で洪水を体験できるのが特色である。

3 北海道エールセンター

北海道エールセンターは帯広市を流れる十勝地域最大の十勝川と、清流日本一の札内川の合流付近にある札内川左岸、「治水の森」に全国ではじめての子ども水辺地域拠点センターとして平成16年4月に建設された。総面積は359平方メートルの2階建てで、展示研究室、保健休養室、展望室の他に、体験活動用にEポート、カヌー、救命具などの資材機材などを装備している。建物は財団法人日本宝くじ協会の助成により、河川環境管理財団が建設したもので、その運営は北海道エールセンター運営協議会の指導を受けながらNPO法人帯広NPO28サポートセンターが行っている。

エールセンターの運営資金は、NPO28サポートセンターの収益、及びエールセンター運営協議会の出資と河川環境管理財団による助成で賄っている。そのうち、活動にあたって派遣する人材は、エールセンター運営協議会の加盟団体が対応し、その人材派遣に関わる費用を河川環境管理財団が助成している。

北海道エールセンターは「子どもの水辺再発見プロジェクト」の北海道地域内への推進・普及・啓発の拠点として先駆的な役割を果たしている。また水辺での体験学習・環境学習に必要な資材の貸し出し、情報の提供を行っている。とくに「川に学ぶ体験活動協議会」などの指導者養成、育成のための活動に取り組んでいる。

子どもを安全に水辺に誘うには安全面を含めて経験豊かな指導者や川の指導者を含めた経験豊かな人の和、救命具、学習グッズ等の資材機材等が必要である。こうした子どもの水辺の活動をサポートする「子ども水辺サポートセンター」は全国に1箇所

東京にしかなかったことから、より現実的実践的な活動を支援できる地域の拠点センター設置が必要とされ帯広市に全国ではじめての「子どもの水辺北海道地域拠点センター」として北海道エールセンターが誕生したという。

エールセンターでは6月のEポート講習会、ライフレンジャー講習会、川の自然観察リーダー養成研修会を手始めに、7月に川の自然観察リーダー実習会、水ウォークへのガイド派遣、自然観察会、8月にRAC初級講座開催、水がきジャンボリー、教職10年研修講座、9月に川の観察会、RAC中級講習会、10月にポロシリ自然観察会、とち市市民「環境交流会」、川の自然観察、11月に市民活動基礎講座、元気交流塾、12月に年末交流会、1月に風の子元気倶楽部冬合宿、河川ボランティアの会雪洞づくり、2月にプロジェクトWETエデュケーター養成講座、元気交流塾などの人材養成事業に積極的に取り組んでいる。

「源流基金」の創設に向けて新たな運動を（試案）
＝「全国源流の郷協議会」（仮称）設立の趣旨＝

21世紀は環境の世紀です。日本民族は有史以来わが国の国土と自然をこよなく愛し続けてきましたが、その美しい国土の原風景が最も素朴な形で息づいているのが日本の源流です。豊かな森林に覆われている源流域は、私たちに水やきれいな空気など多くの恵みを与えると共に、私たちの生活や文化と密接にかかわり、人間の生き方や自然観にも大きな影響を与えてきました。

この源流域の水や森林などの資源は、私たちにとって普遍的な価値を持つ共有の宝物であり財産です。このかけがえのない源流資源を保全することが、いま日本の全ての人々にとって重要になっています。

ところが、全国各地の源流域では急速な過疎化・高齢化が進展しており、河川の最上流部に於いて生活や文化を維持するための中核的な役割を担う基礎的自治体の存立が危うくなっているばかりか、スギやヒノキなどの人工林をはじめ森林の管理ができなくなるなど、源流に住む人々だけでは山や森が守れない時代となっています。

私たちは、いずれかの流域に属し、流域の多様な機能の恩恵に浴しています。こうした貴重な源流資源を、ある特定の地域や人々のものとして片づけるのではなく、流域全ての住民にとっての大切な宝物として、後世に届けられることを願ってやみません。

地球環境問題への関心が益々強まる中、水資源や国土の保全、生物多様性の確保など、特別に重要な役割を担っている源流の郷に対して、これからもとどまり安定した生活が持続できるために積極的に支援するために、全国各地の源流の郷が心をつなげて「日本の国土と源流を守る源流基金創設」の新たな国民的な運動を開始します。

かけがえのない自然環境や源流資源の保全のために、文化を尊重し自然を愛する広範な人々が、地球の一員であるとの自覚を持ち、政府まかせでなく県境を越えて、直接にあるいは間接に支援の行動を始めて下さい。人類共有の財産を私たちの協働した知恵と力で守り、次の世代に残そうではありませんか。

全国源流の郷協議会は、源流資源保存のために次の活動を開始します。

- (1) 国土と源流の資源を守るための「源流基金」の創設
- (2) 市民・企業・学識者・行政など広範な人々の参加による「源流を守れ・国民会議」（仮称）運動の展開
- (3) 森林環境に対する新たな財源制度の創設
- (4) 源流域の持つ価値や役割などの普及・啓発活動
- (5) 源流の自然を再生する住民参加のプロデュース
- (6) 健全な源流の郷づくりへの支援

この6課題を掲げその実現に向けて取り組みを進めます。

ここに全国源流の郷協議会は、本趣旨に賛同する源流域の市町村の参加を心より求め、

目的達成のため、強力かつ積極的に国民運動を展開していくものです。

皆様方の格別なご理解・ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成17年3月16日

全国源流の郷協議会

呼びかけ人代表

山梨県小菅村村長 廣瀬 文夫

資料 2 全国源流の郷協議会規約（案）

全国源流の郷協議会規約（案）

（名称）

第1条 本会は全国源流の郷協議会（以下「協議会」という。）と称する。

（目的）

第2条 協議会は、源流域の持つ豊かな自然環境の保全に務めるとともにさまざまな資源の役割と機能を広く国民に訴え、国民的な理解と合意のもとに源流の郷に対する抜本的な振興策を図るとともに関係市町村の協調体制の確立を目指すことを目的とする。

（事業）

第3条 協議会は以下の目的を達成するため、次の事業を行う。

（1）日本の国土と源流の資源を守るための「国民源流基金」の創設

（2）市民・企業・学識者・行政など広範な人々の参加による「源流を守れ・国民会議」

（仮称）

運動の展開

（3）源流域の持つ役割や機能等の啓発普及・広報活動

（4）会員市町村や関係団体との情報の共有及び関係会議の開催

（5）その他、目的達成上必要な事業

（事務所）

第4条 協議会の事務所は、山梨県北都留郡小菅村役場に置く。

（会員）

第5条 協議会の会員は、次に掲げるものとする。

（1）会員は、協議会の目的に賛同する市町村

（2）その他、協議会の趣旨に賛同し、会長が承認した賛助会員

（入会及び脱会）

第6条 協議会に加入しようとするものは、別に定める加入申込書を会長宛に提出し、承認を得るものとする。

2 協議会を脱会しようとするものは、脱会届けを提出しなければならない。

（役員）

第7条 協議会に次の役員を置く。

会 長 1名
副会長 若干名
理 事 若干名
監 事 若干名
顧 問 若干名

(役員を選任)

第8条 理事は、全国のプロックごとの推薦にもとづき、理事会が承認し選任する。

- 2 副会長は、全国のプロックごとに当該地区内の理事の推薦にもとづき、理事会において選任する。
- 3 会長は、第1項の規定により選任された理事の中から理事会において選任する。
- 4 監事は、会長の推薦にもとづき、総会において選任する。

(役員の職務)

第9条 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長が事故又は欠損のときは、その職務を代行する。また、前条第2項に定める地区を代表する。
- 3 理事は、協議会の重要事項を審議する。
- 4 監事は、会務の執行及び会計を監査する。

(役員任期)

第10条 役員任期は2年とする。ただし、再選を妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、会長、副会長、理事に欠損が生じた場合に補充された役員任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、第1項の任期の満了後であっても後任が決定するまでの間、引き続きその職務を行う。
- 4 監事が欠員となった場合は、理事の中から会長が指名する者が職務を代行する。

(会議)

第11条 本協議会の会議は、総会及び理事会とする。

- 2 総会は、定期総会及び臨時総会とし、定期総会は、毎年1回開催するものとし、協議会の存続、規約の改廃その他基本的事項を審議決定する。臨時総会は、必要に応じてこれを開く。
- 3 理事会は、必要に応じ開催するものとし、協議会の事業計画及び予算並びに決算その他会務全般にわたる重要事項を審議決定する。
- 4 理事会の議事は、書面審議をもってこれに代えることができる。

(会議の運営)

第12条 会議は、会長が招集し議長となる。ただし、総会の議長は、会長がそのつど指名する。

- 2 会議の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは議長が決定するところによる。

(会長の専決)

第13条 会長は、緊急案件について、理事会を開くいとまがないときは、これを専決す

ること ができる。

2 前項の規定により専決した場合は、次の理事会に報告し、承認を得なければならない。

(顧問)

第14条 協議会に、顧問をおくことができる。

2 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。

3 顧問は、会長の諮問に応じ、必要あるときは理事会に出席して意見を述べるることができる。(経費)

第15条 協議会の運営に必要な経費は、協議会に加入する町村の負担金その他の収入をもって これにあてる。

2 負担金の金額及び徴収方法は、毎年度予算においてこれを定める。

3 協議会の予算は、理事会の審議決定を経て、総会に報告しなければならない。

4 協議会の決算は、これを監事の監査に付し、理事会の審議を経て総会に報告しなければならない。

(会計年度)

第16条 協議会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(事務局)

第17条 協議会の事務局は、山梨県北都留郡小菅村役場におく。

(委任)

第18条 この規約の施行に関し、必要な事項は、理事会の承認を経て、会長が別に定める。

附 則

1 この規約は、平成 年 月 日より施行する。

書式第7号

設 立 趣 意 書

全国源流ネットワークは、源流域の自然、歴史、文化等の資源とその価値に着目し、全国の源流資源の調査と研究、交流を進め、研究成果の共有と情報の発信を通して、源流に関わる市民、行政、専門家など幅広い人々を対象に、源流域の自然環境の保全や自然と調和した地域づくりと源流の郷の活性化に資することを目的に、平成14年(2002年)に任意団体として結成されました。

この間、多摩川源流や奈良県吉野川源流などで全国源流シンポジウムや全国源流フォーラムを開催し、源流の価値や魅力を広く国民にアピールするなど、啓発・普及活動を展開しています。また、子供たちへの環境学習支援活動に取り組むと共に、源流域の滝や淵、沢や尾根の名称の発掘とその由来を地元の長老から聞き取り、記録し、保存し、次の世代に継承していくため、全国の主要河川での源流マップづくりに取り組んでいます。

ところで、全国各地の源流域は、過疎化、少子高齢化の荒波が押し寄せ、農林業などの基幹産業の不振により、地域の存続に関わる多くの課題を抱えています。この課題の解決のためには、流域全体を視野に入れて、健全な自然の保全と適正な水循環を持続していくためには、源流に暮らす人々と源流の恵みを楽しむ多くの市民が協力し、協働して源流の貴重な資源を守り育てていくことが欠かせません。

全国源流ネットワークは、こうした活動を通して、全国各地の源流に新たな光を当て、広く国民に対して「源流域の豊かな資源は国民共有の財産である」との理解と共感を広めながら、源流資源の調査と研究、情報の受発信と啓発・普及、環境教育支援、森林再生事業の推進、源流景観の復元などに積極的に取り組み、豊かな自然環境の保全と元気のある源流の地域づくりの実現に貢献すべく、特定非営利活動法人全国源流ネットワークを設立するものです。

平成16年 10月 2日

特定非営利活動法人 全国源流ネットワーク

設立代表者 住所又は居所
〒404-0031 山梨県塩山市上粟生野105番地2

氏名 中 村 文 明

資料 4 特定非営利活動法人 全国源流ネットワーク 役員名簿

特定非営利活動法人 全国源流ネットワーク

役名	氏名	住所又は居所	報酬の有無
代表理事	中村文明	山梨県塩山市上粟生野 105番地2	無
副代表理事	双木小百合	埼玉県入間市大字南峯 400番地4	無
副代表理事	宮林茂幸	埼玉県新座市東1丁目20番21号	無
理事	山道省三	東京都世田谷区経堂5丁目33番16-702号	無
理事	坂口泰一	奈良県吉野郡川上村大字西河525番地	無
理事	小田博之	島根県邑智郡羽須美村大字下口羽1089番地3	無
理事	川上 聡	三重県名張市桔梗が丘南1番町3街区40番地	無
理事	竹原和夫	岡山県岡山市東川原354番地18	無
理事	神谷 博	東京都世田谷区祖師谷3丁目48番16号	無
理事	鏑山英次	東京都小金井市前原町3丁目21番2号	無
理事	菅原 泉	東京都青梅市新町2丁目19番地の21	無
理事	鈴木眞智子	神奈川県川崎市中原区小杉御殿町2丁目47番地小杉御殿団地7-507	無
理事	吉中 力	島根県鹿足郡六日市町大字朝倉1167番地	無
理事	青柳 諭	山梨県北都留郡小菅村3336番地	無
理事	石川重人	山梨県塩山市上於曾1990番地	無
理事	北山郁人	東京都西多摩郡奥多摩町日原850番地	無
監事	雨宮清貴	山梨県塩山市千野3640番地4	無
監事	鷹野忠彦	山梨県塩山市上於曾1213番地4	無

資料 5 国土施策創発調査会議の経過について

< 10・1 第1回全体会議 >

10月1日午後1時から新宿御苑インフォメーションセンターと代々木オリンピック青少年センターで、国土施策創発調査全体会議が開催された。この全体会議には山梨県小菅村、早川町、奈良県吉野村、島根県六日市町、広島県大朝町、岡山県新庄村の各自治体及び北海道NPO法人しりべつリバーネット、岩手県の北上川流域連携交流会、山梨県の多摩川源流研究所、日本上流文化圏研究所、奈良県の(財)吉野川紀ノ川源流物語、三重県の木津川源流研究所、島根県のNPO法人アンダンテ21、NPO法人ひろしまね、熊本県のNPO法人緑川流域連携会議、宮崎県のNPO法人五ヶ瀬川流域ネットワークの代表が参加。学識者、専門家として高橋、宮林、菅原、山道、神谷の各氏が出席、関係省庁から環境省、国土交通省、林野庁の担当者が出席した。

国土施策創発調査の6つの目的を確認

全体会議では、出席者の自己紹介の後に環境省の佐藤さんから国土施策創発調査の全体像について説明が行われた。「源流再生プロジェクトのコンセプトと形成されるストックについて」と題して次の6つの源流調査の目的が示された。

第1は、源流域の21世紀の風土記(記録)プロジェクトを実施する。

第2に、源流域の可視化プロジェクトを実施する。

第3に、源流域ネットワークプロジェクトを実施する。

第4に、森林再生プロジェクトを実施する。零細で管理意欲が乏しい民有林を対象に、土地所有者に代わって森林の管理を図る仕組みを構築し国土の保全を図る。数カ所でモデル事業を実施し、そのノウハウをとりまとめる。

第5に、源流域を中心とした流域圏プロジェクトを実施する。源流域の資産・資源を活用した源流域の活性方法を流域圏的アプローチの観点から検討するとともに、国土の管理・保全についても検討を行う。

第6に、上下流連携促進プロジェクトを実施する。過疎化が進行する上流域の現状について流域全体が認識を深めるとともに市民が流域人であることを自覚してもらうために、流域内の水に関する情報提供ツールの充実と上下流連携のための仕組み作りを進める。

また、源流域の定義についてこの調査では「過疎化や少子高齢化の問題を抱え、それに伴い経済基盤や文化の衰退が著しくかつ、生活や生業を維持していくのが困難な源流域」と絞って源流域を定義したらどうかとの提案がなされた。

続いて関係各省庁の調査内容が詳しく報告された。(詳細は別紙報告書)

環境省

- 1 源流の自然環境調査
- 2 源流域の資源・文化調査

林野庁

- 1 源流の森林・林業の現況調査
- 2 森林再生モデル事業、効果の検証、全国展開

国土交通省

- 1 源流域の河川環境現況調査
- 2 上下流流の情報共有システム、上下流連携事例集、人材育成

山梨県小菅村

- 1 源流再生モデルの提言、住民意向調査と資源活用方策の検討
- 2 全国的なネットワーク形成事業について
- 3 源流景観再生事業について

など、各省庁から調査内容の概要が報告された。

各省庁の取り組みの内容と確認事項

環境省関係の「源流の自然環境に関する調査」はプロポーザル発注を行うこと。また「源流の資源、文化に対する調査」(この内の源流景観再生は神谷・法政大学グループへ)は島根県中山間地域研究センターに委託することが報告された。

林野庁からは、森林・林業現況調査は全国各地で専門家をお願いして実施すること、森林、林業再生モデル事業に関しては全国2カ所で実施すること。うち1カ所は多摩川源流・小菅村で実施し、もう1カ所は実施市町村及び実施事業を募集すること。

国土交通省は京浜河川事務所と九州地方整備局管内の2カ所で事業実施し、上下流交流促進のための普及啓発支援ツールの検討は九州地方整備局で実施すること。河川の生物生育環境調査及び源流域との上下流連携と人材育成の仕組み作りは多摩川源流を対象とすること、などが報告された。

小菅村・源流研究所が担当するネットワーク形成事業に関しては、「全国源流の郷協議会」の第1回全体会議を10月1日東京で、第2回全体会議を12月10日小菅村で、第3回全体会議を3月18日、島根県で行うことが提起された。なお、10月1日の「全国源流の郷協議会」準備会の立ち上げに関して、協議会の規約、事業計画、事業予算等の事前の準備が担当事務局で出来なかったため、準備会の設立は12月10日に持ち越されることになった。

第1回全体会議で出された質問、意見、提案は次の通り。

疲弊した源流の再生は重要だが大変である。各地で役立つデータであって欲しい。森林価値の数量化も検討して欲しい。

資源をGIS化しフィールドミュージアムとして活用しているが、インタープリターづくりが課題になっている。

源流は準平原である意味で人間が源流まで犯し尽くしている。源流の歴史、民俗を掘り下げることが大切である。人間と自然の関係を明らかにする上で神社の研究に取り組んでいる。

この種の取り組みでデータが役に立たないことが多い。むしろどんな支援の仕組みを作るのが大切である。

最初から使える、役に立つデータを作ることが重要である。源流資源・景観資源マップを作ったらどうか。景観法が出来て景観基礎調査が必要とされている。これから景観法をどう活用するか、景観自治体宣言、景観条例制定など視野に入れるべきだ。

景観とともに景観にとけ込む人々の暮らしや生活を視野に入れることが大切。

森林に関して経済林から環境材としての管理がますます大切になる。金になるところ、金にならないところのゾーニングがいる。また、住民意向調査を通じて森林の活性度を調査する必要がある。

景観・文化・古道・地名などは源流の営みと関係している。科学的なデータを収集し各地の源流の特性に基づく類型化、マニュアル化、政策化を図る必要がある。

流域では必要なときに必要な情報が手に入るシステムと、源流からリアルタイムで情報が提供できるツールづくりが必要だろう。

交流を通して産業を興すこと、交流が進み、人間関係が広がっていく、どんな仕組みがあれば食べていけるかを探求すること。

調査のどこに加わったらいいか、わからない。どんな調査に加われるのか、他にも住民意向調査は出来るのか。

敢えていえば運動調査がいる。みんなで地域の宝を探る。協働を通して地域が元気になることが大切。それを持ち合って調査のマニュアル化を図る手法をとって欲しい。

テーマを決めて住民を動かして経験を積んでいく必要がある。

全国各地で水や森に対してどんな取り組みがやられているのか、とりまとめてみることもあっていい。

源流とは何か、こうやって集まってみんなでやろうととっかかりが出来たことが大切でこれでスタートに着いたと思う。今後全国源流一斉調査、小菅モデルの構築、全国各地のデータの比較・研究など重要だ。

こういう調査に参加できると提案はないのだろうか。気に入らないコンサルのもとでこんな事をしてほしいといわれても困る。コンサルの下請けはやりたくない。

レッドデータ集落が多い。手伝えることはないかといっても「いらんおせっかいだ」「もう堪忍して」という返事が返ってくる。お金はイラン、「ヨメがほしい」と言う返事。集落をどう維持していくかが一番の課題。

源流はいわば聖地。源流独自の価値がある。太平洋文化と日本海文化は源流の尾根、尾根で共有している。大きな人のネットワークがある。流域発想を超えるものがある。

源流の好きな人は多い。何もないが変えて欲しくない。源流はムラがあるから守られる。源流の素晴らしさとムラの存在意義を伝えていくことが大切。

< 11・30 国土創発調査会議 >

国土施策創発調査打ち合わせが11月30日、千代田区霞が関の経済産業省別館で行わ

れた。参加者は、小菅村の青柳課長、奥秋リーダー、源流研究所の中村所長、中川研究員、東京農業大学の菅原助教授、全国水環境交流会の山道代表、法政大学エコ地域デザイン研究所の神谷さん、環境省の佐藤補佐、立田さん、国土交通省の真屋さん、国土地理院の中島課長ら11名が参加した。

(2) 当日の打ち合わせの内容について

1) 法政大学の源流景観再生調査

景観委員会及び景観ワークショップ

本調査では、景観委員会と景観ワークショップの二つの次元で検討を行う。

景観ワークショップ 構成は住民、役場、源流ファンクラブ、法政大エコ研

景観委員会 構成は住民代表、村長、学識経験者、広域行政機関

2) 河川局からの提案

上下流連携促進のための普及啓発支援ツールの検討

源流再生プロジェクト

- ・上下流連携 多摩川流域も視野に入れ、上下流交流促進をめざした人材育成を図るため、源流域で実施している活動や指導者育成などの事例を収集・整理し流域情報交流ネットを検討する。
- ・河川環境調査 源流域において、源流再生モデル構築を目的に、源流域に関する資料を収集し、環境定量評価手法を用いて源流域における河川再生モデル計画を策定する。

3) 環境省の調査について

環境省からは関係する調査業務内容に関して、源流の自然環境に関する調査は、プロポーザル発注にかけ、今その手続きが進行していることなどが報告された。

4) 12月10日の源流再生プロジェクト打合せ議事

環境省、林野庁、河川局、小菅村などからの現状報告

5) 今後の日程について

- ・国土施策創発調査打ち合わせ・全国源流の郷協議会
- ・2005年3月16日から17日 16日時 開会

< 12・10 第2回全体会議 >

国土施策創発調査打ち合わせが12月10日、山梨県小菅村会議室で行われた。参加者は、高橋裕先生、鏑山英次さん、小菅村の青柳課長、奥秋リーダー、源流研究所の中村所長、中川研究員、全国水環境交流会の山道代表、法政大学エコ地域デザイン研究所の神谷さん、環境省の佐藤補佐、立田さん、国土交通省の真屋さん、国土地理院の中島課長ら

11名が参加した。

(2) 当日の打ち合わせの内容について

1) 法政大学の源流景観再生調査

景観委員会及び景観ワークショップ

本調査では、景観委員会と景観ワークショップの二つの次元で検討を行う。

景観ワークショップ 構成は住民、役場、源流ファンクラブ、法政大エコ研

景観委員会 構成は住民代表、村長、学識経験者、広域行政機関

2) 河川局からの提案

上下流連携促進のための普及啓発支援ツールの検討

源流再生プロジェクト

- ・上下流連携 多摩川流域も視野に入れ、上下流交流促進をめざした人材育成を図るため、源流域で実施している活動や指導者育成などの事例を収集・整理し流域情報交流ネットを検討する。
- ・河川環境調査 源流域において、源流再生モデル構築を目的に、源流域に関する資料を収集し、環境定量評価手法を用いて源流域における河川再生モデル計画を策定する。

3) 環境省の調査について

環境省からは関係する調査業務内容に関して、源流の自然環境に関する調査は、プロポーザル発注にかけ、今その手続きが進行していることなどが報告された。

4) 12月10日の源流再生プロジェクト打合せ議事

環境省、林野庁、河川局、小菅村などからの現状報告

5) 今後の日程について

- ・国土施策創発調査打ち合わせ・全国源流の郷協議会
- ・2005年3月16日から17日 16日時 開会

< 3・16 第3回 全体会議 >